

高崎市文化財調査報告書第 502 集

萩原柳ノ内遺跡

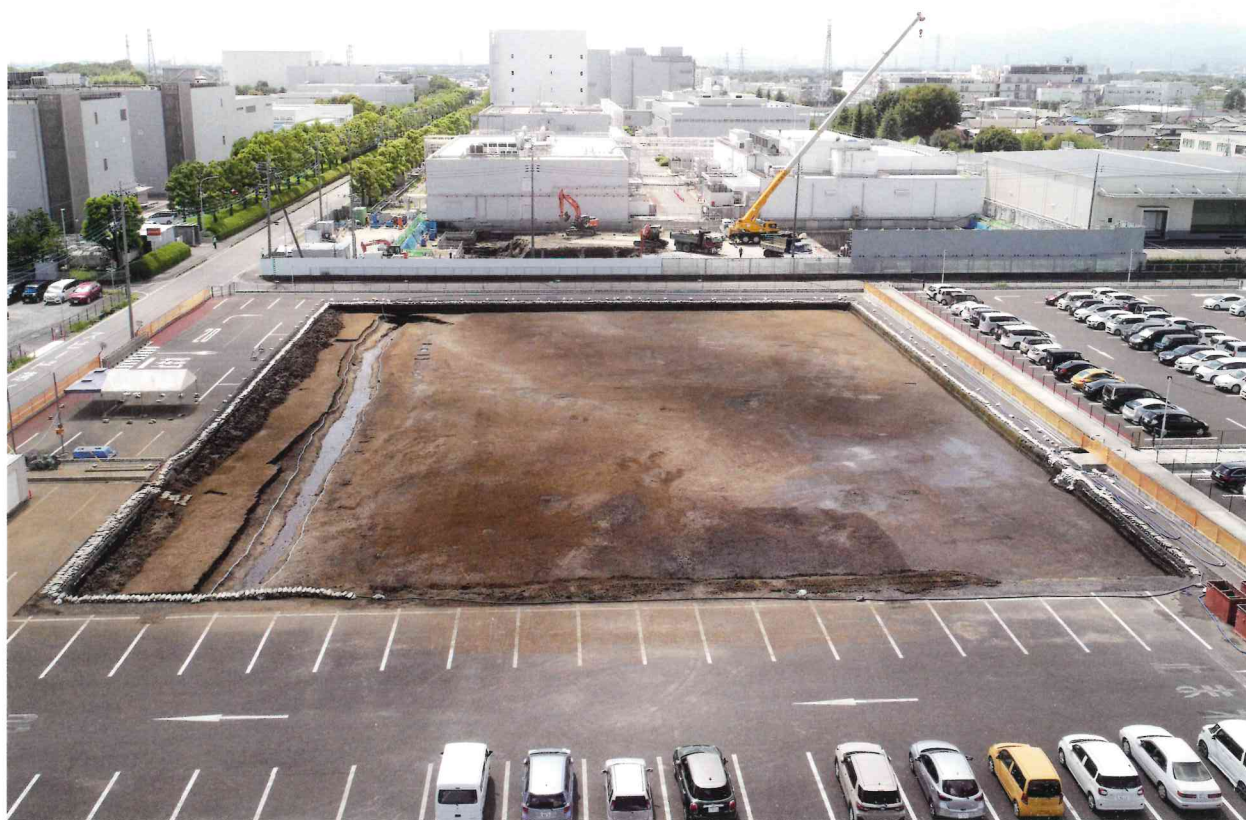
—協和キリン高崎工場C地区倉庫棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2 0 2 3

高 崎 市 教 育 委 員 会
協 和 キ リ ン 株 式 会 社
技 研 コ ン サ ル 株 式 会 社



遺跡の位置（上が北）
国土画像情報（ckt-80-1 c8 11、1980年撮影）に一部加筆



As-C軽石混土層下面全景（北から）



SD 3全景（南から）



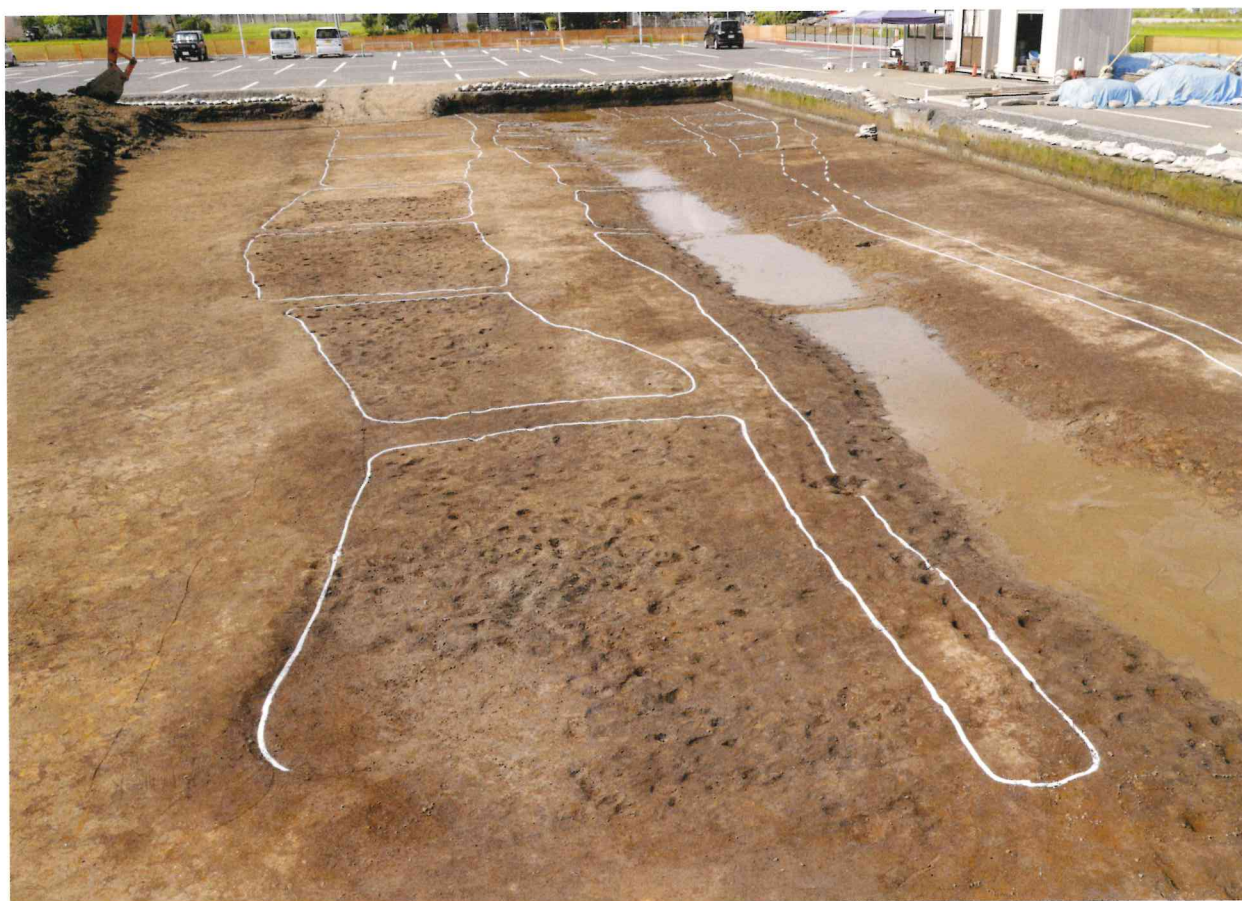
Hr-FA洪水層下水田全景（北から）



SD 1 全景（南から）



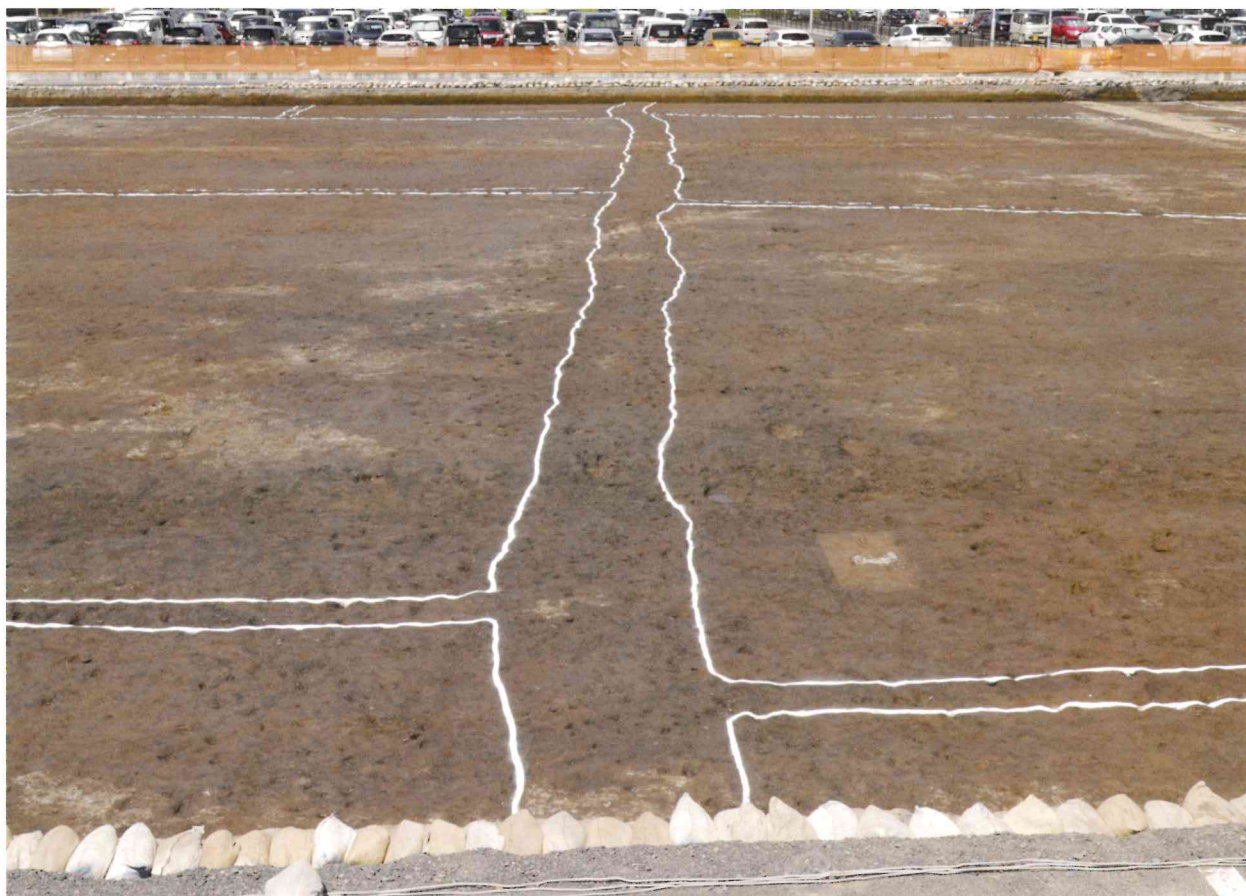
SD 1・Hr-FA洪水層下水田全景（南東から）



SD 1・Hr-FA洪水層下水田全景（南から）



As-B軽石下水田全景（北東から）



As-B軽石下水田大畦畔全景（東から）

例 言

- 1 本報告書は協和キリン株式会社生産本部高崎工場C地区倉庫棟建設に伴う「萩原柳ノ内遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、協和キリン株式会社の費用負担によって実施された。記して感謝の意を申し上げます。
- 3 遺跡の発掘調査および整理作業は、協和キリン株式会社からの委託を受けた技研コンサル株式会社が、高崎市教育委員会文化財保護課の監理指導のもと実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の体制は下記のとおりである。

遺跡名	萩原柳ノ内遺跡
市遺跡コード	873
遺跡所在地	高崎市萩原町字柳ノ内 241-2、254-1、241-2 先水路、・道路、254-1 先水路
監理指導	高崎市教育委員会文化財保護課
発掘・整理担当	佐野良平（技研コンサル株式会社）
調査員	曾根 裕（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和5年6月1日～令和5年 8月31日
整理・報告書作成期間	令和5年9月1日～令和5年12月15日
調査面積	3,862 m ²

- 5 本書の編集は佐野が行い、原稿執筆については第1章を高崎市教育委員会文化財保護課、他を佐野が担当した。
- 6 発掘調査・整理作業参加者は次のとおりである。
大川明子（技研コンサル株式会社）
秋山 修 青木美好 浅香孝子 新井 實 安藤三枝子 飯田真也 上沢公一 宇賀神光 江原正良
岡部四郎 岡本陽一 萩原一行 小内武明 金子沢生 鎌田 昇 鴨田榮作 川野京子 菊田武明
木暮朱実 北爪二郎 櫻井未来 澤崎春希 関根信子 関根 勝 高津邦道 立川千栄子 田所順子
土屋和美 角田拓弥 富岡信行 中沢孝夫 中嶋香織 中嶋千恵子 萩原愛実 羽鳥眞臣 早川枝里奈
平井国栄 平澤小夜子 古澤昌夫 細野竹美 松下 明 松本兼太郎 村田稔男 矢島正志 山岸明日香
山口拓郎 山田 進
- 7 発掘調査で出土した遺物および図面等の資料は、一括して高崎市教育委員会に保管されている。
- 8 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。
キリンエンジニアリング株式会社 戸田建設 山下工業株式会社

凡 例

- 1 全体図および遺構平面図に示した方位は北に座標北を表し、座標については世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。
- 2 挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『高崎』『前橋』、高崎市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
- 3 巻頭図版1は国土画像情報（カラー空中写真）ckt-80-1 c8 11を使用した。
- 4 土層および遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票

監修) に拠る。

5 遺構表示の記号は、溝：SDとした。

6 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構 水田・・・1/60、1/100 全体図・・・1/300

遺物 土器・・・1/3、 石器・・・1/1

7 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

8 断面図上の記号（←→）は水田畦畔の範囲を示す。

9 主な火山灰降下物等の略称と年代は次のとおりである。

浅間 A 軽石 (As-A)・・・天明三年 (1783) 浅間山噴火による降下テフラ

浅間 B 軽石 (As-B)・・・嘉承三年、天仁元年 (1108) 浅間山噴火による降下テフラ

榛名ニッ岳伊香保テフラ (Hr-FP)・・・6 世紀中葉の榛名山ニッ岳噴火による降下テフラ

榛名ニッ岳伊香保テフラ (Hr-FA)・・・5 世紀末～6 世紀初頭の榛名山ニッ岳噴火による降下テフラ

浅間 C 軽石 (As-C)・・・3 世紀後葉～4 世紀初頭の浅間山噴火による降下テフラ

目 次

巻頭図版

例言・凡例

第 1 章 調査に至る経緯	1
第 2 章 遺跡の位置と環境	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	2
第 3 章 調査方針と経過	9
1 調査範囲と基本方針	9
2 調査経過	9
第 4 章 基本土層	11
第 5 章 遺構と遺物	11
1 第 3 面 (As-C 軽石混土層下面)	11
2 第 2 面 (Hr-FA 洪水層下水田)	28
3 第 1 面 (As-B 軽石下水田)	48
第 6 章 まとめ	66

挿図目次

第 1 図 遺跡の位置		第 14 図 第 3 面平面図 (8)	20
第 2 図 高崎の地質	1	第 15 図 第 3 面平面図 (9)	21
第 3 図 周辺遺跡図	3	第 16 図 第 3 面平面図 (10)	22
第 4 図 調査区設定図 (1/3,000)	10	第 17 図 第 3 面平面図 (11)	23
第 5 図 基本土層	11	第 18 図 第 3 面平面図 (12)	24
第 6 図 第 3 面全体図	12	第 19 図 SD 3 断面図	25
第 7 図 第 3 面平面図 (1)	13	第 20 図 第 3 面出土遺物 (1)	25
第 8 図 第 3 面平面図 (2)	14	第 21 図 第 3 面出土遺物 (2)	26
第 9 図 第 3 面平面図 (3)	15	第 22 図 Hr-FA 洪水層下水田畦畔名称図	28
第 10 図 第 3 面平面図 (4)	16	第 23 図 第 2 面全体図	29
第 11 図 第 3 面平面図 (5)	17	第 24 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (1)	30
第 12 図 第 3 面平面図 (6)	18	第 25 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (2)	31
第 13 図 第 3 面平面図 (7)	19	第 26 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (3)	32

第27図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（4）	33	第44図	As-B 軽石下水田平面図（5）	54
第28図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（5）	34	第45図	As-B 軽石下水田平面図（6）	55
第29図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（6）	35	第46図	As-B 軽石下水田平面図（7）	56
第30図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（7）	36	第47図	As-B 軽石下水田平面図（8）	57
第31図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（8）	37	第48図	As-B 軽石下水田平面図（9）	58
第32図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（9）	38	第49図	As-B 軽石下水田平面図（10）	59
第33図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（10）	39	第50図	As-B 軽石下水田平面図（11）	60
第34図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（11）	40	第51図	As-B 軽石下水田平面図（12）	61
第35図	Hr-FA 洪水層下水田平面図（12）	41	第52図	As-B 軽石下水田断面図（1）	62
第36図	Hr-FA 洪水層下水田断面図（1）	42	第53図	As-B 軽石下水田断面図（2）	63
第37図	Hr-FA 洪水層下水田断面図（2）	43	第54図	As-B 軽石下水田断面図（3）	64
第38図	Hr-FA 洪水層下水田断面図（3）	44	第55図	As-B 軽石下水田面・畦畔名称図	64
第39図	第1面全体図	49	第56図	本遺跡周辺のAs-C軽石混土層下の遺構	67
第40図	As-B 軽石下水田平面図（1）	50	第57図	本遺跡周辺のHr-FA洪水層下水田	68
第41図	As-B 軽石下水田平面図（2）	51	第58図	本遺跡周辺のAs-B 軽石下水田と坪内区画	70
第42図	As-B 軽石下水田平面図（3）	52	第59図	萩原柳ノ内遺跡周辺の畦畔想定図	71
第43図	As-B 軽石下水田平面図（4）	53			

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	5
第2表	遺物観察表	27
第3表	Hr-FA 洪水層下水田計測表	45
第4表	As-B 軽石下水田計測表	65
第5表	As-B 軽石下水田畦畔計測表	65

写真図版

PL.1	第3面全景 第3面北東部全景	PL.11	SD 1・Hr-FA 洪水層下水田東側全景
PL.2	第3面南東部全景 第3面南西部全景		SD 1・Hr-FA 洪水層下水田南側全景
PL.3	第3面北西部全景 第3面全景	PL.12	SD 1・Hr-FA 洪水層下水田東側全景
PL.4	SD 3 全景 SD 3 南側全景 SD 3 中央部全景		Hr-FA 洪水層下水田東側全景
PL.5	SD 3 北側全景 SD 3 木杭出土状況 SD 3 ビット状遺構全景	PL.13	Hr-FA 洪水層下水田大畦畔全景
	SD 3 調査区南壁断面状況	PL.14	水口1 全景 水口2 全景 水口3 全景 水口4・5 全景
PL.6	Hr-FA 洪水層下水田全景		SD 2 全景
PL.7	Hr-FA 洪水層下水田北東部全景	PL.15	As-B 軽石下水田全景 As-B 軽石下水田北東部全景
	Hr-FA 洪水層下水田南東部全景	PL.16	As-B 軽石下水田南東部全景 As-B 軽石下水田南西部全景
PL.8	Hr-FA 洪水層下水田南西部全景	PL.17	As-B 軽石下水田北西部全景 As-B 軽石下水田西側全景
	Hr-FA 洪水層下水田北西部全景	PL.18	As-B 軽石下水田西側全景 As-B 軽石下水田北側全景
PL.9	Hr-FA 洪水層下水田全景	PL.19	As-B 軽石下水田南側全景 As-B 軽石下水田東側全景
	Hr-FA 洪水層下水田北側全景	PL.20	As-B 軽石下水田東側全景 As-B 軽石下水田大畦畔全景
PL.10	Hr-FA 洪水層下水田北側全景	PL.21	As-B 軽石下水田畦畔B 全景 As-B 軽石下水田畦畔H 全景
	Hr-FA 洪水層下水田北西側全景	PL.22	As-B 軽石下水田畦畔I 全景 As-B 軽石下水田畦畔O・P 全景
	Hr-FA 洪水層下水田東側全景	PL.23	置石1 検出状況 置石2 検出状況 耕作具痕検出状況 作業風景
	SD 1・Hr-FA 洪水層下水田東側全景	PL.24	出土遺物

第1章 調査に至る経緯

令和4年11月、土地所有者（協和キリン株式会社生産本部高崎工場、以下「事業者」と略す）から高崎市萩原町字柳ノ内において倉庫建設を計画しており、当該地の埋蔵文化財取り扱いについて照会が市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。

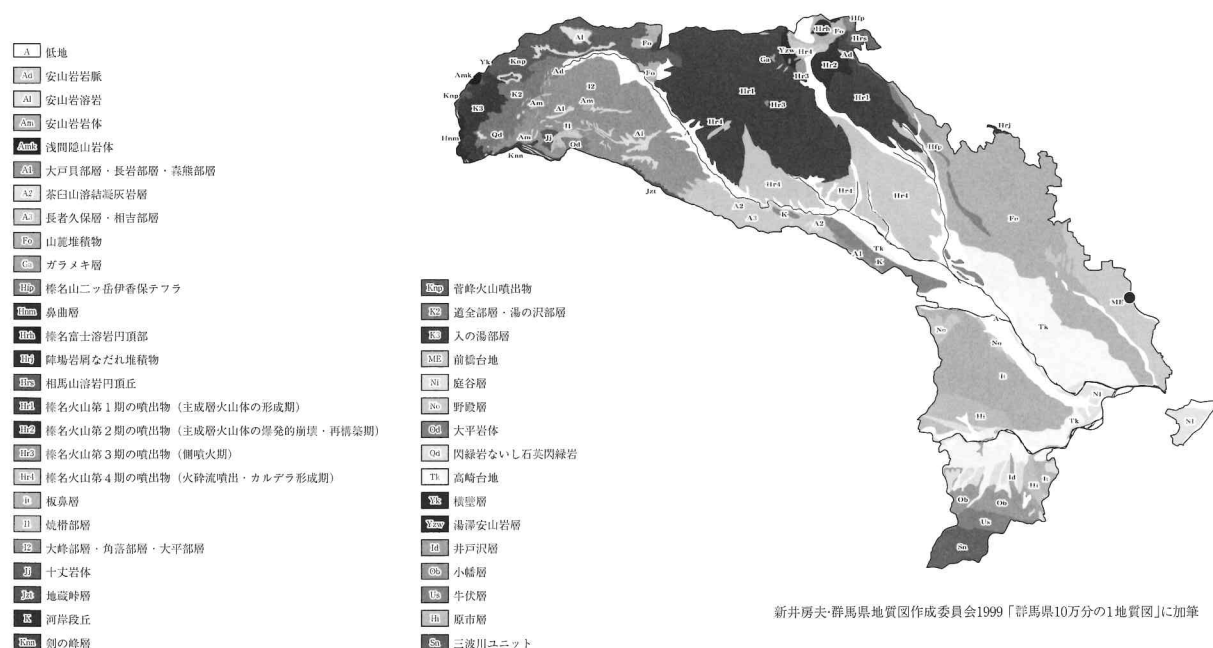
開発対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地（27C01・水田跡）に該当し、開発工事に先立ち協議が必要であると回答した。同年11月、市教委に試掘確認調査依頼書が提出され、令和5年2月2日に調査を実施した（R4-63）。その結果、古代の水田遺構等を確認し、事業者と市教委で埋蔵文化財の保存について協議を行ったが、現状保存は困難との結果となり、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。遺跡名は「萩原柳ノ内遺跡」とし、発掘調査は、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に順じ、令和5年4月27日、事業者・技研コンサル株式会社との間で契約締結を行い、調査監理は市教委が実施することとなった。

第2章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境（第2図）

「萩原柳ノ内遺跡」は高崎市萩原町に所在し、高崎市中心街から東へ約6kmの市域東端部に位置する。東側には利根川が高崎市と前橋市の市境を南流し、南西側には滝川が北西から南東へ向かって流れている。この滝川は江戸時代初期に開削された用水路（天狗岩用水）であり、現在でも周辺や下流域の水田を潤している。

本遺跡は約24,000年前（洪積世後期）の浅間山を構成する黒斑山の大規模噴火に伴う山体崩落による火山泥流堆積物（前橋泥流）と、それを被覆する水成ローム層から成る前橋台地に立地する。遺跡の東側を南流する利根川は、中世以前には現在の広瀬川が流れる広瀬川低地帯に流路があったが、中世の複数回にわたる洪水により



第2図 高崎の地質

旧河川の流路を奪取する形で現在の位置に変流したとされている。遺跡は台地の微高地と後背湿地が複雑に入り組んだ地形の後背湿地の部分に位置する。現在では相馬ヶ原扇状地を水源とする中小河川沿いの自然堤防上の微高地は宅地、その後背湿地は水田として利用されている。また近年では、道路整備や商業施設の出店等により田畑の宅地化が進んでいる地域である。

2 歴史的環境（第3図、第1表）

縄文時代 縄文時代の遺跡は当該地域では少なく、公田池尻遺跡（31）の土坑、西田Ⅲ遺跡（46）で草創期の有舌尖頭器、横手湯田遺跡（39）で溝底部より中～後期にかけての土器片が出土しているだけである。本遺跡の南西方向に位置する元島名遺跡（57）では長方形土坑から後期の深鉢が出土しており、土器周囲からは炭化物が検出されている。上記以外の遺構やまとまった遺物の出土例は現在のところ知られていないが土器片や石器が広範囲に分布していることから小規模な集落が点在していた可能性が考えられる。

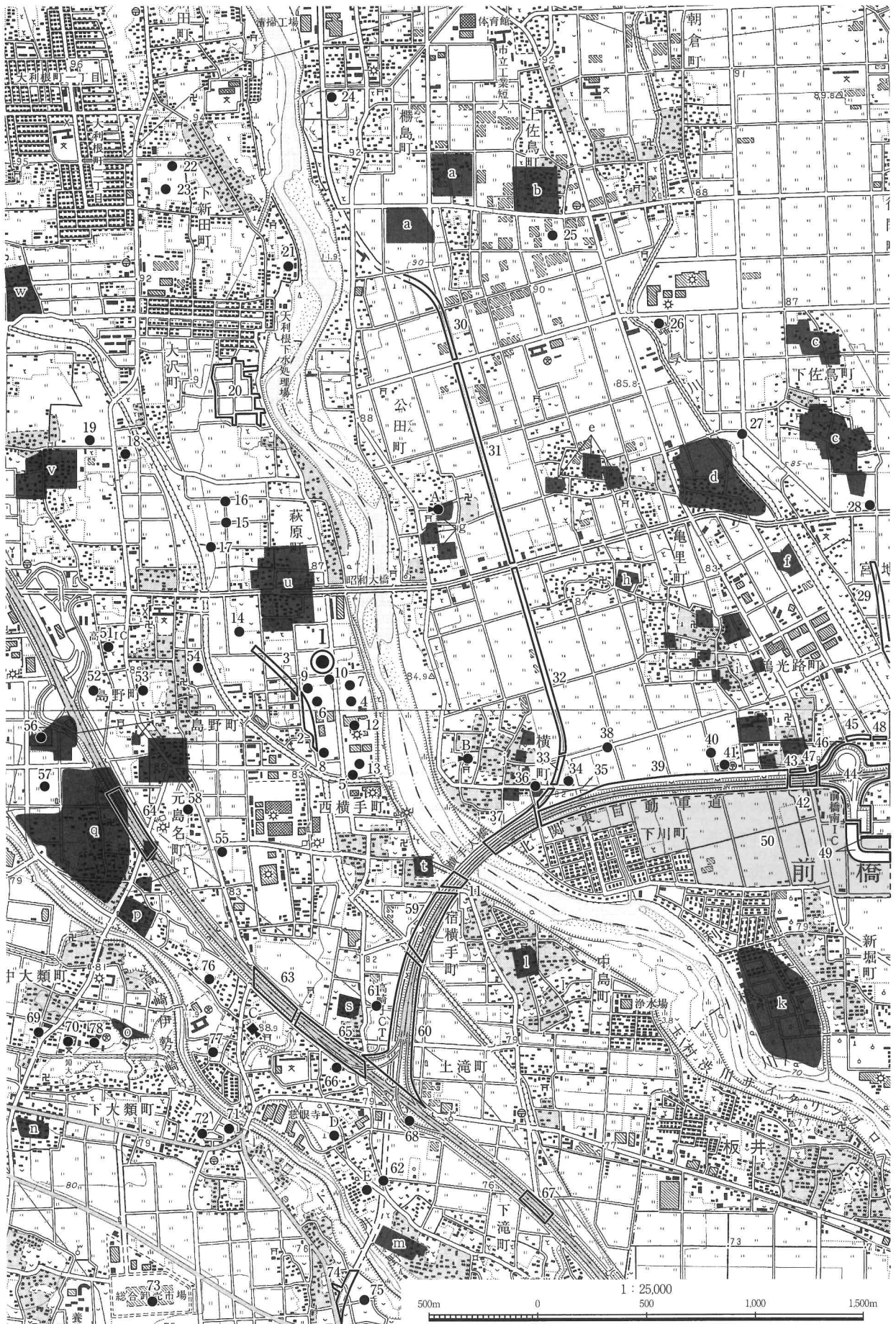
弥生時代 利根川流域周辺では縄文時代と同様に遺構は少ない。櫛島川端遺跡（24）では中期の再埋葬と後期の住居跡、公田池尻遺跡では弥生期の水田の存在を窺わせる用水路跡が確認されている。本遺跡南西の井野川周辺に目を移すと元島名遺跡や鈴ノ宮遺跡では集落跡や方形周溝墓が確認されている。また関越自動車道沿線を北西に進むと集落や水田跡が確認された国指定史跡の日高遺跡が存在する。

古墳時代 古墳時代の遺跡は前時代に比べ飛躍的に増加する。いままで過疎地ともいえる地域（低地部）に新たな大開発を目的に人々が進出し、微高地に集落を造り低地には水田を営み、井野川や烏川流域に有力者の墳墓が造営されるようになる。本遺跡に近い井野川左岸には県内最古の古墳として位置付けられている全長90mの前方後方墳である元島名將軍塚古墳（C）や1966年の調査で複室構造の両袖型横穴式石室が確認された前方後円墳である前山古墳（D）、横穴式石室をもつ全長30mの前方後円墳である御伊勢山古墳（E）があり、井野川下流域には数多くの副葬品や埴輪が出土した国指定史跡の綿貫観音山古墳や舟形石棺をもつ不動山古墳等が存在する。西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ（12）、櫛島川端遺跡、公田東遺跡（30）、綿貫遺跡（75）では周溝墓が確認されている。また井野川左岸にあたる下滝天水遺跡（62）では5世紀に推定される居館の堀跡の一部が確認されており、周辺域を治めていた豪族の居館跡と推定されている。

集落遺跡として前期では公田池尻遺跡、横手湯田遺跡、横手早稲田遺跡（35）、上滝遺跡（65）、綿貫遺跡、後期では下佐鳥遺跡（26）、川曲遺跡（27）、公田東遺跡、上滝榎町北遺跡（60）、上滝遺跡、中大類金井遺跡（69）、中大類金井分遺跡（70）、下大類遺跡（73）、綿貫遺跡等が挙げられる。本遺跡の直近では萩原・沖中遺跡8（8）・萩原・沖中遺跡9（9）で前期の周溝状遺構が確認されている。集落の分布域を見てみると主に井野川兩岸の河岸段丘上の低台地に集中していることがわかる。井野川左岸の段丘より北西の低地部では集落遺跡が皆無に等しく生産域として活用された地域であったようである。

生産遺跡としての水田跡は近年の発掘調査事例の増加に伴い本遺跡の立地する低地部において広範囲に亘って確認されている。本遺跡周辺では6世紀初頭と中葉の2回の榛名山噴火時の泥流や火山灰で埋没した水田（Hr-FA下水田、Hr-FP下水田）が確認され、そのほとんどが小畦畔で区画されている「小区画水田」である。

奈良・平安時代 律令制に伴い、現在で言う「都市計画」的な開発が行われた時期である。前橋市元総社町付近には国府が造営され、台地上は条里地割に基づく大規模な耕地開発が行われた。施工時期については不明な点も多いが、前橋台地の北東側、広瀬川低地帯にある中原遺跡（前橋市）の調査では、弘仁九年（818）に起きた地震に起因する泥流堆積物直下から、条里地割を伴う水田跡が確認されている。台地上においても砂町遺跡（玉村町）では大畦畔成立時期は8世紀後半と考えられており、西田遺跡では9世紀後半代の竪穴住居跡を切って条里地割を伴う水田跡が検出していることから、遅くとも9世紀代には水田開発が行われたと考えられる。嘉承三年、天仁元年（1108）の浅間山の噴火に起因するAs-B軽石層に覆われた水田跡は、本遺跡周辺ではほぼすべての調



第3図 周辺遺跡図

査地点で検出している。この時期に耕地が爆発的に増大したことがわかる。しかしながら、承平・天慶の乱や度重なる利根川の氾濫・洪水等の自然災害、承和年間（834～848）の飢饉・疫病の流行等により荒廃と再開発が繰り返される。その過程で耕地開発の主が土着有力氏族の支配下へと移っていったと考えられる。

当期の集落遺跡は前時代同様自然堤防上等の微高地に分布しており公田東遺跡、公田池尻遺跡、西田遺跡（44）、西田Ⅱ遺跡（45）、西田Ⅵ遺跡（48）、下滝天水遺跡、上滝遺跡、中大類金井分遺跡、下大類蟹沢遺跡（71）、下大類遺跡、綿貫小林前遺跡（74）、綿貫遺跡が挙げられる。

中世 享徳三年（1454）、鎌倉公方足利成氏による関東管領上杉憲忠の誅殺に端を発し、関東全域を二分して文明十四年（1482）までの約30年間戦乱が続くこととなる（享徳の乱）。両陣営の境目となる利根川の流域付近では軍事的緊張感が高まり、それに伴い攻撃・防御拠点となる城館が多く造られるようになる。文明八年（1476）、上杉家中の分裂争いから長尾景春が鉢形城（埼玉県寄居町）で挙兵し、上杉方の重要拠点である五十子陣（埼玉県本庄市）を急襲する（長尾景春の乱）。この陣にいた上杉顕定は陣所の維持が困難となったため阿内城（阿内古城、f）へ撤退することとなる（『松陰私語』）。文明九年（1477）、足利成氏はこれを好機とみて、滝（市内上滝町・下滝町周辺）、島名（市内元島名町）に進出し陣所を構える（『松陰私語』）。このことから本遺跡周辺地域もこの戦乱の渦中にあったことが窺える。

戦国時代になると上野国内は甲斐の武田氏、越後の上杉氏、相模の北条氏等、外来勢力の侵攻により草刈り場の様相を呈する。地元の支配層はその勢力に対抗、または服従し自領の保全に努めた。そういった状況下から高崎市東南部～伊勢崎市西部にかけての微高地上に地元の有力氏族や外来支配者によって城館が数多く造られる。本遺跡に近い萩原城（v）は地侍である萩原地衆の16世紀代の城館とされている。萩原は永禄三年（1560）長尾景虎（上杉謙信）が関東侵攻の際に、上野国内の「衆」と呼ばれる地域連合集団（箕輪衆・沼田衆など）に対して服属の意思として名を記載した名簿「関東幕注文」の惣社衆の一人として名がみられる。惣社衆は蒼海城（前橋市元総社町）を本拠とする長尾氏（関東管領上杉氏の家宰）が統率し、萩原の他に安中氏、小幡氏、多比良氏、大類氏、多胡氏、瀬下氏等の名がみられ、やや広範囲に亘って連合集団を形成していたことがわかる。その中で萩原城は蒼海城を中心とした連合支城群の一つとして機能していたと考えられる。本遺跡南西に位置する元島名城（q）は昭和53年に発掘調査が行われている。調査では本丸と推定される郭の堀跡や掘立柱建物跡・井戸等が確認され、遺物は内耳鍋・鉢等の軟質陶器や瀬戸・美濃等の陶磁器を中心に出土している。石製品の中には石臼・五輪塔の他に延慶二年（1309）の銘がある板碑が出土している。こういった城館は近年の圃場整備や開発等により削平され、そのほとんどが堀跡をわずかに残すのみである。

近世 天明三年（1783）浅間山が噴火し県内全域に火山灰（As-A）が降灰し吾妻川へと流れ込んだ泥流は利根川を伝って下流域へ被害をもたらした。降り積もった火山灰を地中に埋めて処理した所謂「復旧痕（灰掻き穴）」は横田湯田遺跡、横手井戸南遺跡（36）、西横手南川端遺跡（37）、下阿内壱町畑遺跡（49）、宿横手三波川遺跡（59）で確認されている。本遺跡から南東へ約5kmの位置にある上福島中町遺跡では利根川を流下した泥流下から被害を受けた集落跡が確認された。1.5mの厚さで堆積した泥流は建物跡・便所・井戸・畠を呑み込んでおり、建物跡から出土した数多くの生活用具が建物外へ移動していない点から泥流はゆっくりと押し寄せていったと考えられている。

第1表 周辺遺跡一覧表

遺跡

No	遺跡名	水 田				時代：主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	FP	B		
1	萩原柳ノ内遺跡		○		○	古墳：溝	本報告書
2	萩原沖中遺跡		○	○	○	近世：溝	『萩原沖中遺跡』2005 高崎市教育委員会
3	萩原沖中Ⅱ遺跡		○	○	○	近世：溝	『萩原沖中遺跡Ⅱ』2007 高崎市教育委員会
4	萩原沖中遺跡 第3次調査		○	○	○	古墳：土坑・ピット・溝	『萩原沖中遺跡第3次調査』2009 高崎市教育委員会
5	萩原沖中遺跡5		○	○	○	－	『萩原沖中遺跡5』2009 高崎市教育委員会
6	萩原・沖中遺跡6		○	○	○	－	『萩原・沖中遺跡6』2009 高崎市教育委員会
7	萩原・沖中遺跡7		○	○	○	中近世：土坑	『萩原・沖中遺跡7 西横手・西免遺跡4 西横手・西免遺跡5』2013 高崎市教育委員会
8	萩原・沖中遺跡8		○		○	古墳：周溝状遺構・埋甕、中近世：溝	『萩原・沖中遺跡8』2015 高崎市教育委員会
9	萩原・沖中遺跡9		○	○	○	古墳：周溝状遺構、中近世：溝	『萩原・沖中遺跡9』2022 高崎市教育委員会
10	萩原沖中遺跡10		○	○	○	－	『萩原沖中遺跡10』2023 高崎市教育委員会
11	西横手遺跡群	○	○	○		古代：住居跡・掘立柱建物跡、 中近世：屋敷跡・墓壇群	『西横手遺跡群』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
12	西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ		○		○	古墳：周溝墓・水路跡、中世：畝状遺構、 近世：備前堀	『西横手遺跡群Ⅰ』1989 高崎市教育委員会 『西横手遺跡群Ⅱ』1990 高崎市教育委員会
13	西横手・西免遺跡4、 西横手・西免遺跡5		○		○	近世：備前堀	『萩原・沖中遺跡7 西横手・西免遺跡4 西横手・西免遺跡5』2013 高崎市教育委員会
14	萩原八幡坤遺跡		○			－	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告17』2003 高崎市教育委員会
15	萩原上五丁田Ⅰ遺跡		○	○	○	－	『群馬県高崎市 萩原上・下五丁田Ⅰ遺跡』1999 県央処理区萩原遺跡調査会
16	萩原上五丁田Ⅱ遺跡		○	○	○	古墳：溝	『群馬県高崎市 萩原上五丁田Ⅱ遺跡』2001 県央処理区萩原遺跡調査会
17	萩原八幡西・ 萩原上五丁田Ⅲ・ 下五丁田Ⅱ遺跡		○	○		古代：溝、中世：道路跡	『萩原八幡西・萩原上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡』2003 高崎市教育委員会
18	京目杉ノ内・ 大沢大沢西遺跡				○	近世：溝	『京目杉ノ内・大沢大沢西遺跡』1999 高崎市教育委員会
19	京目久保・天神前・ 柳ノ内・上小路遺跡		○		○	中世：堀・溝	『京目久保・天神前・柳ノ内・上小路遺跡』2000 高崎市教育委員会
20	萩原団地遺跡	○	○	○	○	近世：畝状遺構・溝	『萩原団地遺跡』1993 高崎市遺跡調査会発掘調査団
21	下新田遺跡					古墳：住居跡、近世：備前堀	『下新田遺跡』1979 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
22	下新田沖中遺跡				○	－	『下新田沖中遺跡』1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
23	下新田沖中Ⅱ遺跡				○	－	『下新田沖中Ⅱ遺跡』1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
24	鰐島川端遺跡	○	○	○		弥生：住居跡・再葬墓、古墳：住居跡・ 掘立柱建物跡・方形周溝墓・祭祀跡・ 遺物集中	『鰐島川端遺跡』1996 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
25	上佐島中原前・ 上佐島中原前Ⅱ遺跡				○	－	『上佐島中原前遺跡』1998 『上佐島中原前Ⅱ遺跡』2004 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
26	下佐島遺跡					古墳：後期の住居跡	『須摩野遺跡・下佐島遺跡・宿阿内城跡』1983 群馬県教育委員会
27	川曲遺跡					古墳：後期の住居跡	『川曲遺跡・東公田古墳』1982 群馬県教育委員会

No	遺跡名	水 田				時代：主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	FP	B		
28	東田遺跡					古墳：前期の遺物出土	『東田遺跡』1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
29	宮地中田遺跡				○	—	『宮地中田遺跡』1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
30	公田東遺跡		○		○	古墳：方形周溝墓、古代：住居跡・掘立柱建物跡、中世：居館周濠・畠・井戸、近世：畠・溝	『礪島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡』1997 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
31	公田池尻遺跡		○	○	○	縄文：土坑、弥生：用水路跡、古墳：住居跡、古代：住居跡、中世：居館跡	『礪島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡』1997 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
32	亀里平塚遺跡		○		○	中世：水田跡	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
33	横手宮田遺跡	○	○		○	中世：水田跡	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
34	横手宮田Ⅱ遺跡				○	—	『横手宮田Ⅱ遺跡』2004 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
35	横手早稲田遺跡		○	○	○	古墳：前期の住居跡、中世：水田跡	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
36	横手井戸南遺跡				○	中世：水田跡、近世：As-A 泥流埋設土坑	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
37	西横手南川端遺跡		○			古墳：住居跡・祭祀跡・井戸、平安：溝、中近世：泥流水田跡、屋敷跡、灰掻き穴	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
38	亀里銭面遺跡・ 亀里銭面Ⅱ遺跡				○	中近世：掘立柱建物跡、井戸、土坑、溝	『亀里銭面遺跡』2001 『亀里銭面Ⅱ遺跡』2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
39	横手湯田・ 横手湯田Ⅱ～Ⅵ遺跡		○	○	○	古墳：前期周溝墓、住居跡、中世：居館、近世：環濠屋敷、As-A 復旧痕	『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横手湯田Ⅱ遺跡・西田Ⅱ遺跡』1998 『横手湯田Ⅲ遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅲ遺跡』1998 『横手湯田Ⅳ遺跡』1998 『横手湯田Ⅴ遺跡・徳丸仲田Ⅳ遺跡』2001 『横手湯田Ⅵ遺跡』2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
40	亀里油免Ⅱ遺跡				○	中世：溝	『亀里油免Ⅱ遺跡』2005 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
41	鶴光路練引遺跡				○	—	『鶴光路練引遺跡』1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
42	村中遺跡	○			○	中世：居館、近世：屋敷・墓墳	『西田遺跡・村中遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
43	村中Ⅱ遺跡					平安：溝・土坑	『村中Ⅱ遺跡・西田Ⅴ遺跡』2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
44	西田遺跡	○	○		○	平安：住居跡、近世：墓墳	『西田遺跡・村中遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
45	西田Ⅱ遺跡				○	平安：住居跡	『横手湯田Ⅱ遺跡・西田Ⅱ遺跡』1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
46	西田Ⅲ遺跡					縄文：草創期の有舌尖頭器、古墳：土坑・溝、平安：掘立柱建物跡、中近世：溝	『西田Ⅲ遺跡』1999 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
47	西田Ⅴ遺跡					平安：溝・土坑	『村中Ⅱ遺跡・西田Ⅴ遺跡』2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
48	西田Ⅵ遺跡				○	平安：住居跡・溝、中近世：溝	『西田Ⅵ遺跡』2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
49	下阿内壱町畑遺跡		○		○	古墳：円形建物跡・土器集積遺構・溝、近世：As-A 灰掻き穴	『下阿内壱町畑遺跡・下阿内前田遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

No	遺跡名	水 田				時代：主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	FP	B		
50	南部拠点地区遺跡群 No. 1		○		○	平安：溝・土坑・ピット、 中近世：溝・土坑・ピット	『南部拠点地区遺跡群 No. 1』2009 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
	南部拠点地区遺跡群 No. 2				○	古墳：溝・ピット、中近世：溝・土坑・ピット	『南部拠点地区遺跡群 No. 2』2009 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
	南部拠点地区遺跡群 No. 3				○	古墳～中近世：溝・土坑、近代：焼夷弾跡	『南部拠点地区遺跡群 No. 3』2009 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
	南部拠点地区遺跡群 No. 4		○		○	平安：溝・土坑、中近世：溝・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No. 4』2010 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 5		○		○	古墳：溝、中世：溝・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No. 5』2010 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 6				○	－	『南部拠点地区遺跡群 No. 6』2011 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 7				○	中世～現代：溝・土坑・ピット	『南部拠点地区遺跡群 No. 7』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 8				○	中世以降：溝・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No. 8』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 9				○	中近世：溝・土坑・ピット	『南部拠点地区遺跡群 No. 9』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No.10				○	古墳：住居跡・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No.10』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No.11		○		○	古墳：前期外周溝建物・井戸、古代：溜井状遺構・道路跡、中近世：掘立柱建物跡・柵列・溝	『南部拠点地区遺跡群 No.11』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No.12		○		○	古墳前期：周溝状遺構、古墳後期～近世：溝・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No.12』2022 前橋市教育委員会
51	島野神明遺跡					古代：As-B 下畠	『高崎市内六遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』1992 高崎市教育委員会
52	島野四辻遺跡				○	－	『飯塚新田西Ⅲ遺跡・島野四辻遺跡・第17回埋蔵文化財展事業報告』2000 高崎市教育委員会
53	島野村西遺跡		○		○	－	『高崎市内六遺跡埋蔵文化財発掘調査概報14』2000 高崎市教育委員会
54	島野村東遺跡				○	－	『島野村東遺跡』1988 高崎市教育委員会
55	島野中町遺跡		○		○	－	『高崎市内六遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』1992 高崎市教育委員会
56	元島名中子遺跡				○	－	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告13』1999 高崎市教育委員会
57	元島名遺跡					縄文：土坑、弥生：住居跡、古墳：前期の住居跡、中世：掘立柱建物跡	『元島名遺跡』1979 高崎市教育委員会
58	元島名諏訪北遺跡				○	－	『高崎市内六遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』1992 高崎市教育委員会
59	宿横手三波川遺跡		○	○	○	中世：掘立柱建物跡・土坑・畠、 近世：畠・溝・灰掻き穴	『宿横手三波川遺跡』1999 『宿横手三波川遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
60	上滝榎町北遺跡	○	○		○	古墳：後期の住居跡、中世：居館跡、 近世：水田跡	『上滝榎町北遺跡』2002 『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
61	上滝榎町北Ⅱ遺跡		○	○	○	中世：竪穴状遺構・掘立柱建物跡	『上滝榎町北Ⅱ遺跡』1997 高崎市遺跡調査会

No	遺跡名	水 田				時代：主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	FP	B		
62	下滝天水遺跡		○	○	○	古墳：住居跡・溝・剣形石製品、古代：住居、中世：掘立柱建物跡・溝、近世：水田・畠	『下滝天水遺跡』2004 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
63	元島名 A 遺跡					—	『八幡原 A・B、上滝、元島名 A 遺跡』1981 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
64	元島名 B 遺跡					中世：元島名城の堀・溝	『元島名 B・吹屋遺跡』1982 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
65	上滝遺跡					古墳：前期・後期の住居跡、古代：奈良期の住居跡、中世：居館周濠	『下斎田・滝川 A 遺跡、滝川 B・C 遺跡』1987 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
66	上滝Ⅱ遺跡		○	○		中世：堀切	『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
67	滝川 C 遺跡					古墳：前期の土坑	『下斎田・滝川 A 遺跡、滝川 B・C 遺跡』1987 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
68	上滝五反畑遺跡		○		○	近世：As-A 下水田	『上滝五反畑遺跡』1999 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
69	中大類金井遺跡					古墳：後期の住居跡、平安：土坑	『中大類金井遺跡』1989 高崎市遺跡調査会
70	中大類金井分遺跡					古墳：後期の住居跡、奈良：住居跡	『中大類金井分遺跡』1992 高崎市遺跡調査会
71	下大類蟹沢遺跡					古墳：古墳・集落、古代：集落	『下大類蟹沢遺跡』1993 高崎市遺跡調査会
72	下大類・中道下遺跡					古墳：溝・土坑、古代：溝	『下大類・中道下遺跡』2010 高崎市教育委員会
73	下大類遺跡					古墳：後期の住居跡、古代：住居跡	1978 調査 高崎市教育委員会
74	綿貫小林前遺跡					古墳前期・後期：集落、平安：集落、中世：居館周濠	『綿貫小林前遺跡』2006 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
75	綿貫遺跡					古墳：観音山古墳周濠・方形周溝墓・前後期の集落、古代：瓦葺建物跡・集落	『綿貫遺跡』1985 高崎市教育委員会
76	元島名旭遺跡 元島名旭遺跡 2					古墳：後期溝、近世：溝・土坑 古墳：前期溝、近世：溝・土坑 不明：コノ字状区画	『平成 22 年度市内遺跡発掘調査報告書』2011 高崎市教育委員会 『元島名旭遺跡 2』2017 高崎市教育委員会
77	元島名下河原遺跡					縄文：包含層、弥生：散布地、古墳：前期包含層・中～後期集落、古代：集落	『元島名下河原遺跡』1994 高崎市遺跡調査会
78	中大類・天田遺跡					古墳：散布地、古代：集落、中世：屋敷跡・区画溝	『中大類・天田遺跡』2011 高崎市遺跡調査会

古墳

No	古墳名	築造年代	古墳概要
A	下川淵 3 号墳	—	前方後円墳・後円部のみ残存
B	浅間神社古墳	—	前方後円墳・後円部一部残存
C	元島名将軍塚古墳	4 c	前方後方墳・粘土槨・四獣鏡・碧玉製石釧・大刀・鉈・二重口縁壺
D	前山古墳	6 c 末～7 c 初	前方後円墳・両袖型横穴式石室・馬具類
E	御伊勢山古墳	—	前方後円墳・横穴式両袖型石室（複室）

城館

No	名称	存続年代	築・在城者名	遺構・遺物	備考
a	福島屋敷	—	福島氏	堀、土居、戸口	元屋敷から西原へ移る。
b	中沢屋敷	—	—	堀、土居、戸口	条里制に深い関わりがある。
c	下佐島環濠集落	—	—	堀	数々の宅地が共有の堀で囲まれている。
d	宿阿内城	16 世紀	三輪右丹	堀、土居、戸口、櫓台、根小屋	近年破壊。

No	名称	存続年代	築・在城者名	遺構・遺物	備考
e	亀里環濠遺跡群	—	—	堀、4ヶ所の環濠遺構	天神屋敷は2重の堀で囲まれ良好に遺存。
f	阿内古城	文明九年（1477）	上杉顕定	—	—
g	三公田環濠遺跡群	—	—	堀	—
h	前田屋敷	—	—	2重の堀	—
i	鶴光路亀里環濠遺構群	—	—	堀、14ヶ所の環濠遺構	—
j	横手環濠遺構群	—	—	—	防水の小型遺構。近世のものか。
k	新堀城	16世紀	和田正盛	—	利根川氾濫により消滅。
l	田口屋敷	16世紀	田口業祐	堀、土居、板碑	—
m	下滝館	文明九年（1477）	足利成氏・大井田氏	堀、土居、戸口、井、別郭	文明九年、成氏7ヵ月間仮御所。近世天田氏居住。
n	大類寄居	—	柴崎地衆	堀、土居、戸口	近年破壊。根岸氏居住。
o	降照屋敷	16世紀	高井氏	堀、土橋	—
p	元島名内出	16世紀	阿久沢氏	堀、土居、戸口	付近に小環濠遺構がある。
q	元島名城	15世紀	島名伊豆守	堀、土居、戸口、根小屋、板碑	昭和51・53年一部発掘調査。
		16世紀	長井豊前守政実		
r	元島名環濠遺構群	—	島名氏	桜屋敷等	昭和53年一部発掘調査。
s	江原源左衛門屋敷	16世紀末	江原源左衛門	堀	—
t	上滝中屋敷	南北朝時代	—	—	—
u	新居屋敷	—	新居喜左右衛門	—	—
v	萩原城	16世紀	萩原地衆	堀、土居、戸口	複郭城。
w	深沢屋敷	—	深沢氏	堀、土居、戸口	長楽寺がある。

第3章 調査方針と経過

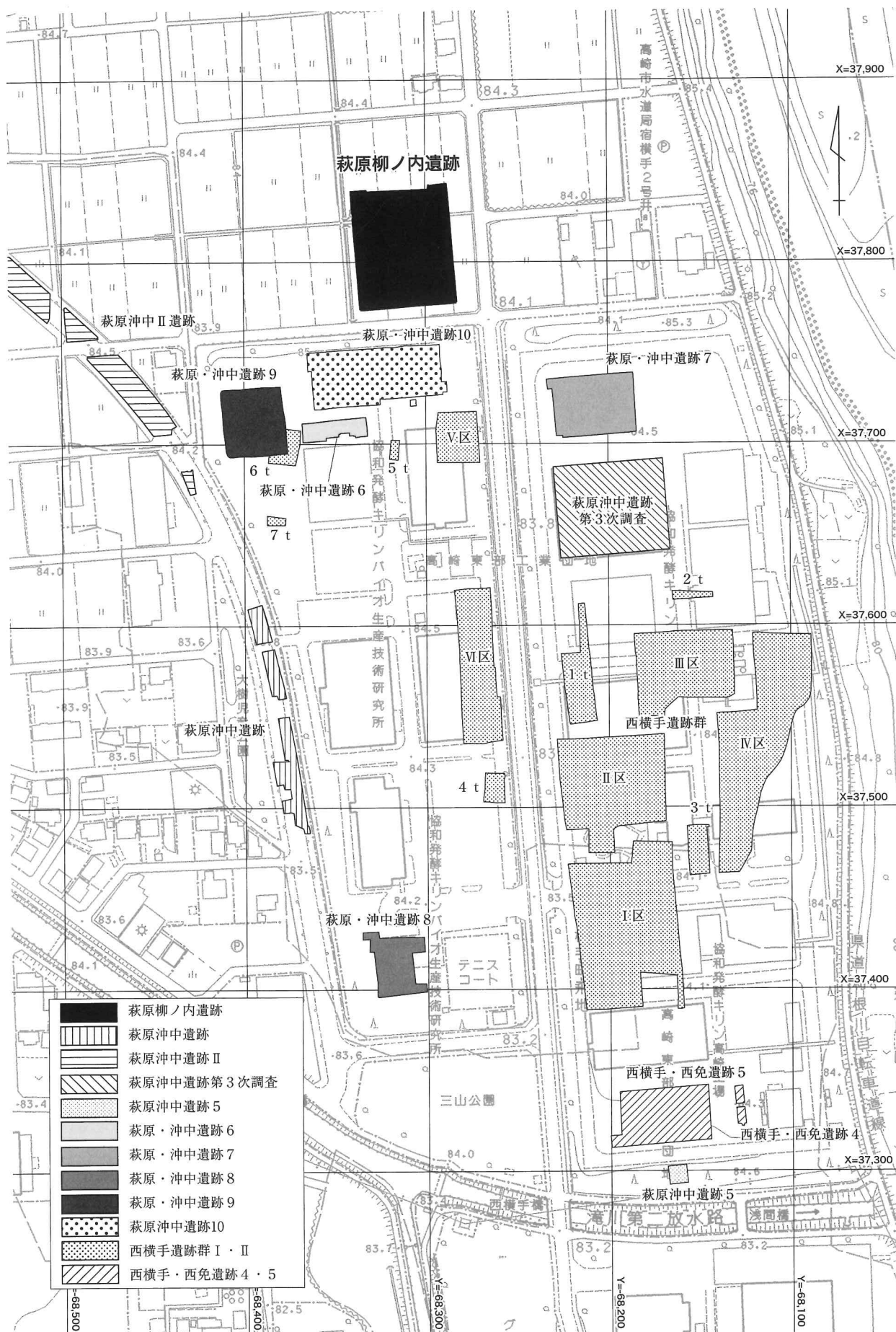
1 調査範囲と基本方針

今回の発掘調査は、高崎市教育委員会による試掘調査の結果に基づき、倉庫建設予定地内のうち現状保存の不可能な部分（3,862 m²）を対象とし実施した。遺構確認面までの掘削は0.7 m²バックホーを使用し、10t ダンプにて排土を搬出した。遺構確認後に遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は35mm 判モノクロフィルムとデジタルカメラを用いて撮影を実施した。各遺構面の調査区全景撮影についてはドローンでの撮影を実施した。

2 調査経過

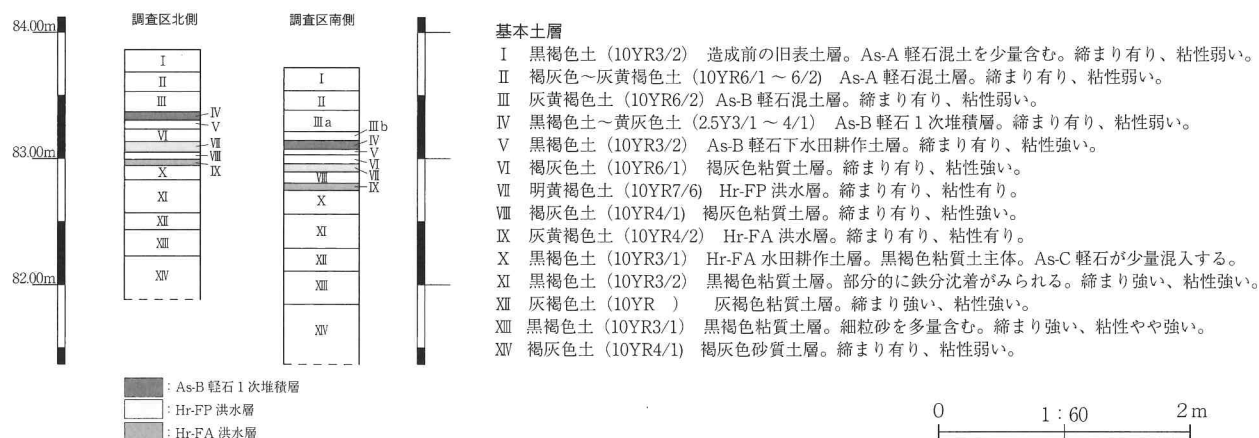
発掘調査は6月1日～8日の期間に事前準備作業を実施した。調査対象地の現状がアスファルトの駐車場であることから、6月12日～27日にアスファルト舗装版撤去工事を実施した。6月30日、重機にて表土掘削を開始、7月3日から作業員による第1面目の遺構確認調査を開始する。7月10日からAs-B 軽石下水田の掘り下げ開始する。7月26日全景撮影（第1面）を実施し、翌日から第2面への掘削と遺構確認調査を開始する。8月2日からHr-FA 洪水層下水田の掘り下げを開始。8月16日全景撮影（第2面）を実施し、翌日から第3面への掘削・遺構確認調査を開始する。8月21日から遺構の掘り下げを開始する。8月25日、全景撮影（第3面）を実施した。8月31日までに機材撤収作業を含めた現地での調査を完了する。



第4図 調査区設定図 (1/3,000)

第4章 基本土層

基本土層として第3面のSD3調査区北東と南東の壁面にトレンチを掘削し、ここで土層観察を実施した（第6図参照）。I層は昭和63年に工業団地造成時の埋め土、II層はAs-A軽石混土層、III層はAs-B軽石混土層である。第1面の確認層位であるAs-B軽石1次堆積層（IV層）は調査区全域で確認されているが、軽石層上位の灰赤色火山灰層や粕川テフラ（As-Kk）は確認できないことから遺存状況は良好とは言えない。Hr-FP洪水層（VII層）はSD3周囲の低地でのみ確認。Hr-FA洪水層（IX層）は調査区全域で確認できるが南西側の堆積が薄い。Hr-FA洪水層下水田はAs-C軽石混入黒褐色粘質土（X層）を耕作基盤層としている。



第5図 基本土層

第5章 遺構と遺物

1 第3面（As-C 軽石混土層下面）

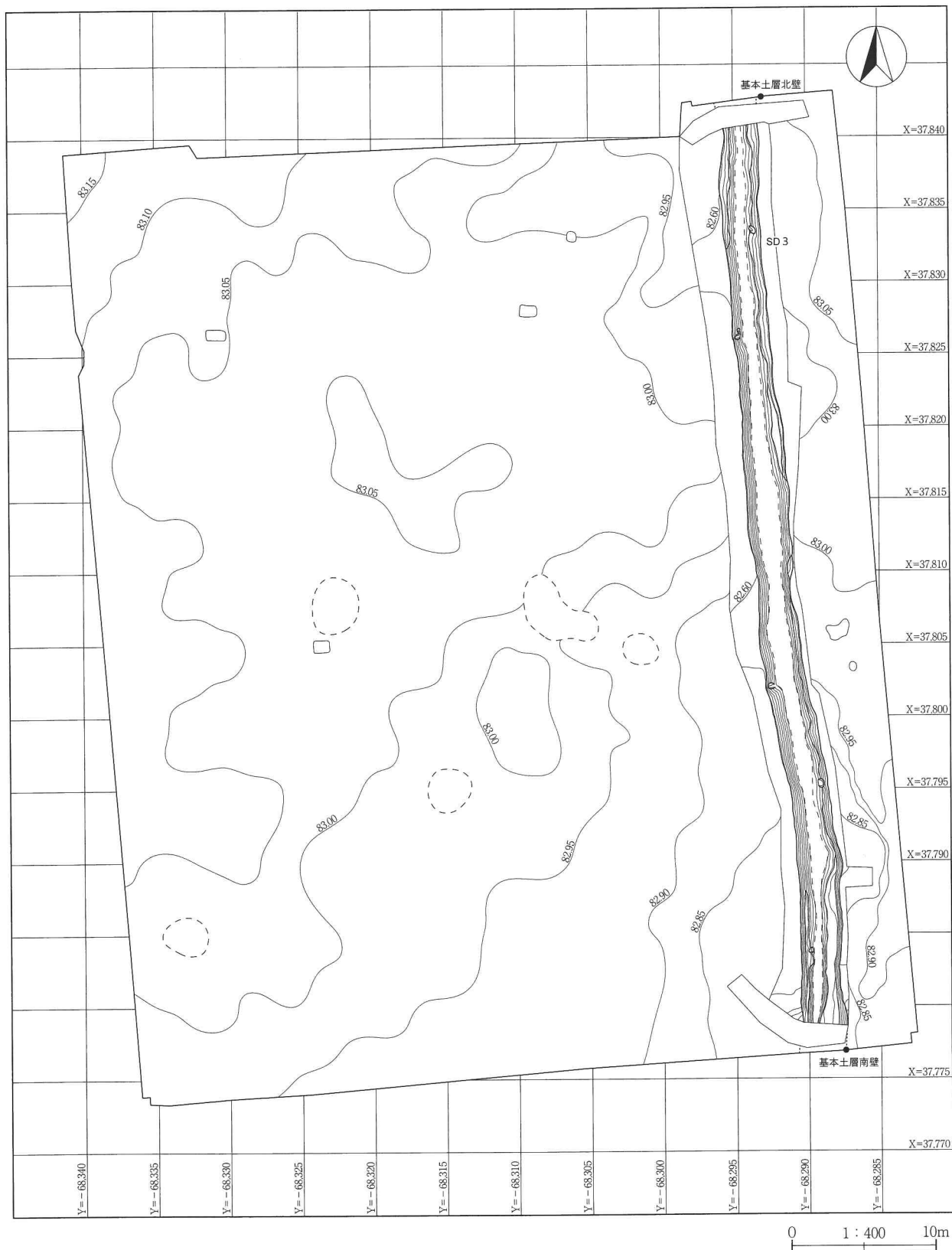
(1) 調査の概要（第6～21図、第2表、PL. 1～3・24）

第2面のHr-FA洪水層下水田面の調査後、As-C軽石混土層（XII層）下面まで掘削を行い遺構の確認調査を実施した。調査区中央から西側にかけては倒木痕が数基みられるのみであったが、第2面で水田区画をもつ水路跡の下面から古墳時代前期の溝（SD3）を検出した。

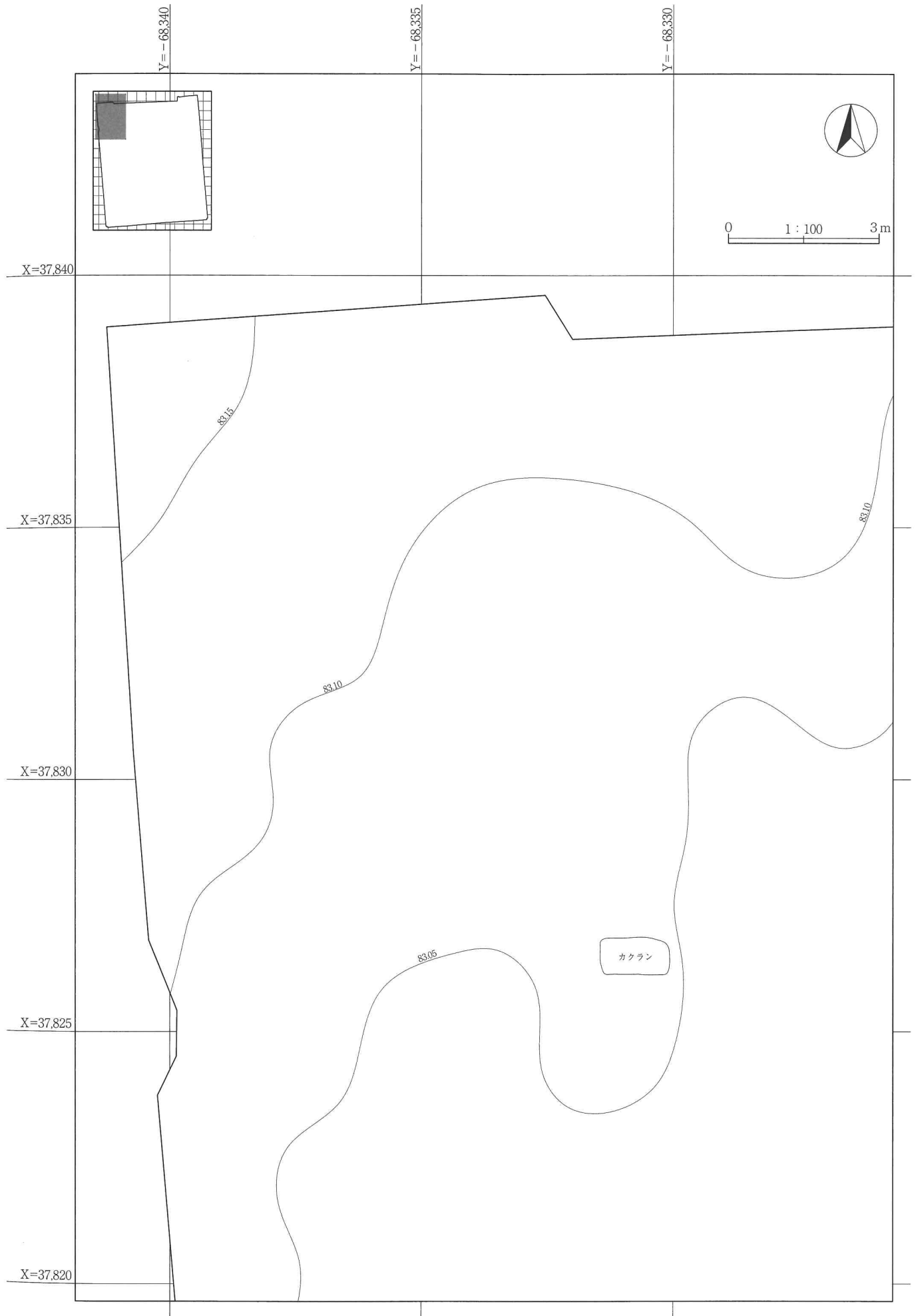
(2) SD3（第6・10・14・18～21図、第2表、PL. 4・5・24）

位置 X=37,776～37,842 Y=-68,287～-68,295 **検出状況** 上面から溝の存在が予測されていたため、重点的に第3面の確認面よりやや下げて掘り進めた。その結果調査区東側を南北方向に直線的に走向する溝を確認した。南北端は調査区外となる。 **規模** 走向方向N-6°-W、検出長66.04m、上幅2.77～3.08m、下幅（0.68）～（1.63）m、深さ（1.31）m、断面形状はテラス状の中段を持つ逆台形を呈している。北から南へと傾斜する。地下水が絶え間なく湧き出していた為、正確な底面の確認には至っていない。 **覆土** 覆土上位から中位にかけては粘質土を主体としており、中位に黒色粘質土が堆積している。下位は細粒砂を主体とする砂質土である。中位層の堆積までの期間は流水があったと推測され、その後埋没により溝としての機能を失ったと考えられる。 **出土遺物** S字状口縁台付甕を主とする古墳時代前期の土器が出土している。小型鉢（1）、高坏（2）、ミニチュア土器（3）、S字口縁台付甕（4～10）、甕（11）、壺（12）、木杭（13・14）を図示。木杭 溝底面から木杭が出土した。図示した2本は底面に刺さったままの状態検出された。2本とも表面に伐採時または加工時に刻まれたと考えられる痕跡がみられ。（13）は7面に面取りされている。SD3には他にも木杭を打ち込んでいたと考えられるピットが2基（断面図C・D）確認できることから、柵状の遺構が存在し溝の水量をコントロールしていたと想定される。 **年代** 出土遺物と土層状況から古墳時代前期の遺構と想定される。備考 本遺構は西横手遺跡群I・IIで検出された水路跡の北側の延長部分にあたる。

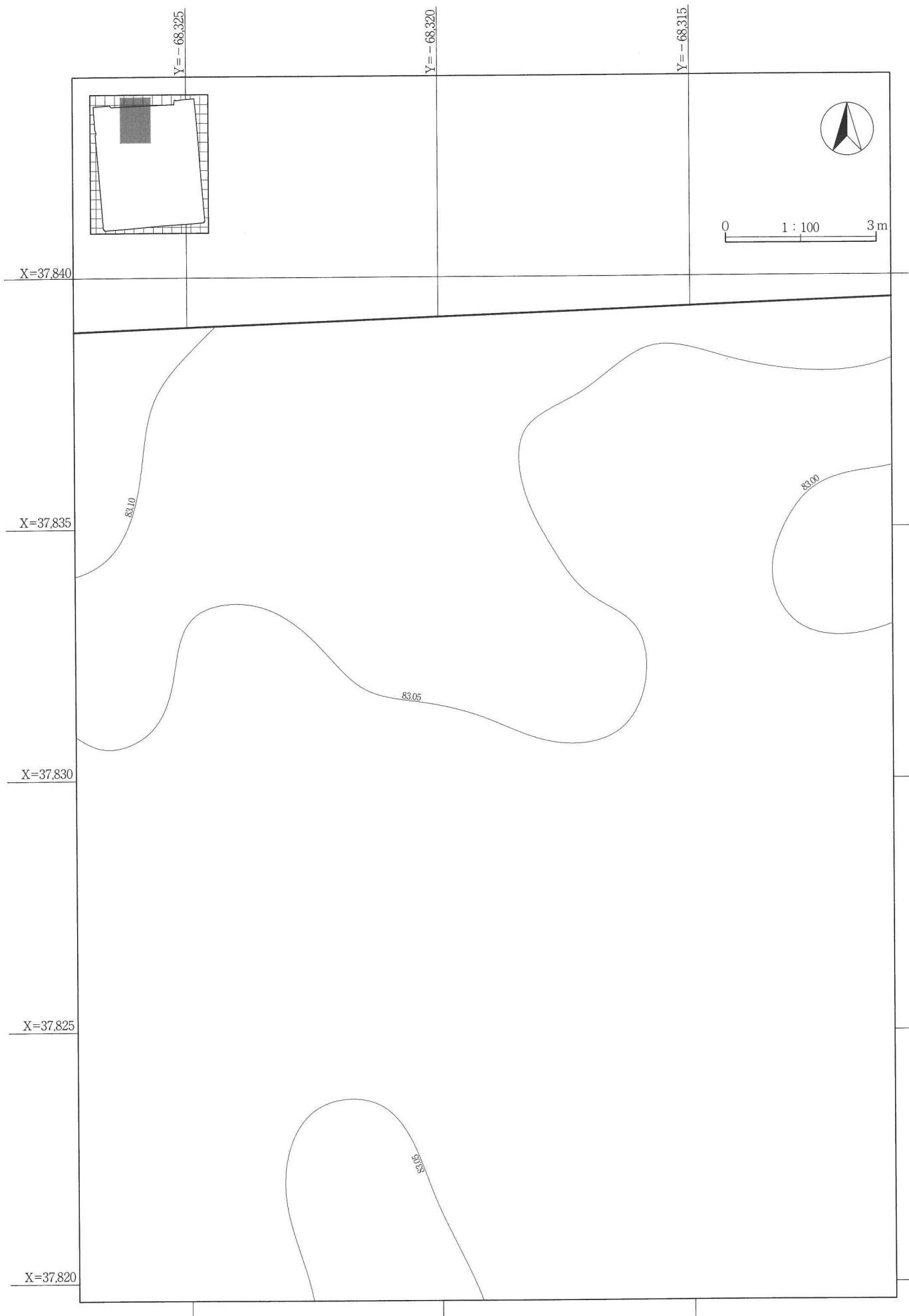
第3面



第6図 第3面全体図



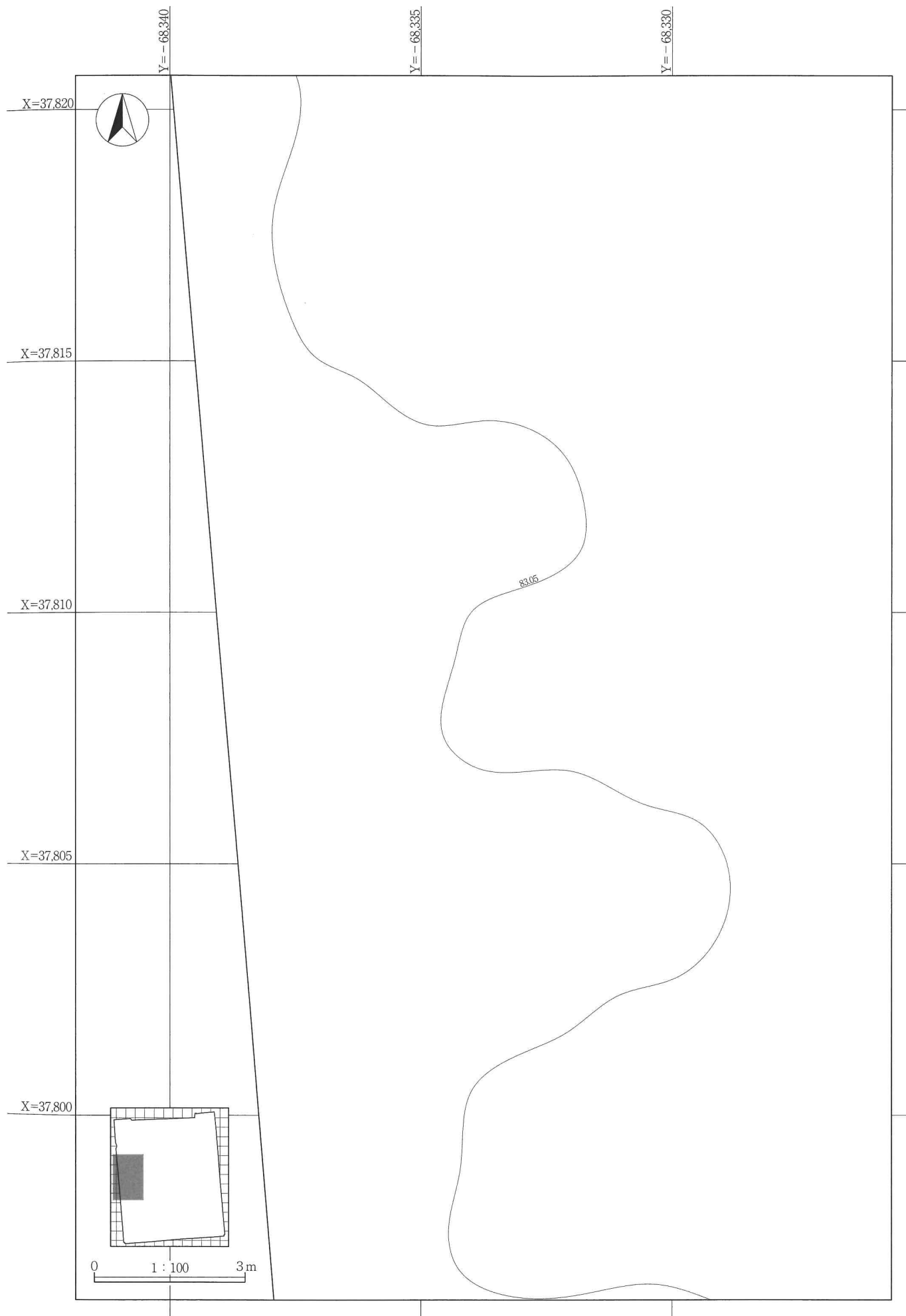
第7図 第3面平面図(1)



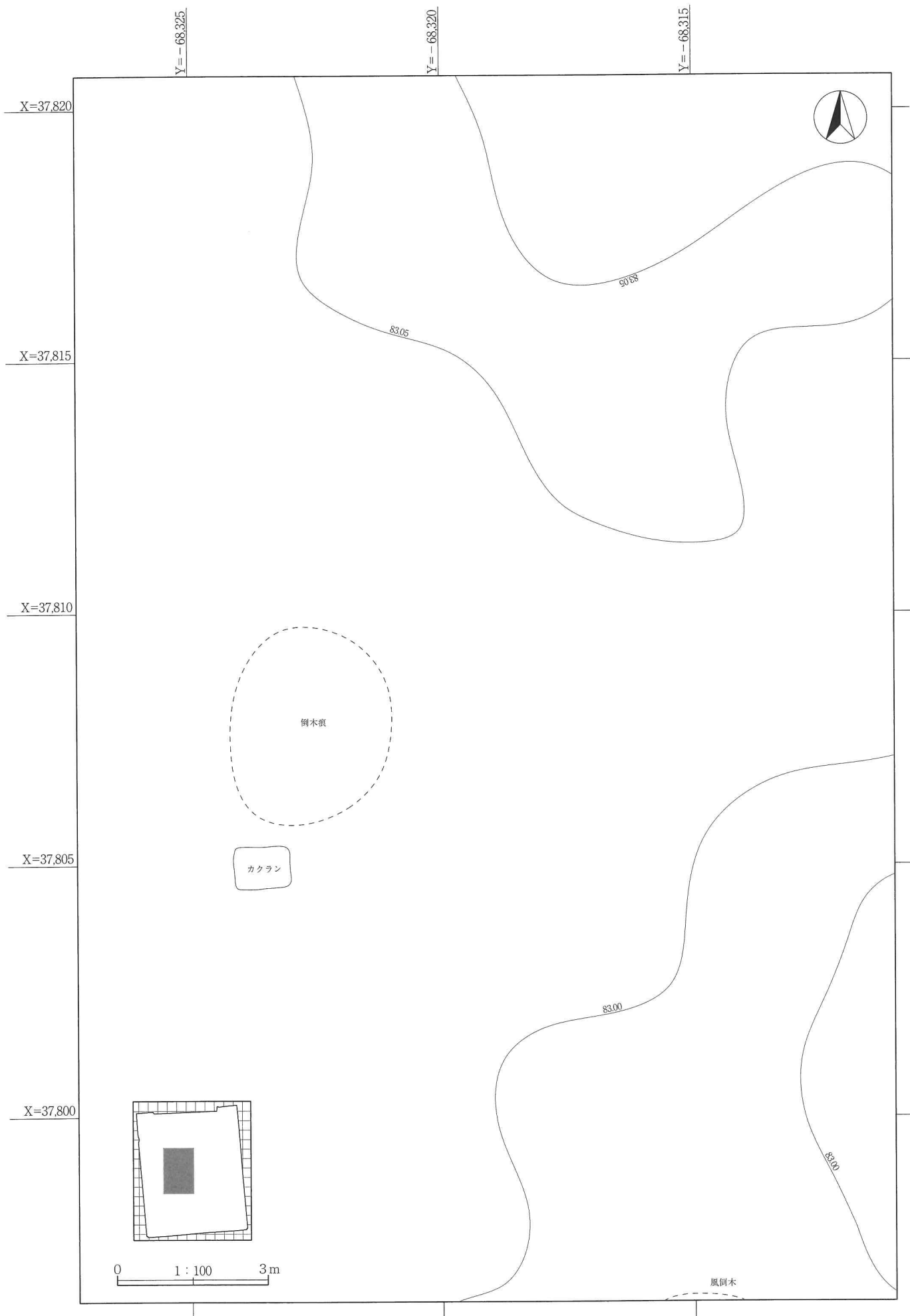
第8図 第3面平面图 (2)



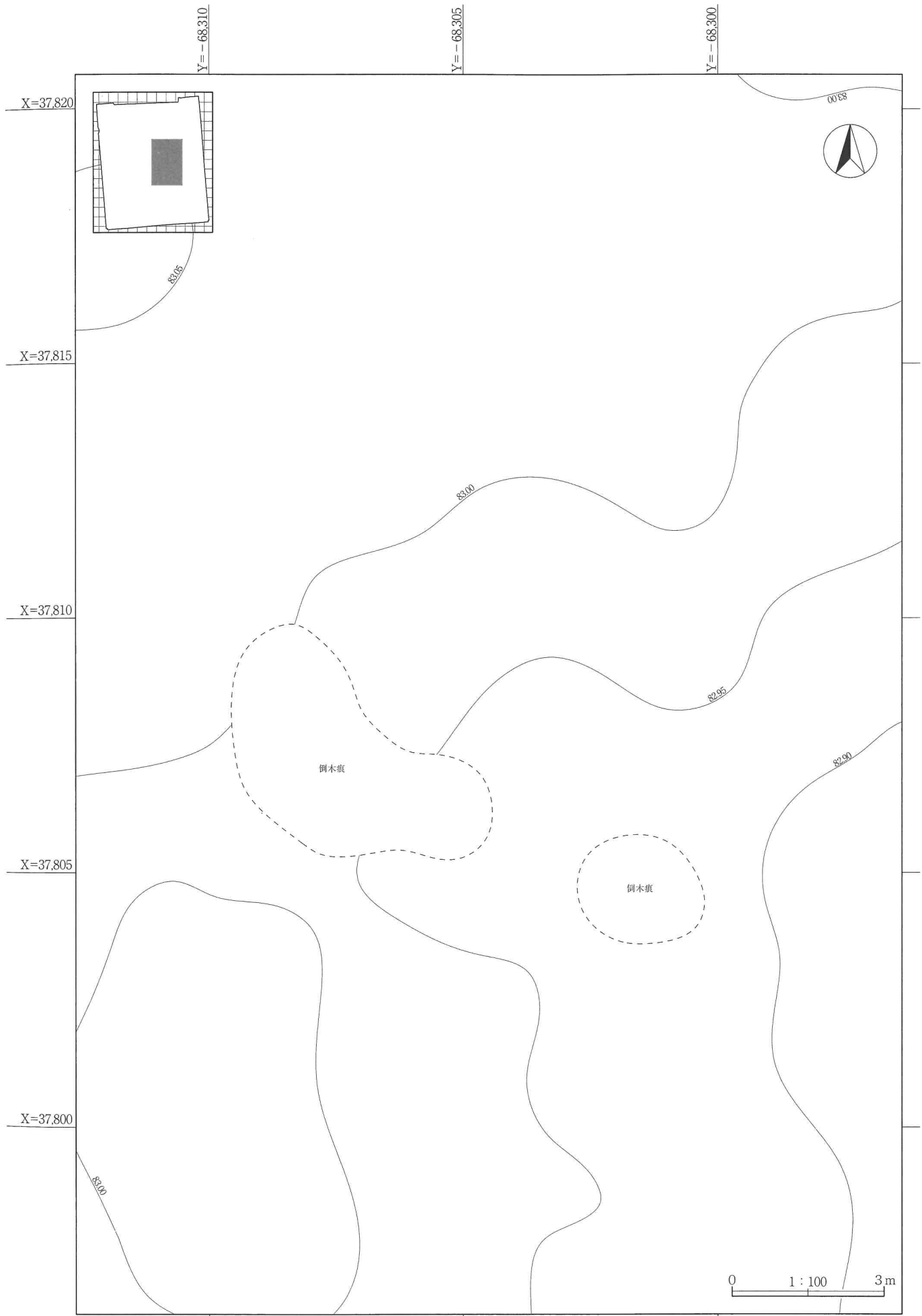
第9図 第3面平面図 (3)



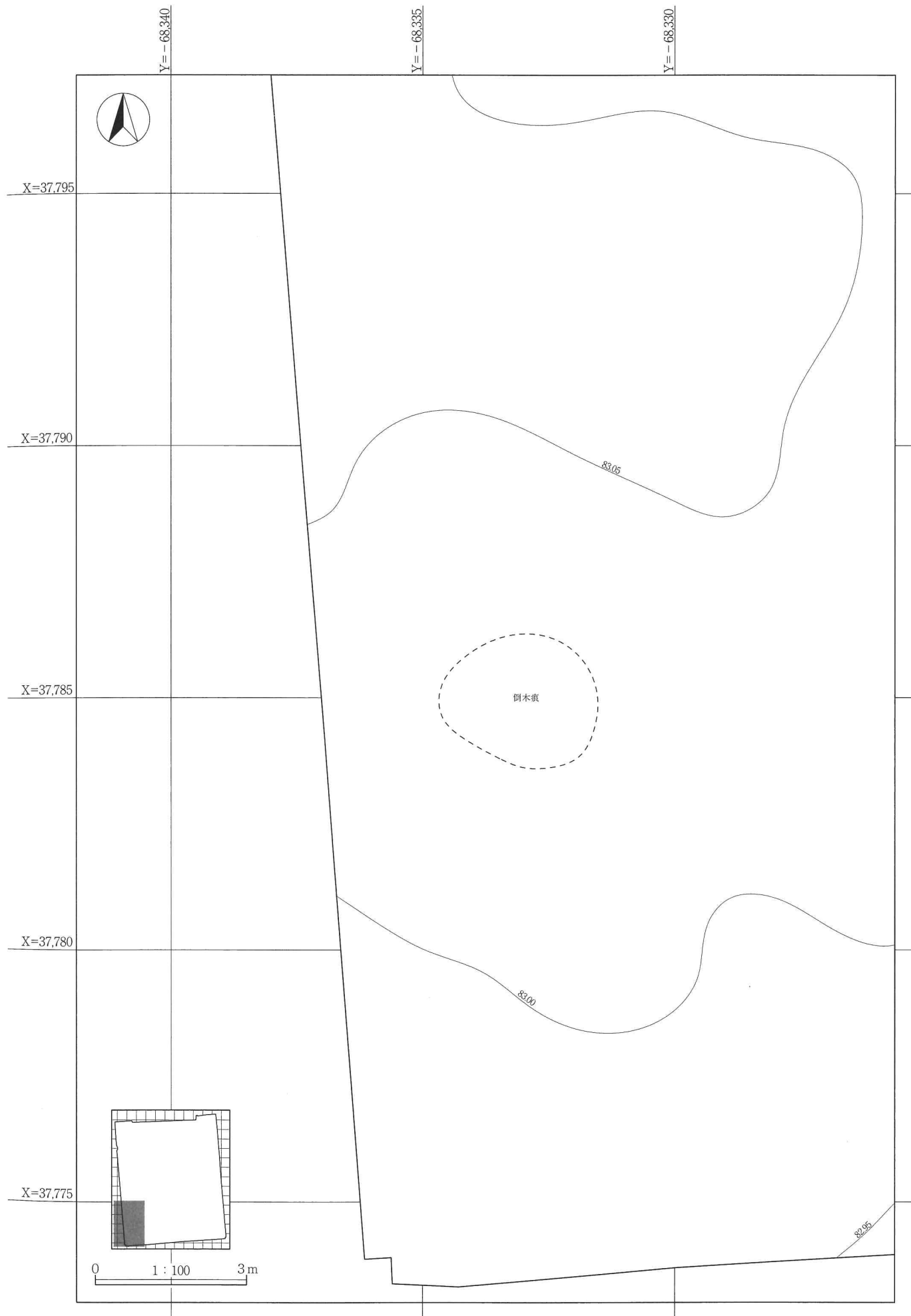
第 11 图 第 3 面平面图 (5)



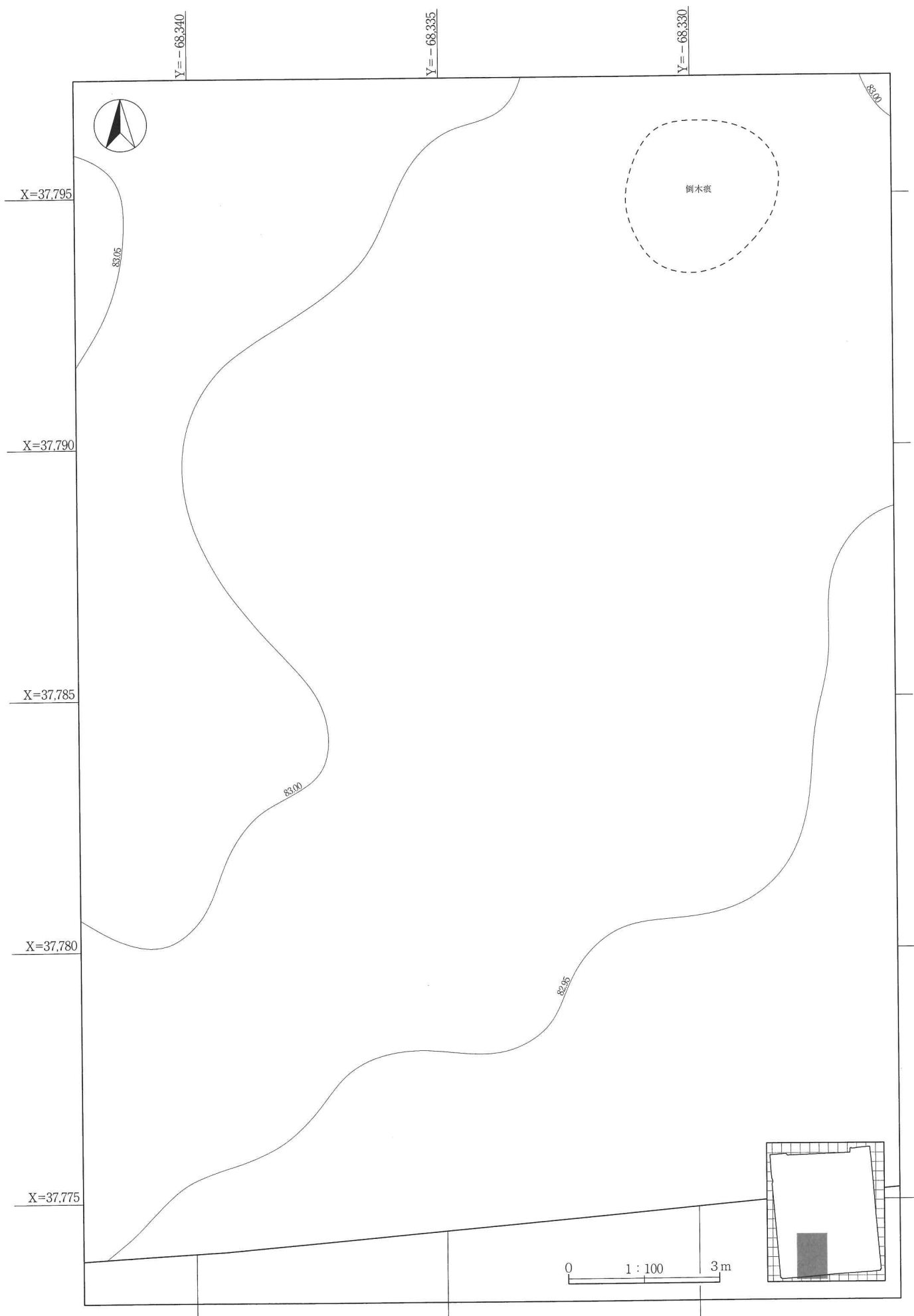
第12図 第3面平面図(6)



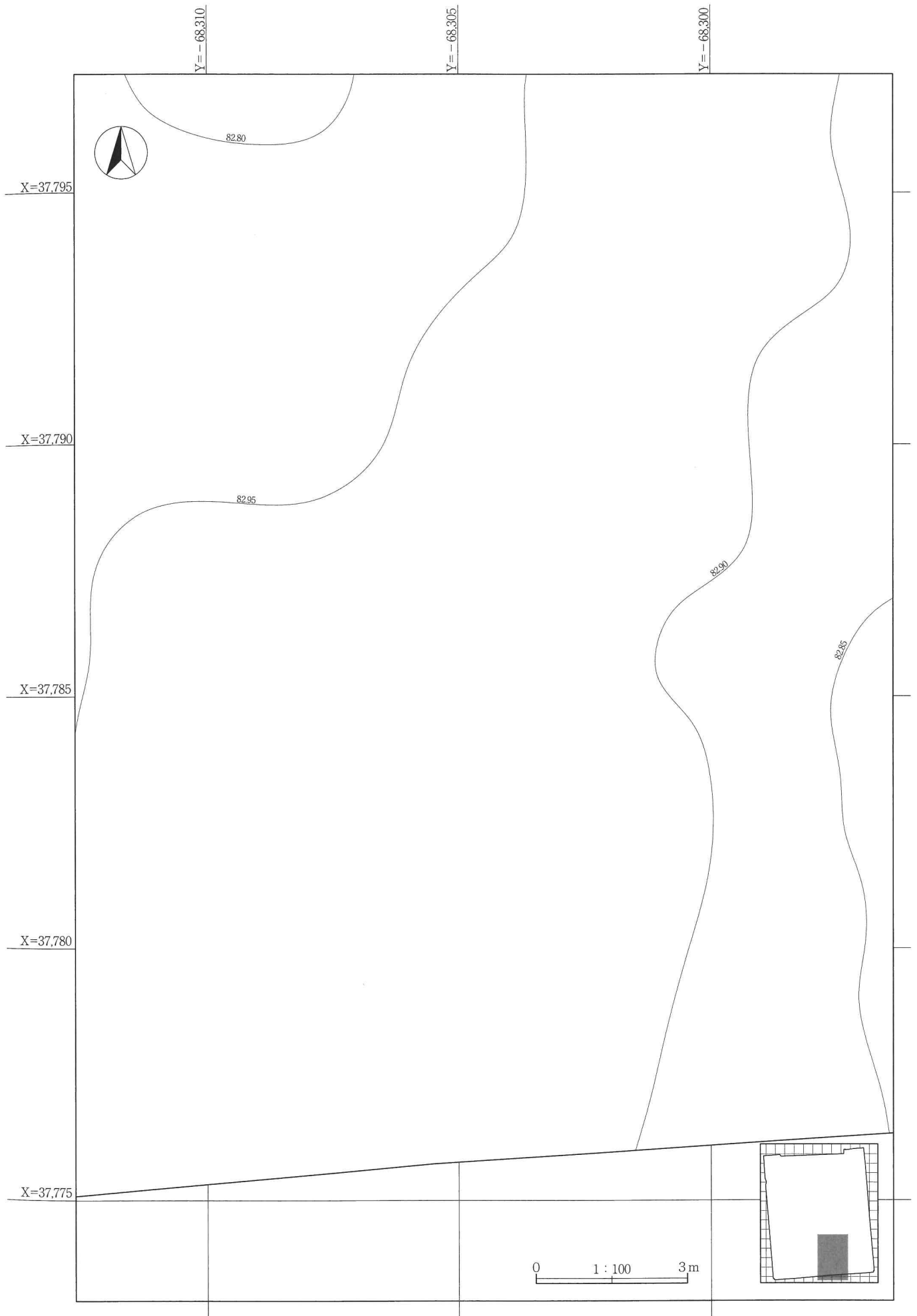
第 13 图 第 3 面平面图 (7)



第 15 图 第 3 面平面图 (9)

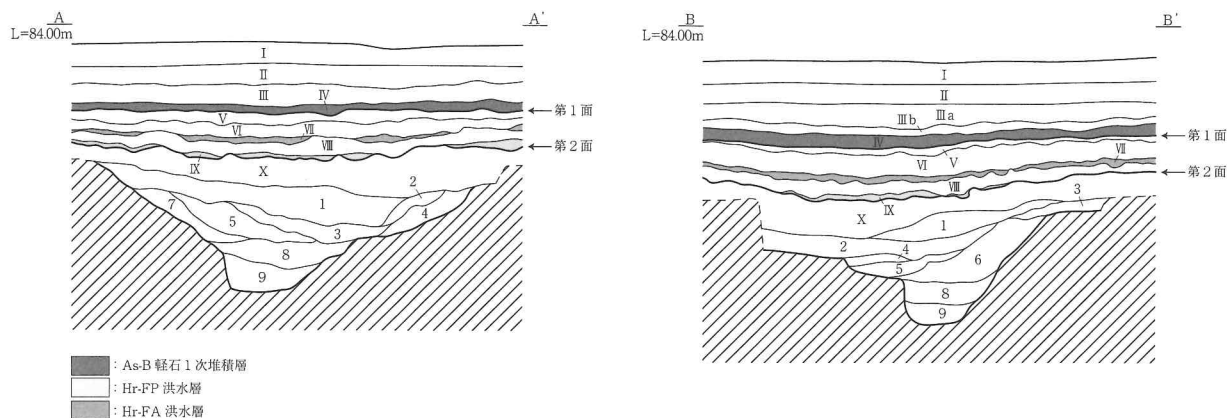


第 16 図 第 3 面平面図 (10)



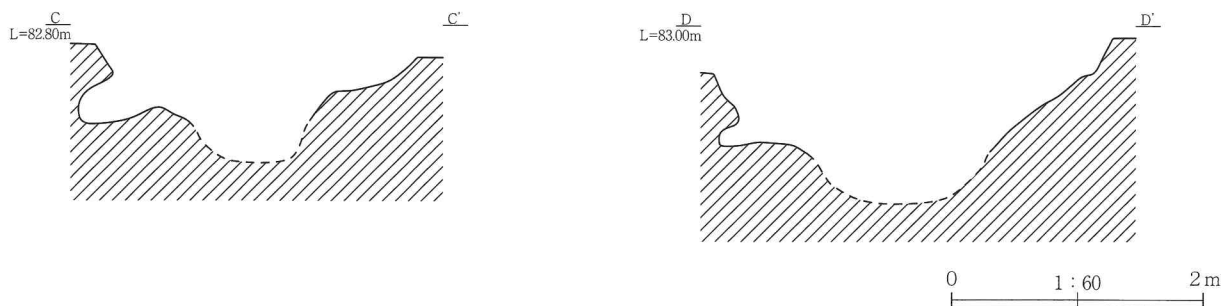
第 17 図 第 3 面平面図 (11)

SD3



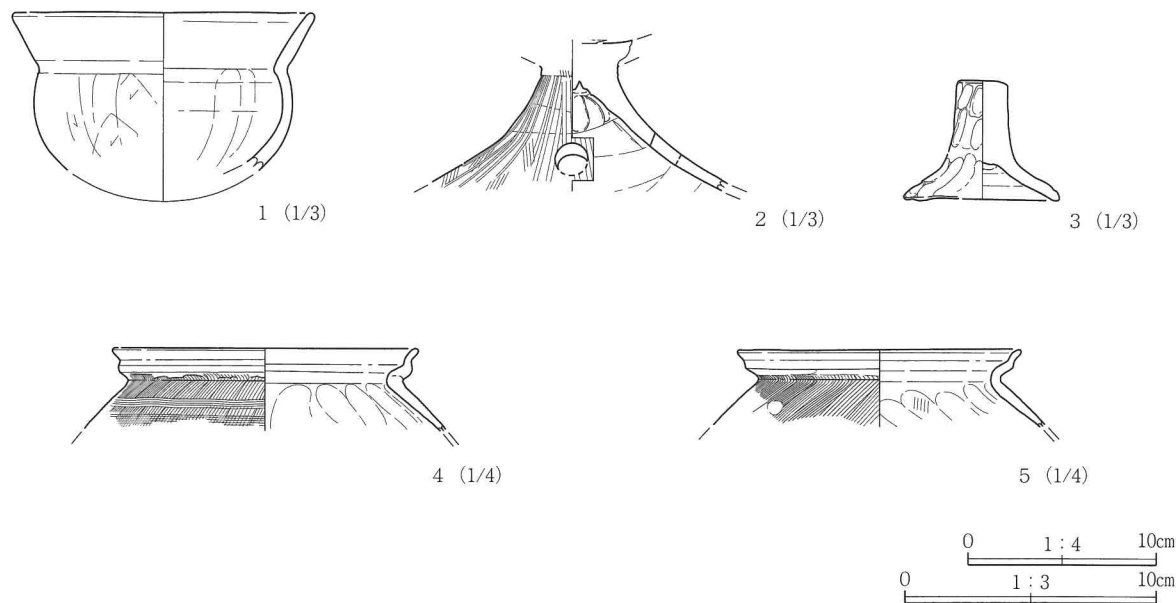
基本土層

- I 黒褐色土 (10YR3/2) 造成前の旧表土層。As-A 軽石混土を少量含む。締まり有り、粘性弱い。
 II 褐灰色～灰黄褐色土 (10YR6/1～6/2) As-A 軽石混土層。締まり有り、粘性弱い。
 III 灰黄褐色土 (10YR6/2) As-B 軽石混土層。締まり有り、粘性弱い。
 IV 黒褐色土～黄灰色土 (2.5Y3/1～4/1) As-B 軽石 1 次堆積層。締まり有り、粘性弱い。
 V 黒褐色土 (10YR3/2) As-B 軽石下水田耕作土層。締まり有り、粘性強い。
 VI 褐灰色土 (10YR6/1) 褐灰色粘質土層。締まり有り、粘性強い。
 VII 明黄褐色土 (10YR7/6) Hr-FP 洪水層。締まり有り、粘性有り。
 VIII 褐灰色土 (10YR4/1) 褐灰色粘質土層。締まり有り、粘性強い。
 IX 灰黄褐色土 (10YR4/2) Hr-FA 洪水層。締まり有り、粘性有り。
 X 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FA 水田耕作土層。黒褐色粘質土主体。As-C 軽石が少量混入する。
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色粘質土。締まり強い、粘性強い。
 2 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色粘質土主体。褐灰色砂質土を少量含む。締まり強い、粘性強い。
 3 褐灰色土 (10YR6/1) 褐灰色粘質土ブロック主体。締まり強い、粘性強い。
 4 褐灰色土 (10YR5/1) 褐灰色砂質土。締まり有り、粘性やや弱い。
 5 灰黄褐色土 (10YR6/2) 灰黄褐色砂質土。締まり有り、粘性弱い。
 6 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色粘質土主体。褐灰色粘質土ブロックを少量含む。締まり強い、粘性強い。
 7 褐灰色土 (10YR4/1) 褐灰色砂質土主体。黒褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性弱い。
 8 褐灰色土 (10YR4/1) 褐灰色粘質土主体。褐灰色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性弱い。
 9 褐灰色土 (10YR4/1) 褐灰色砂質土。締まり有り、粘性弱い。



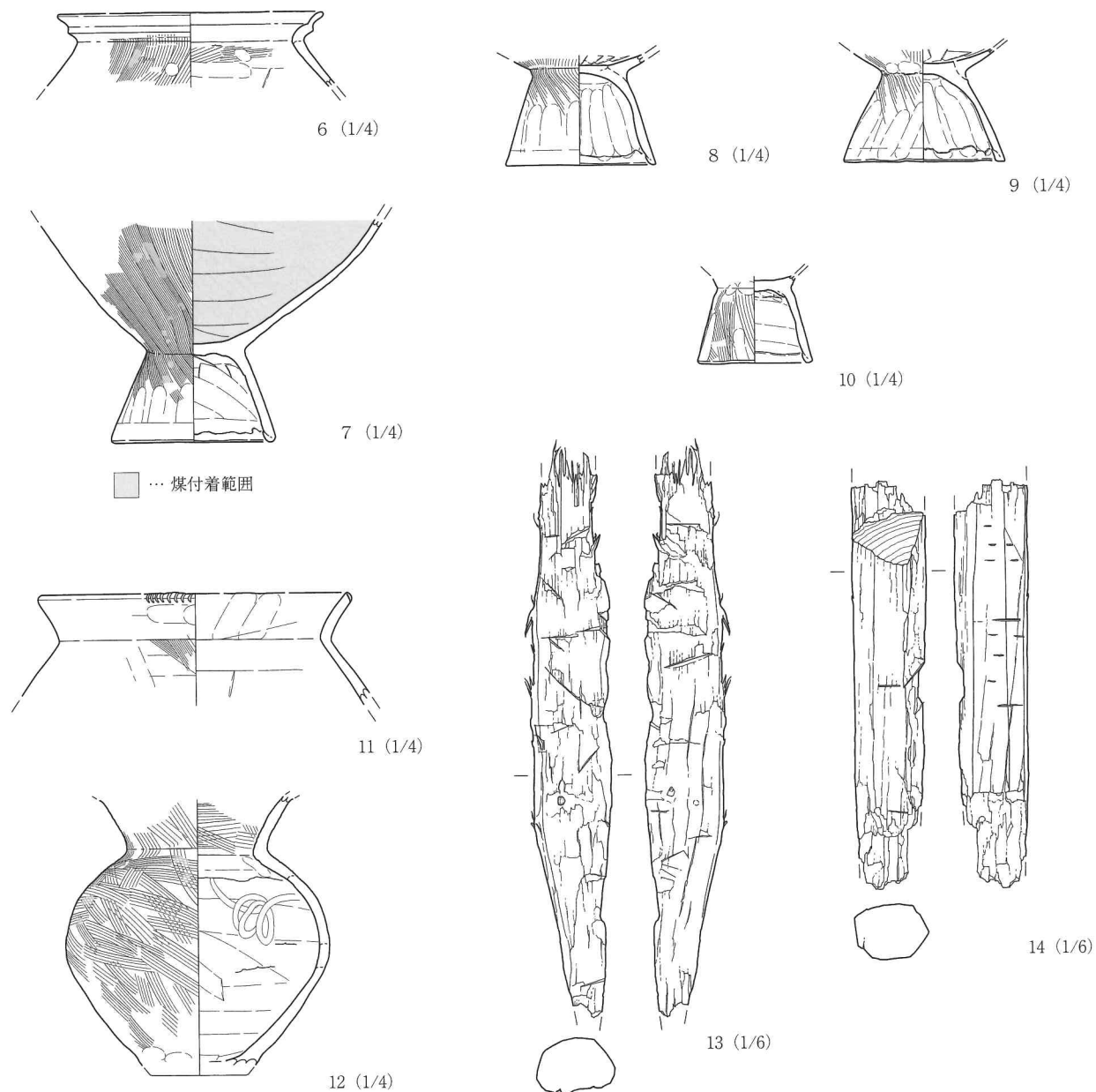
第19図 SD3断面図

SD3

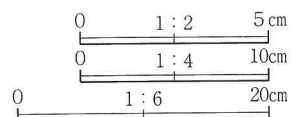
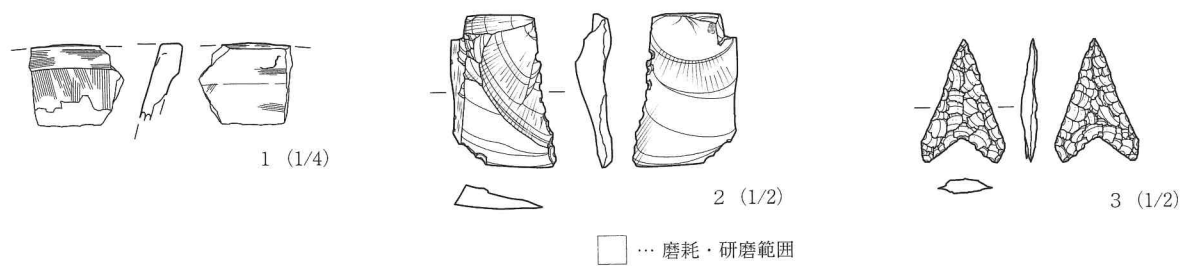


第20図 第3面出土遺物 (1)

SD3



第3面



第21図 第3面出土遺物(2)

第2表 遺物観察表

SD3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 小型鉢	[12.0]	欠損	(6.2)	チャート、 黒・茶色粒	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、体部は内湾し頸部外傾、体部ヘラケズリ及びユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～胴部上位片。
2	覆土	土師器 高坏	欠損	欠損	(6.1)	石英、黒雲 母、チャート、茶色粒	良好	にぶい黄 橙	外面脚部ハケズリ後縦位ヘラミガキ調整、脚部中位3箇所に直径1.2cmの円孔が穿たれている。 内面坏底部ヘラナデ、脚天井部ユビナデ、以下回転ヘラケズリ。	坏底部～脚部下位2/3残存。
3	覆土	土師器 ミニチュア	2.0	裾部径 (6.2)	4.7	石英、灰・ 茶色粒	良好	明黄褐	外面手握ね後やや強いユビオサエ、上端部平坦、裾部ユビナデ。 内面手握ね後ユビナデ。	脚部2/3欠損。
4	覆土	S字状口縁 台付甕	[16.2]	裾部 欠損	(4.3)	石英、黒・ 灰・茶色粒	良好	灰黄	外面口縁部ヨコナデ、口縁帯の中位に緩やかな屈曲を持ち口唇部外湾、胴部上位10条一単位ハケ状工具による縦位ハケズリ及び横位ハケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ後縦位ユビナデ。	口縁～胴部上位片。
5	覆土	S字状口縁 台付甕	[15.0]	裾部 欠損	(4.1)	白・黒・灰・ 茶色粒	良好	暗灰黄	外面口縁部ヨコナデ、口縁帯中位に屈曲を持ち口唇部外湾、胴部上位ハケ状工具（単位不明）によるハケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部上位ハケズリ後縦位ユビナデ。	口縁～胴部上位片。
6	覆土	S字状口縁 台付甕	[16.0]	裾部 欠損	(4.6)	白色鉾物 粒、黒雲母、 灰・茶色粒	良好	浅黄橙	外面口縁部ヨコナデ、口縁帯中位に屈曲を持ち口唇部外湾、頸部から胴部上位8条一単位ハケ状工具による斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、頸部斜位ヘラケズリ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～胴部上位片。
7	覆土	S字状口縁 台付甕	欠損	裾部 9.8	(13.6)	白・黒・ 茶色粒、 チャート、 輝石	良好	灰白・ 黒褐	外面胴部中位以下7条一単位ハケ状工具によるハケズリ。台部斜位ハケズリ後中位以下縦位ユビナデ消し、裾部ヨコナデ。 内面胴部ヘラナデ、煤付着。台部斜位ハケズリ及びユビナデ、裾部ヨコナデ、裾部折り返し痕顕著。	胴部中位1/3～台部残存。
8	覆土	S字状口縁 台付甕	欠損	裾部 9.0	(6.5)	黒雲母、灰・ 茶色粒、輝 石	良好	にぶい黄 橙	外面胴部下端から台部はハケ状工具（単位不明）によるハケズリ。台部ハケズリ後中位以下縦位ユビナデ消し、裾部ヨコナデ。 内面横及び縦位ユビナデ、裾部ヨコナデ、裾部折り返し痕顕著。	胴部下端～台部1/2残存。
9	覆土	S字状口縁 台付甕	欠損	裾部 9.7	(6.7)	白色鉾物 粒、黒雲母、 灰・茶色粒	良好	浅黄	外面胴部下端部5条一単位ハケ状工具によるハケズリ、台部斜位ハケズリ後下半部斜位ユビナデ消し、裾部ヨコナデ。 内面縦位ユビナデ、裾部折り返し痕顕著。	胴部下端部～台部片。
10	覆土	S字状口縁 台付甕	欠損	裾部 [6.8]	(5.2)	白・黒・茶 色粒	良好	にぶい黄	外面台部8条一単位ハケ状工具による縦及び斜位ハケズリ後中位以下縦位ユビナデ消し。 内面台部ユビナデ及びヨコナデ、天井部に粘土貼付け痕、裾部折返し痕顕著。	台部残存。
11	覆土	土師器 甕	[20.8]	欠損	(6.7)	黒雲母、黒・ 灰・茶色粒	良好	にぶい黄 橙	外面口縁部ヨコナデ、口唇部に刻目、胴部上位ハケズリ及びユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部上位片。
12	覆土	土師器 壺	欠損	欠損	(16.4)	石英、黒雲 母、灰・茶 色粒	良好	灰黄	外面口縁中位から胴部下位5条一単位ハケ状工具による多方向ハケズリ、台部欠損か。 内面口縁下半部横及び斜位ハケズリ、胴部ヘラナデ及びヘラミガキ。	口縁中位～胴部下位1/2残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	樹種	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
13	覆土	木製品 杭	(51.6)	7.3	5.1	不明	-	-	上半部には横位の直線的な加工痕、上端部には平坦な加工痕が確認できる。 下部は地表に打ち込み易いように先端を尖らせるように加工されている。横位の直線的な加工痕も僅かに認められる。	欠損有り。
14	覆土	木製品 杭	(36.7)	6.8	5.1	不明	-	-	表面に7面の丁寧な面取り加工が施されている。横位の直線的な工具痕が認められ、表面上部には斜方向の加工痕が確認できる。	欠損有り。

第3面

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
1	覆土	土師器 甕	—	—	—	白色鉾物 粒、黒雲母、 灰・茶色粒	やや軟 質	灰白	外面口縁部ヨコナデ後ハケ状工具（単位不明）による横位ハケズリ、頸部との境に明確な段を持ち頸部縦及び斜位ハケズリ。 平口縁、口唇部横位ハケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。		口縁部片。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	No. 1	石器 削器	4.1	2.8	0.9	黒曜石	—	—	6.4	石器上半部は握手時表面に親指と裏面に人差し指で握りやすい剝離面を持ち、右側縁には微細剝離による鋸歯を作出している。左側面は研磨利用と見られる擦痕が僅かに認められ、下端部縁辺には掻器利用が推定できる丸味を持つ。	完存。
3	No. 2	石器 石鏃	3.3	2.3	0.4	チャート	—	—	2.0	凹基無茎鏃。表・裏面共に丁寧な成形調整剝離を施し僅かに凹む左右側縁及び、深い三角形の基部を作出している。	完存。

2 第2面 (Hr-FA 洪水層下水田)

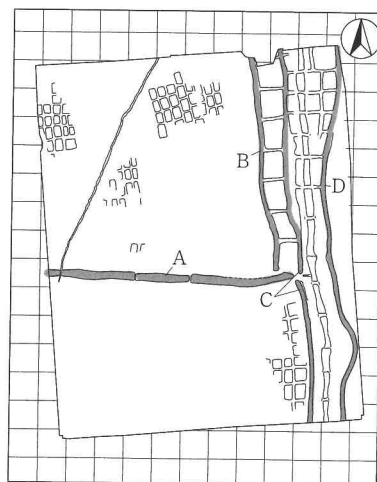
(1) 調査の概要

第1面のAs-B軽石下水田面の調査後、V層下面まで掘削を行い遺構の確認調査を実施した。Hr-FA洪水層(VI層)の堆積は良好とは言えず、調査区南西側では堆積層が薄い。比較的に堆積層が厚いSD1周辺の調査区東側と北側では水田が確認されている。

(2) 水田(第22～38図、第3表、PL. 6～14)

被覆層と水田の残存状況 第2面で検出した水田面は、5世紀末から6世紀初頭の榛名山噴火を起因とするHr-FA洪水層に直接覆われている。Hr-FA洪水層の堆積は全体的に確認することはできるが、調査区南西側では堆積層厚は極めて薄く、水田区画の検出にも至っていない。調査区北側(層厚約4cm)やSD1周辺の調査区東側(層厚約6cm)では比較的良好で水田区画も確認できる。水田区画が確認できない場所は上位の洪水層の影響を受け畦畔が削平された可能性が高いと考えられる。

水田域の地形 若干の起伏が見られるが、概ね北から南へ、西から東に向かって緩やかに低くなっている。調査区四隅の比高差は北側東西で0.13m、南側東西で0.09m、西側南北で0.19m、東側南北で0.15m、北西隅から南東隅で0.28m、北東隅から南西隅で0.06mとなっている。



第22図 Hr-FA洪水層下水田畦畔名称図

畦畔の走向と区画 調査区中央部を東西方向に走向する大畦畔A(下幅1.13m)、SD1と中規模水田区画の両脇を南北方向に走向する3本の大畦畔(B:下幅0.80m、C:下幅0.75m、D:下幅0.80m、)、計4本の大畦畔によって水田面が区画されている。水田は所謂「小区画水田」に分類されるものであり、全部で108の田面を確認した。田面の形状は1.8m×1.3m程の長方形が主体的である。大畦畔B・C間には梯子状に4.0m×5.0m程の中規模の水田面が並ぶ。大畦畔C・D間にはSD1が南北に走向し、上流部ではその両脇に中規模の水田面が、中～下流部は1.5m×5.0m程の長方形の水田面が配されている。

耕作土 As-C軽石を少量含む黒褐色粘質土(X層)を耕作土とする。層厚は調査区全域で8～16cmを測る。

水田区画内の溝 SD1・2の2条確認されている。SD1は第3面のSD3が埋没した後、溝状に窪んだ場所を利用して造られた水路と考えられる。水路内には等間隔に畦畔を配して中規模の水田として耕作していたと想定される。本遺跡の南方向に位置する西横手遺跡群I・IIで確認されている「畦畔に挟まれた中規模水路」はこのSD1と同一遺構と考えられる。SD2は大畦畔の水口1に向かって北東-南西へ走向する浅い溝である。上流から取水された水を水田面に広く行き渡らせるため、標高が高い位置へと導くための溝と考えられる。大畦畔の水口に至った溝を流れた水は、大畦畔南側の水田面上流部に流れ込み、下流の水田面へ供給される。

取配水の方向 水田面の傾斜から想定すると、北西側から取水し南東方向へ配水していたと考えられる。大畦畔A北側の水田区画に配水された水は、大畦畔Aの水口1～3を通過して大畦畔A南側の水田区画へと流れる。余剰の水は大畦畔A・Bの交点にある水口4を通り、大畦畔Cの水口5からSD1へ流れていくと推測される。大畦畔B・C間の梯子状の水田区画は北方向から取水し、大畦畔A・Cの交点にある水口5からSD1へ、または大畦畔A南側の水田へと配水されたと考えられる。SD1内の水田区画は北方向から溝を辿って取水し、上流部の水田に配水され、下流部は溝に沿って配水されていたと想定される。水田区画から水口を通過してSD1へと配水された場所には浅い溝状の痕跡がみられる。

足跡 水田面や畦畔に凸凹は多く見られたが、明確な歩行列と考えられるものは検出されなかった。

出土遺物 SD1から少量ではあるが土師器少片が出土している。

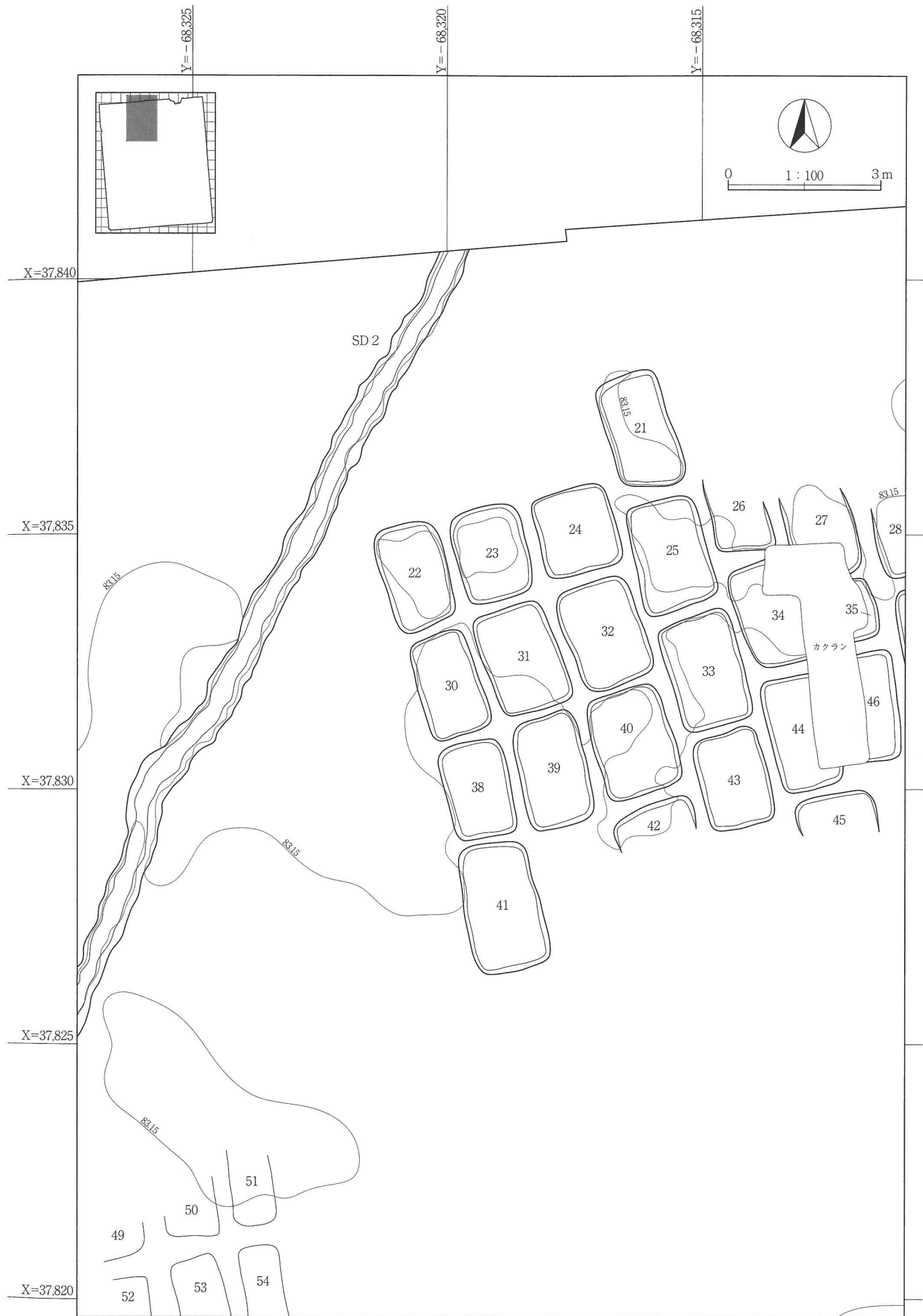
第2面



第 23 図 第 2 面全体図



第 24 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (1)



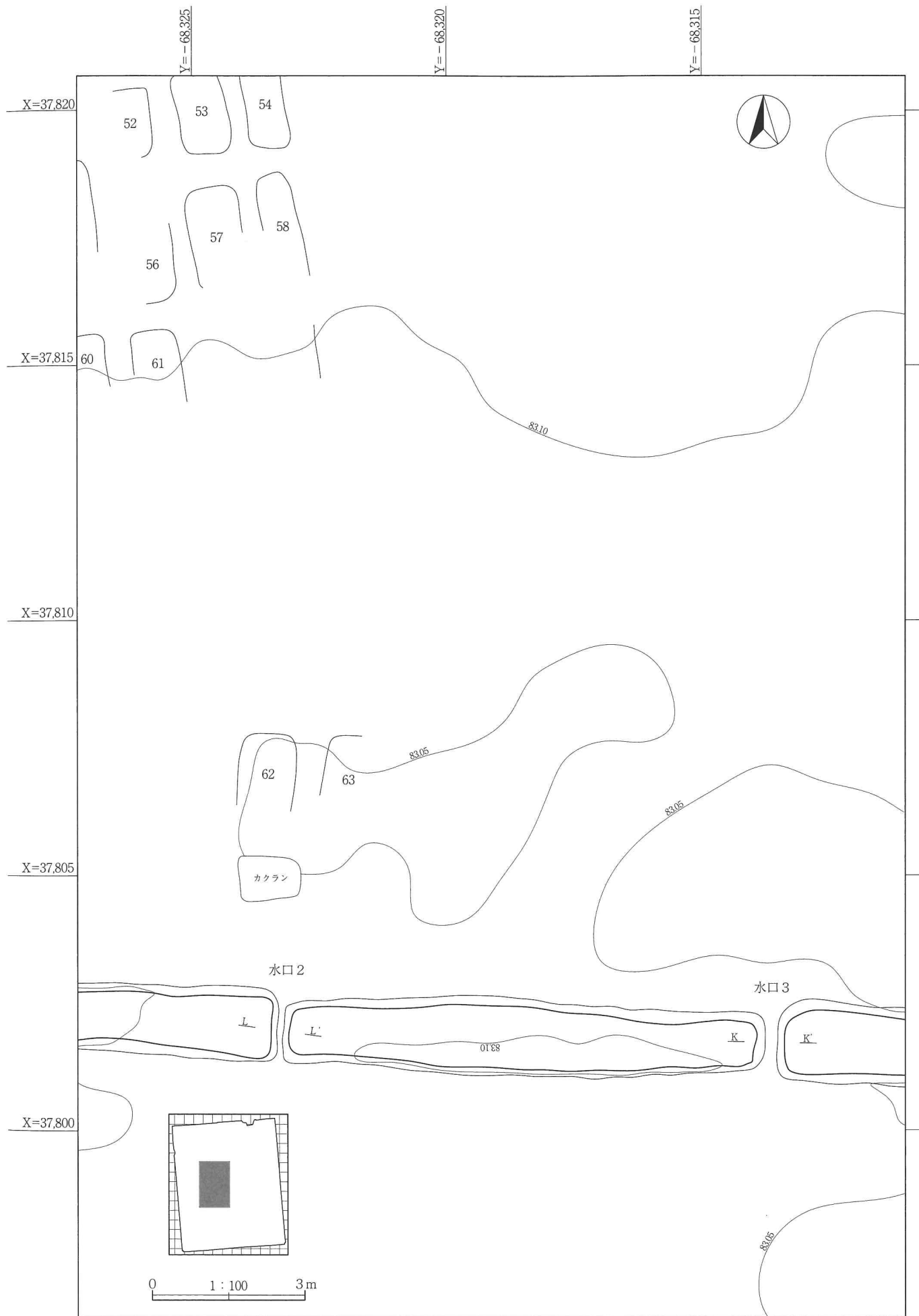
第 25 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (2)



第 26 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (3)



第 28 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (5)



第 29 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (6)



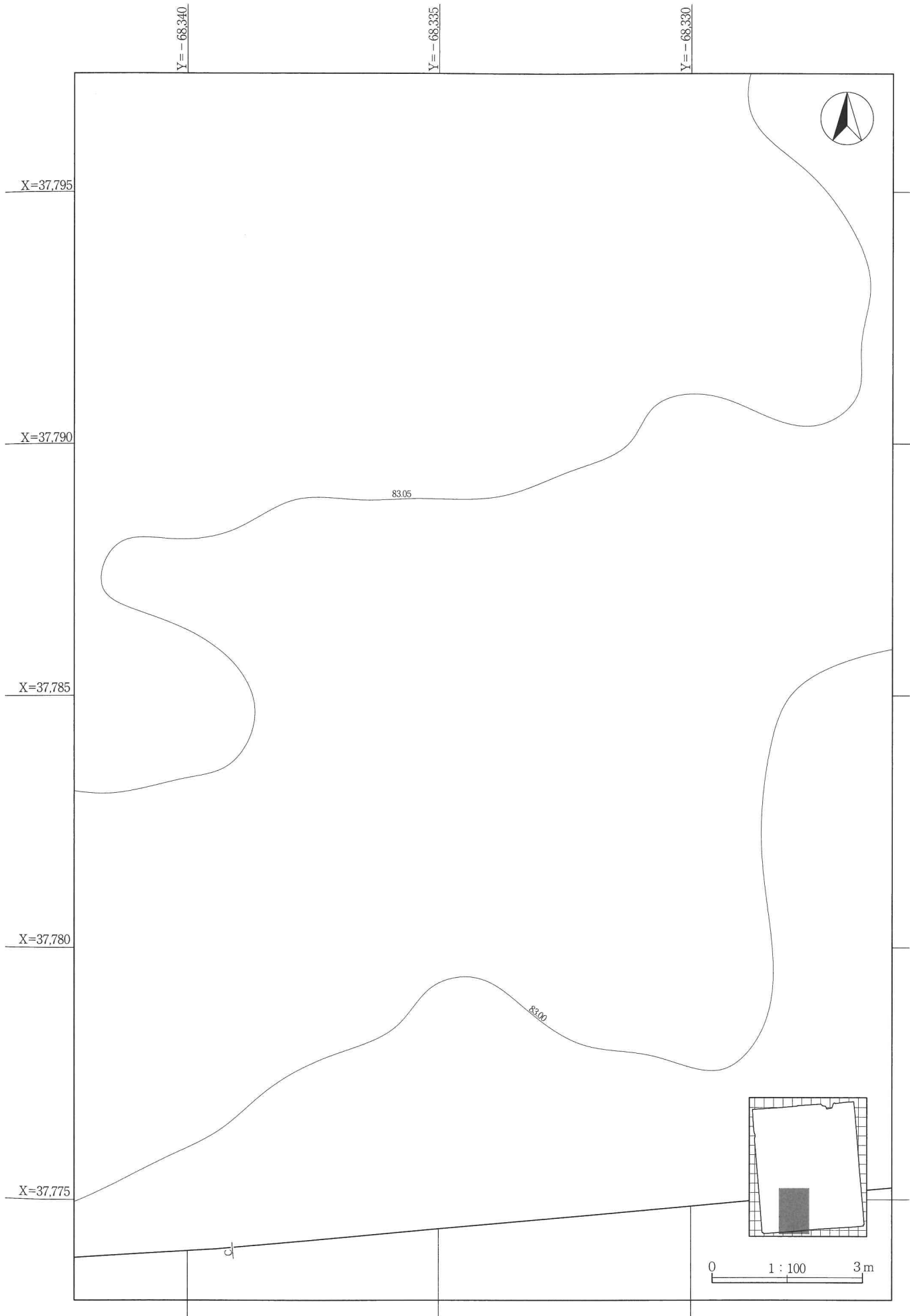
第 30 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (7)



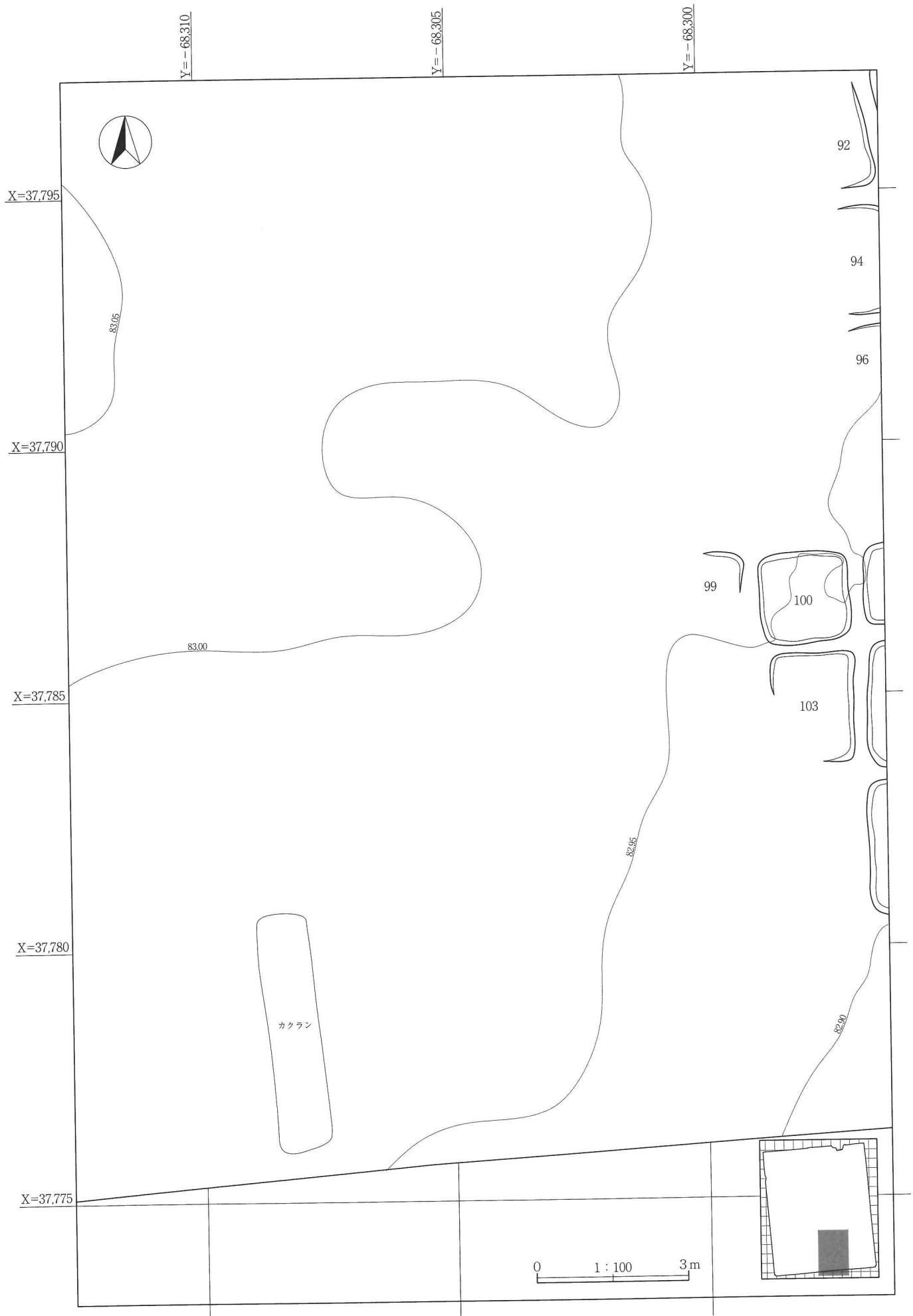
第31図 Hr-FA洪水層下水田平面図(8)



第 32 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (9)



第 33 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (10)

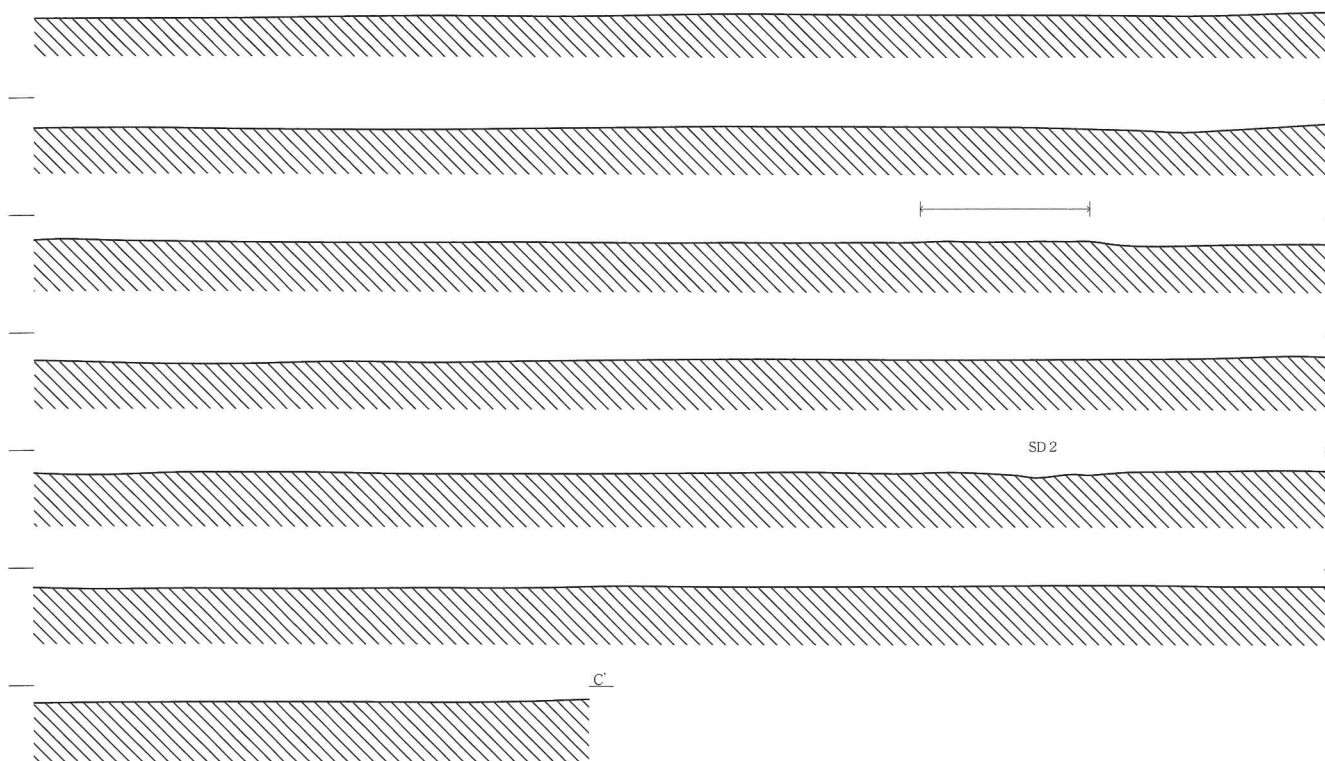


第 34 図 Hr-FA 洪水層下水田平面図 (11)

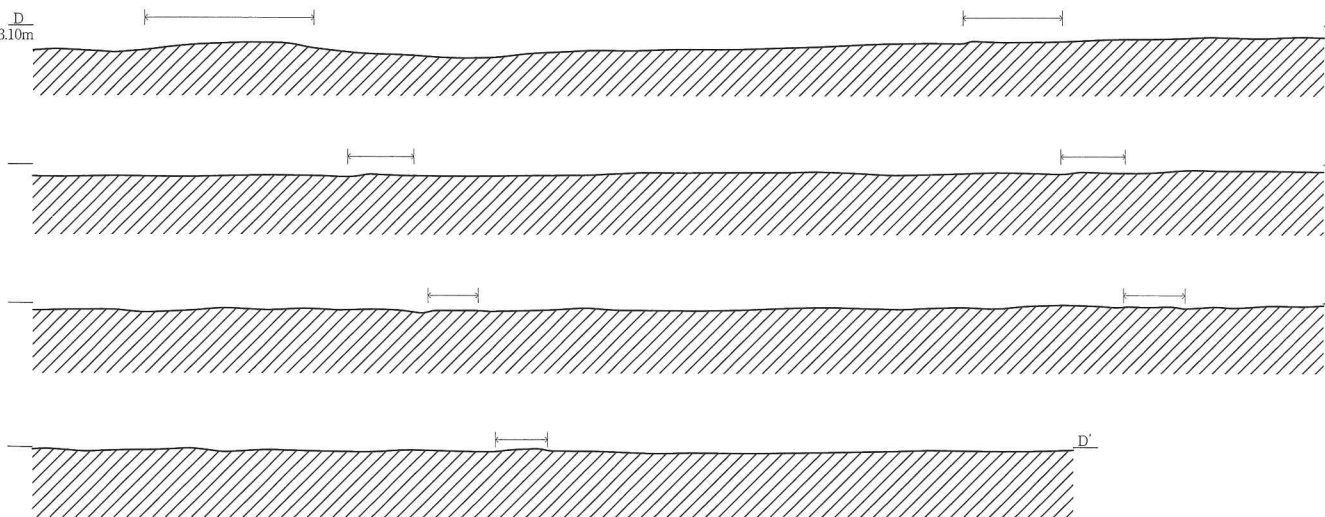


第 36 図 Hr-FA 洪水層下水田断面図 (1)

$\frac{C}{L=83.30m}$

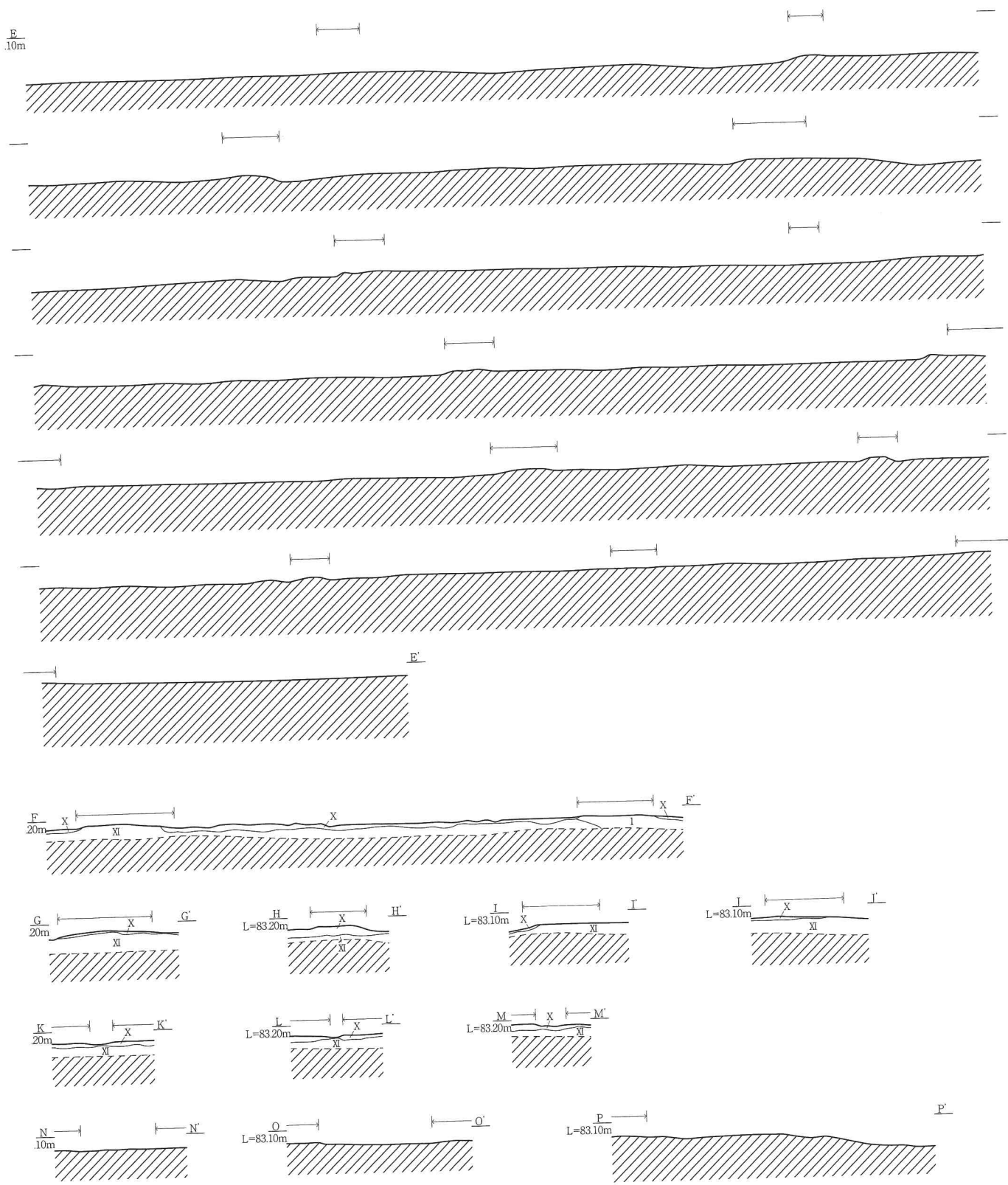


$\frac{D}{L=83.10m}$



第 37 図 Hr-FA 洪水層下水田断面図 (2)

0 1 : 60 2m



Hr-FA 洪水層下水田畦畔 SP7 ~ N
 X 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FA 水田耕作土層。黒褐色粘質土主体。As-C 軽石が少量混入する。
 XI 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色粘質土層。部分的に鉄分沈着がみられる。締まり強い、粘性強い。
 I 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色粘質土層。細粒砂を微量含む。締まり強い、粘性やや強い。

0 1 : 60 2 m

第 38 図 Hr-FA 洪水層下水田断面図 (3)

第3表 Hr-FA 洪水層下水田計測表

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (㎡)	南北 (㎡)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
1	X=37,834 ~ 37,835 Y= - 68,337 ~ - 68,338	1.26	(0.81)	1.91	83.19	-	83.19	83.19	-	
2	X=37,832 ~ 37,833 Y= - 68,336 ~ - 68,338	2.12	1.47	1.39	83.16	-	83.16	83.17	83.19	
3	X=37,830 ~ 37,832 Y= - 68,339 ~ - 68,341	1.56	(0.83)	1.75	-	83.18	83.17	-	83.18	
4	X=37,830 ~ 37,832 Y= - 68,338 ~ - 68,339	2.11	1.18	1.50	83.18	83.18	83.16	83.16	83.16	
5	X=37,830 ~ 37,832 Y= - 68,336 ~ - 68,338	2.21	1.22	1.54	83.16	83.16	83.17	83.14	83.13	
6	X=37,830 ~ 37,832 Y= - 68,335 ~ - 68,336	1.73	(1.16)	1.64	83.17	-	83.14	83.16	-	
7	X=37,839 ~ 37,840 Y= - 68,339 ~ - 68,340	1.53	(0.80)	1.69	-	83.17	83.16	-	83.17	
8	X=37,828 ~ 37,830 Y= - 68,338 ~ - 68,339	1.96	1.05	1.68	83.16	83.16	83.15	83.16	83.16	
9	X=37,828 ~ 37,830 Y= - 68,336 ~ - 68,338	1.79	1.05	1.45	83.16	83.17	83.16	83.16	83.17	
10	X=37,828 ~ 37,830 Y= - 68,335 ~ - 68,336	1.30	(0.70)	1.51	83.17	83.16	83.16	83.14	83.14	
11	X=37,828 ~ 37,830 Y= - 68,334 ~ - 68,335	1.17	(0.69)	1.76	83.14	-	83.15	83.14	-	
12	X=37,827 ~ 37,828 Y= - 68,339 ~ - 68,340	0.55	(0.82)	(1.12)	-	83.16	-	-	-	
13	X=37,825 ~ 37,828 Y= - 68,338 ~ - 68,339	2.58	1.05	1.96	83.17	83.16	83.16	83.16	83.16	
14	X=37,826 ~ 37,828 Y= - 68,336 ~ - 68,338	2.72	1.27	1.91	83.14	83.14	83.16	83.16	83.16	
15	X=37,826 ~ 37,828 Y= - 68,335 ~ - 68,336	1.45	0.69	1.62	83.12	83.16	83.13	83.13	83.13	
16	X=37,826 ~ 37,828 Y= - 68,334 ~ - 68,335	1.36	0.85	1.31	83.12	83.16	83.13	83.13	83.13	
17	X=37,823 ~ 37,825 Y= - 68,337 ~ - 68,339	2.03	(1.03)	1.81	-	83.16	83.17	83.16	83.16	
18	X=37,823 ~ 37,826 Y= - 68,336 ~ - 68,337	2.10	1.30	2.02	83.16	83.16	83.16	83.16	83.16	
19	X=37,824 ~ 37,826 Y= - 68,333 ~ - 68,335	3.54	1.76	1.72	83.14	83.14	83.15	83.16	83.16	
20	X=37,822 ~ 37,823 Y= - 68,337 ~ - 68,338	0.20	(0.52)	(0.49)	-	83.15	-	-	-	
21	X=37,835 ~ 37,838 Y= - 68,315 ~ - 68,317	2.80	1.06	2.09	83.12	83.16	83.16	83.14	83.15	
22	X=37,833 ~ 37,835 Y= - 68,319 ~ - 68,321	2.54	1.14	1.90	83.15	83.15	83.14	83.16	83.15	
23	X=37,833 ~ 37,835 Y= - 68,318 ~ - 68,319	2.46	1.28	1.71	83.15	83.15	83.14	83.16	83.16	
24	X=37,834 ~ 37,835 Y= - 68,316 ~ - 68,318	2.48	1.37	1.53	83.16	83.16	83.17	83.16	83.16	
25	X=37,833 ~ 37,835 Y= - 68,314 ~ - 68,316	3.05	1.23	1.97	83.14	83.16	83.14	83.16	83.15	
26	X=37,834 ~ 37,836 Y= - 68,313 ~ - 68,314	1.33	1.02	(1.32)	-	-	83.16	83.14	83.14	
27	X=37,834 ~ 37,835 Y= - 68,310 ~ - 68,312	1.51	1.14	(1.59)	-	-	83.14	-	83.14	
28	X=37,834 ~ 37,835 Y= - 68,310 ~ - 68,311	1.98	1.21	(1.54)	-	-	83.14	83.14	83.13	
29	X=37,834 ~ 37,836 Y= - 68,308 ~ - 68,310	1.69	(0.95)	(1.55)	-	-	83.12	83.13	83.12	
30	X=37,830 ~ 37,833 Y= - 68,319 ~ - 68,320	2.39	1.04	1.89	83.15	83.14	83.13	83.13	83.13	
31	X=37,831 ~ 37,833 Y= - 68,317 ~ - 68,318	3.00	1.32	1.94	83.16	83.16	83.16	83.14	83.16	
32	X=37,831 ~ 37,834 Y= - 68,315 ~ - 68,317	2.99	1.38	1.95	83.16	83.16	83.16	83.16	83.16	
33	X=37,831 ~ 37,833 Y= - 68,313 ~ - 68,315	3.13	1.28	2.04	83.15	83.14	83.13	83.16	83.12	
34	X=37,832 ~ 37,834 Y= - 68,312 ~ - 68,314	1.99	(1.21)	1.94	83.13	-	83.16	83.14	-	
35	X=37,832 ~ 37,834 Y= - 68,310 ~ - 68,311	0.29	(0.53)	1.07	-	83.14	-	-	83.14	
36	X=37,831 ~ 37,834 Y= - 68,309 ~ - 68,311	2.36	1.14	1.81	83.14	83.14	83.12	83.12	83.14	
37	X=37,832 ~ 37,834 Y= - 68,308 ~ - 68,309	2.42	1.72	1.88	83.13	83.11	83.12	83.12	83.12	
38	X=37,828 ~ 37,831 Y= - 68,318 ~ - 68,320	2.35	1.11	1.72	83.12	83.12	83.11	83.14	83.14	

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (㎡)	南北 (㎡)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
39	X=37,829 ~ 37,831 Y= - 68,317 ~ - 68,318	2.80	1.18	2.03	83.12	83.14	83.12	83.13	83.13	
40	X=37,829 ~ 37,832 Y= - 68,315 ~ - 68,317	3.10	1.40	1.94	83.14	83.15	83.13	83.16	83.12	
41	X=37,824 ~ 37,828 Y= - 68,317 ~ - 68,319	3.60	1.37	2.37	83.13	83.14	83.14	83.14	83.14	
42	X=37,828 ~ 37,829 Y= - 68,315 ~ - 68,316	1.07	1.53	(0.63)	83.16	83.13	-	-	-	
43	X=37,829 ~ 37,831 Y= - 68,313 ~ - 68,315	2.50	1.16	1.73	83.14	83.12	83.12	83.13	83.12	
44	X=37,829 ~ 37,832 Y= - 68,312 ~ - 68,313	2.09	(1.14)	2.09	83.13	-	83.14	83.13	83.13	
45	X=37,829 Y= - 68,311 ~ - 68,313	1.16	1.48	(0.76)	83.14	83.13	-	-	-	
46	X=37,830 ~ 37,832 Y= - 68,311	1.37	(0.53)	2.00	-	83.11	83.12	-	83.12	
47	X=37,830 ~ 37,832 Y= - 68,309 ~ - 68,310	1.51	1.27	(1.39)	83.13	83.13	83.12	-	-	
48	X=37,830 ~ 37,832 Y= - 68,308 ~ - 68,309	1.03	(0.96)	(1.38)	83.12	83.12	83.11	-	-	
49	X=37,820 ~ 37,821 Y= - 68,325 ~ - 68,326	0.22	(0.86)	(0.54)	-	-	-	-	83.13	
50	X=37,821 ~ 37,822 Y= - 68,324 ~ - 68,325	0.80	(1.05)	(1.08)	-	-	-	83.14	83.14	
51	X=37,821 ~ 37,822 Y= - 68,323 ~ - 68,324	1.14	(0.84)	(1.49)	-	-	-	83.14	83.14	
52	X=37,819 ~ 37,820 Y= - 68,325 ~ - 68,326	0.59	(0.73)	(1.35)	83.12	83.12	83.12	-	-	
53	X=37,819 ~ 37,820 Y= - 68,324 ~ - 68,325	1.57	0.96	1.69	83.13	83.13	83.13	83.13	83.13	
54	X=37,819 ~ 37,821 Y= - 68,323 ~ - 68,324	1.38	0.76	1.83	83.13	83.13	83.13	83.13	83.13	
55	X=37,817 ~ 37,819 Y= - 68,326 ~ - 68,328	1.51	1.03	1.77	83.12	83.12	83.12	-	-	
56	X=37,816 ~ 37,817 Y= - 68,325	0.44	0.67	1.51	-	-	-	-	83.13	
57	X=37,816 ~ 37,818 Y= - 68,324 ~ - 68,325	1.48	1.05	1.92	83.12	83.12	83.11	-	-	
58	X=37,816 ~ 37,818 Y= - 68,322 ~ - 68,323	1.07	0.72	2.10	83.12	83.12	83.11	-	83.11	
59	X=37,814 ~ 37,815 Y= - 68,328	0.21	(0.51)	(0.91)	-	83.11	-	-	-	
60	X=37,814 ~ 37,815 Y= - 68,326 ~ - 68,327	0.89	0.84	(1.02)	83.11	83.11	-	-	-	
61	X=37,814 ~ 37,815 Y= - 68,325 ~ - 68,326	1.23	0.95	(1.42)	83.12	83.12	-	-	-	
62	X=37,806 ~ 37,807 Y= - 68,322 ~ - 68,324	1.55	1.15	(1.41)	83.05	83.04	83.04	-	-	
63	X=37,806 ~ 37,807 Y= - 68,321 ~ - 68,322	0.34	(0.68)	(1.25)	83.06	-	-	-	-	
64	X=37,839 ~ 37,841 Y= - 68,298 ~ - 68,303	0.52	4.69	(0.95)	-	-	-	83.13	83.12	
65	X=37,835 ~ 37,840 Y= - 68,297 ~ - 68,302	20.46	4.36	5.03	83.09	83.10	83.07	83.08	83.04	
66	X=37,830 ~ 37,835 Y= - 68,297 ~ - 68,301	20.99	3.92	4.80	83.07	83.09	83.07	83.06	83.08	
67	X=37,824 ~ 37,830 Y= - 68,297 ~ - 68,301	19.30	3.68	5.05	83.07	83.07	83.04	83.04	83.03	
68	X=37,819 ~ 37,824 Y= - 68,297 ~ - 68,301	18.66	3.51	4.71	83.04	83.04	83.03	83.03	83.02	
69	X=37,813 ~ 37,819 Y= - 68,296 ~ - 68,301	20.50	3.63	5.12	83.05	83.03	83.03	83.03	83.02	
70	X=37,808 ~ 37,813 Y= - 68,294 ~ - 68,299	15.51	2.63	4.87	83.03	83.02	82.99	82.98	82.98	
71	X=37,802 ~ 37,808 Y= - 68,294 ~ - 68,298	20.27	3.38	5.59	82.96	82.96	82.89	82.90	82.91	
72	X=37,841 ~ 37,842 Y= - 68,293 ~ - 68,297	2.83	(1.14)	5.04	-	-	82.97	83.06	83.03	
73	X=37,838 ~ 37,841 Y= - 68,292 ~ - 68,297	14.57	4.43	2.85	83.09	83.00	82.96	83.02	83.00	
74	X=37,838 ~ 37,843 Y= - 68,288 ~ - 68,292	17.72	4.01	(4.18)	83.06	83.06	83.06	83.03	83.06	
75	X=37,834 ~ 37,838 Y= - 68,290 ~ - 68,297	21.37	5.80	3.25	83.00	83.01	82.93	83.05	83.02	
76	X=37,835 ~ 37,838 Y= - 68,288 ~ - 68,290	8.65	2.46	3.04	83.01	83.04	83.02	83.03	83.04	
77	X=37,831 ~ 37,834 Y= - 68,290 ~ - 68,297	19.78	5.95	3.01	83.01	83.01	82.89	83.03	83.00	

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (㎡)	南北 (㎡)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
78	X=37,831 ~ 37,835 Y= - 68,288 ~ - 68,290	8.45	2.34	3.35	83.03	83.04	83.02	83.01	83.04	
79	X=37,827 ~ 37,831 Y= - 68,291 ~ - 68,296	20.08	5.26	3.30	83.02	83.01	82.89	83.04	82.99	
80	X=37,828 ~ 37,831 Y= - 68,288 ~ - 68,290	4.90	1.23	2.99	82.98	83.06	83.03	82.98	83.03	
81	X=37,823 ~ 37,827 Y= - 68,291 ~ - 68,296	14.53	(3.95)	3.32	82.96	82.93	82.84	82.92	82.92	
82	X=37,823 ~ 37,827 Y= - 68,289 ~ - 68,291	4.92	1.05	(4.09)	82.98	83.00	82.96	82.95	82.98	
83	X=37,818 ~ 37,823 Y= - 68,290 ~ - 68,295	25.06	4.68	4.63	82.91	82.96	82.79	82.91	82.98	
84	X=37,812 ~ 37,817 Y= - 68,291 ~ - 68,293	6.69	1.40	4.93	82.81	82.81	82.79	82.79	82.78	
85	X=37,806 ~ 37,812 Y= - 68,291 ~ - 68,293	7.33	1.02	6.10	82.74	82.76	82.76	82.73	82.71	
86	X=37,801 ~ 37,806 Y= - 68,291 ~ - 68,293	5.10	1.17	4.41	82.73	82.73	82.73	82.73	82.73	
87	X=37,795 ~ 37,801 Y= - 68,289 ~ - 68,291	5.43	0.87	5.29	82.69	82.69	82.67	82.68	82.68	
88	X=37,789 ~ 37,795 Y= - 68,288 ~ - 68,290	4.81	0.72	5.44	82.69	82.68	82.69	82.66	82.65	
89	X=37,785 ~ 37,789 Y= - 68,288 ~ - 68,290	5.58	1.39	4.03	82.63	82.63	82.64	82.66	82.67	
90	X=37,780 ~ 37,785 Y= - 68,288 ~ - 68,289	3.91	0.83	4.65	82.63	82.62	82.62	82.63	82.63	
91	X=37,776 ~ 37,780 Y= - 68,288 ~ - 68,289	2.96	0.83	(3.72)	82.62	82.62	82.59	-	-	
92	X=37,795 ~ 37,797 Y= - 68,296 ~ - 68,297	0.79	(0.60)	(1.95)	-	-	-	-	82.97	
93	X=37,795 ~ 37,797 Y= - 68,294 ~ - 68,296	3.83	1.44	2.14	82.90	-	82.93	82.93	-	
94	X=37,792 ~ 37,794 Y= - 68,296 ~ - 68,297	1.98	(0.90)	2.08	-	82.98	82.96	-	82.96	
95	X=37,792 ~ 37,795 Y= - 68,294 ~ - 68,295	3.11	1.44	2.04	82.94	-	82.92	82.90	-	
96	X=37,791 ~ 37,792 Y= - 68,296	0.57	(0.83)	1.78	-	82.90	-	-	-	
97	X=37,790 ~ 37,792 Y= - 68,294 ~ - 68,295	1.96	(0.98)	1.71	82.94	-	82.92	82.92	-	
98	X=37,788 ~ 37,791 Y= - 68,294 ~ - 68,295	1.63	(1.11)	1.69	82.90	-	82.88	82.91	-	
99	X=37,787 Y= - 68,299	0.32	(0.72)	(0.71)	-	82.96	-	-	-	
100	X=37,785 ~ 37,787 Y= - 68,296 ~ - 68,298	3.12	1.60	1.63	82.97	82.95	82.94	82.95	82.93	
101	X=37,786 ~ 37,787 Y= - 68,295 ~ - 68,296	2.27	1.26	1.47	82.93	82.93	82.92	82.93	82.92	
102	X=37,786 ~ 37,788 Y= - 68,292 ~ - 68,295	2.88	(2.20)	1.48	82.91	82.89	82.89	82.90	82.89	
103	X=37,783 ~ 37,785 Y= - 68,297 ~ - 68,298	2.81	1.48	2.06	82.92	82.93	82.93	-	82.92	
104	X=37,783 ~ 37,786 Y= - 68,295 ~ - 68,296	3.96	1.45	2.31	82.92	82.91	82.91	82.91	82.91	
105	X=37,783 ~ 37,786 Y= - 68,292 ~ - 68,294	5.31	2.04	2.20	82.90	82.88	82.88	82.91	82.89	
106	X=37,780 ~ 37,783 Y= - 68,295 ~ - 68,296	4.30	1.37	2.56	82.91	82.90	82.89	82.91	82.89	
107	X=37,780 ~ 37,783 Y= - 68,292 ~ - 68,294	5.51	1.80	2.60	82.87	82.89	82.88	82.86	82.87	
108	X=37,779 ~ 37,780 Y= - 68,293 ~ - 68,294	1.59	1.51	(1.24)	82.88	82.84	82.85	-	-	

3 第1面 (As-B 軽石下水田)

(1) 水田 (第39～55図、第4・5表、PL.15～23)

被覆層と水田の残存状況 嘉承三年、天仁元年(1108)の浅間山噴火を起因とする As-B 軽石堆積層により被覆された水田面が確認された。As-B 軽石堆積は調査区全域で確認され、層厚は6～10 cmを測る。調査区の中央部を東西方向に走向する坪境の畦畔が1条、と坪内にそれぞれの水田を区画する畦畔16条を確認。畦畔は水田面からの高さもあり残存は良好である。

水田域の地形 確認された水田面は西から東、北から南へ緩やかに低くなる。調査区四隅の比高差は北側東西で0.12 m、南側東西で0.10 m、西側南北で0.24 m、東側南北で0.22 m、北西から南東の比高差は0.34 mとなっている。

畦畔の走向と区画 調査区中央部を東西に横断する坪境の大畦畔を1条、坪内の水田を区画する南北畦畔7条、東西畦畔9条、計17条の畦畔を検出した。大畦畔の規模は確認長53.62 m、上幅0.71～1.10 m、下幅1.19～1.46 m、水田面との比高差約0.05 m、断面形状は浅い弧状を呈する。高さはないものの、他の畦畔と比較しても幅は大型であることがわかる。水口の検出には至っていない。坪内を区画する畦畔は平均上幅0.30 m、下幅0.50 m、断面形状は浅い山形を呈する。畦畔Pは他の畦畔と交わらないことや位置関係からやや異質に感じる。取配水に関係する畦畔の可能性が考えられる。水田区画は大畦畔と坪内畦畔によって20の水田面に分かれる。田面形状は方形が多く、長方形の区画(水田面8・18)も少数であるが散見される。

耕作土 締まりの強い黒褐色土として確認。層厚は3～5 cmを測る。水田耕作土表層に耕作が行われていなかったことを示す黒色帯は確認されなかった。

取配水の方向 今回の調査では水口は調査区南側中央の1箇所のみ確認されている。大畦畔に水口が備わっていない事や水田面の傾斜を考慮すると、それぞれの坪内で北から南へ、西から東へ配水されていたと考えられる。

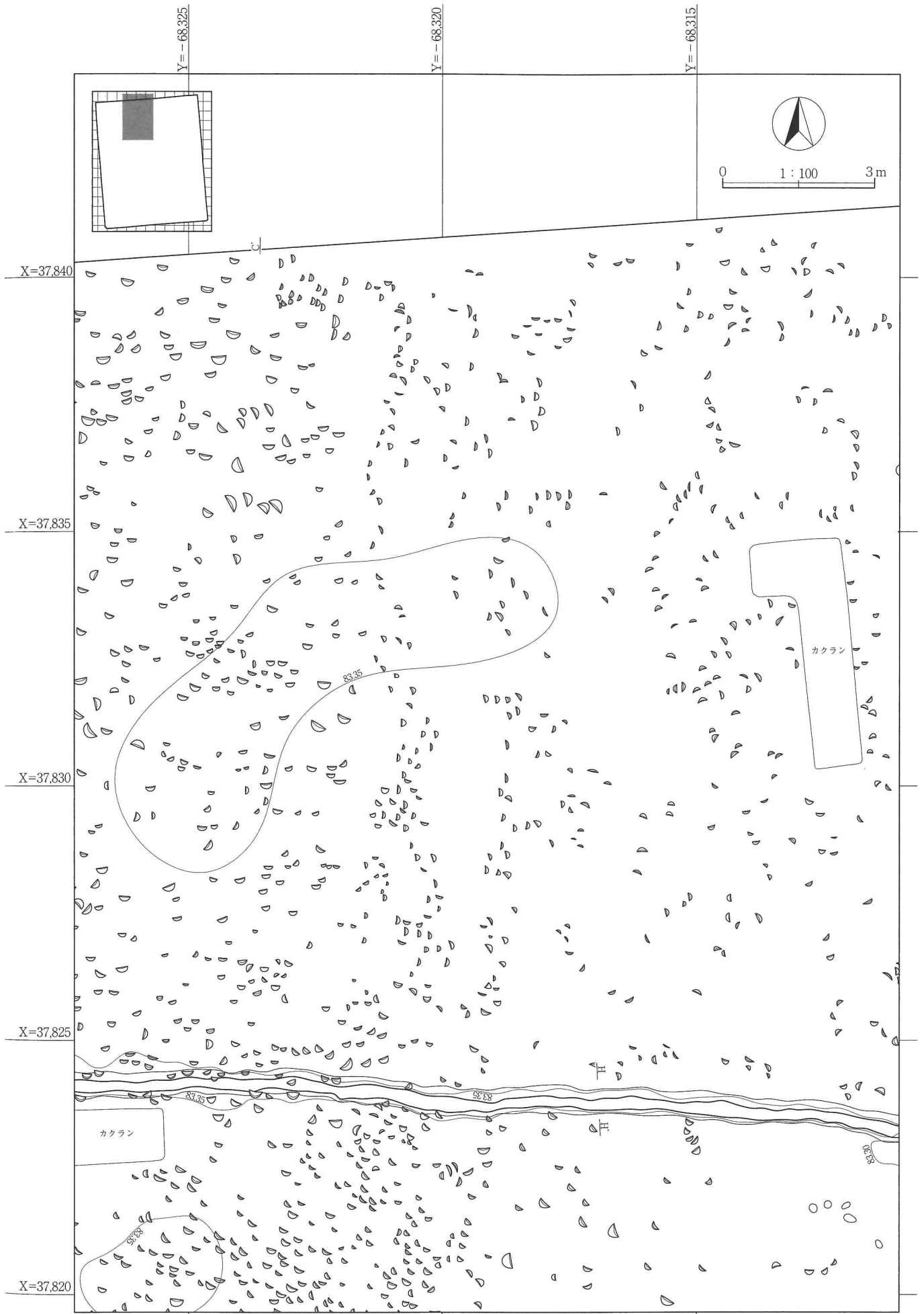
足跡 As-B 軽石除去後、楕円～円形状の凹凸が列状に並ぶ痕跡を確認した。その形状から牛馬と考えられる直線的な足跡列と判断した。人と考えられる足跡は確認できなかった。走向軸から主に東西方向(N - 86～96° - W)と北西-南東方向(N - 38～51° - W)の2つに分類される。その他にも列状にはならない足跡と思われる多数の凹凸が散見される。確認された範囲は調査区東側と南側である。

耕作具痕 調査区北西隅部を中心に耕作具痕を確認した。覆土中に As-B 軽石を含むことから As-B 軽石降下後に耕作された痕跡と考えられる。耕作具痕はほぼ全て半円形の形状を呈していることから、鋤鉤先の差し込み跡と想定される。耕作具痕同士が切り合うものが少ないことから、反復されたものではなく1回の耕作耕作行動の所産と考えられる。形状の方向から判断すると主に北側から地面に突き刺し、南側へ向かって掘り起こされている。

出土遺物 全体的に遺物は少なく、須恵器・土師器の小破片が出土している。畦畔上(畦畔F・O)から置石が2点出した(第43・49図)。

備考 調査区東側で溝状に浅く窪んでいるのは、第2面SD 1および第3面のSD 3の影響により沈下しているためである。

第 39 図 第 1 面全体図



第 41 図 As-B 軽石下水田平面図 (2)



第 42 図 As-B 軽石下水田平面図 (3)



第 43 図 As-B 軽石下水田平面図 (4)



第 44 図 As-B 軽石下水田平面図 (5)



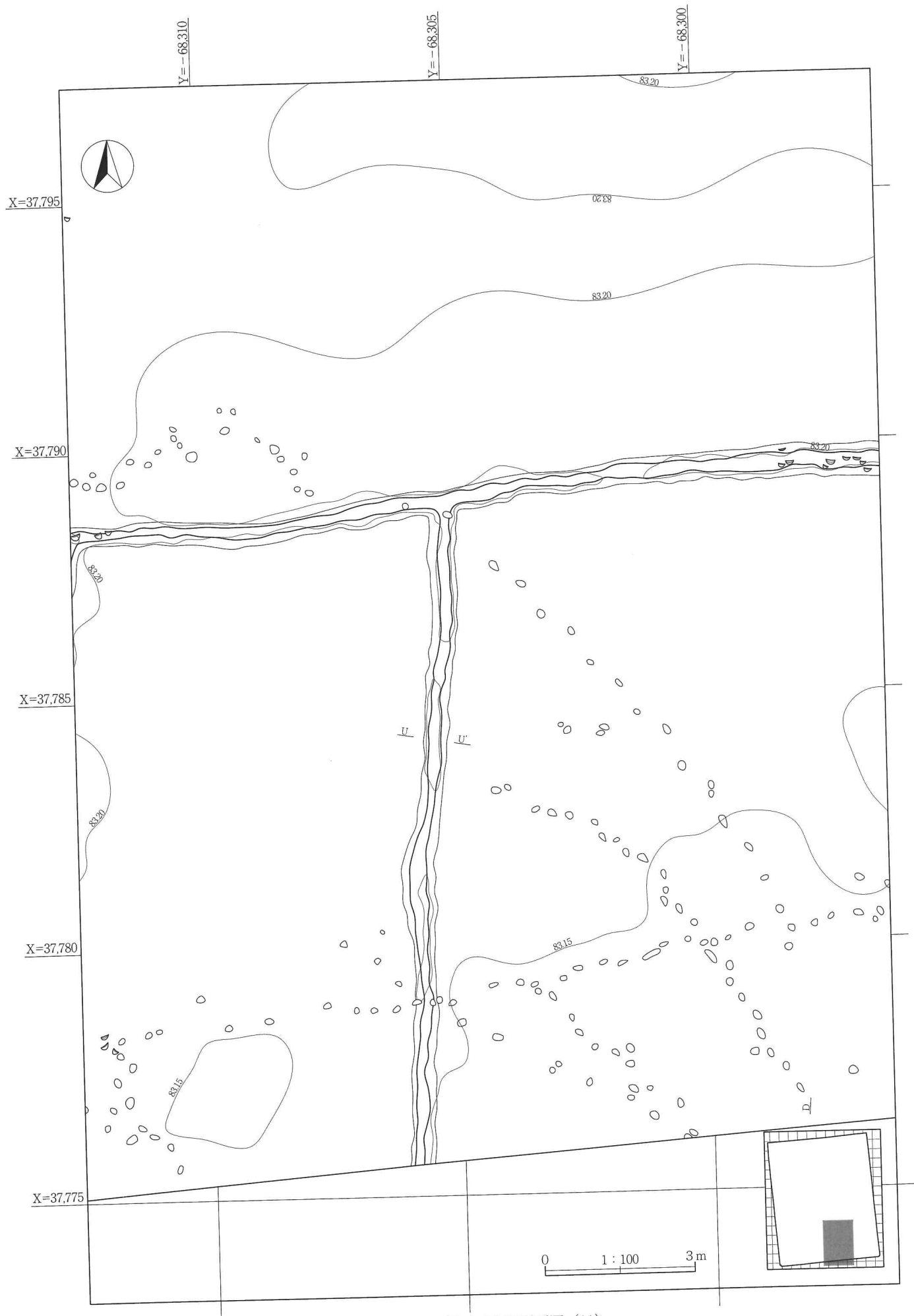
第 45 図 As-B 軽石下水田平面図 (6)



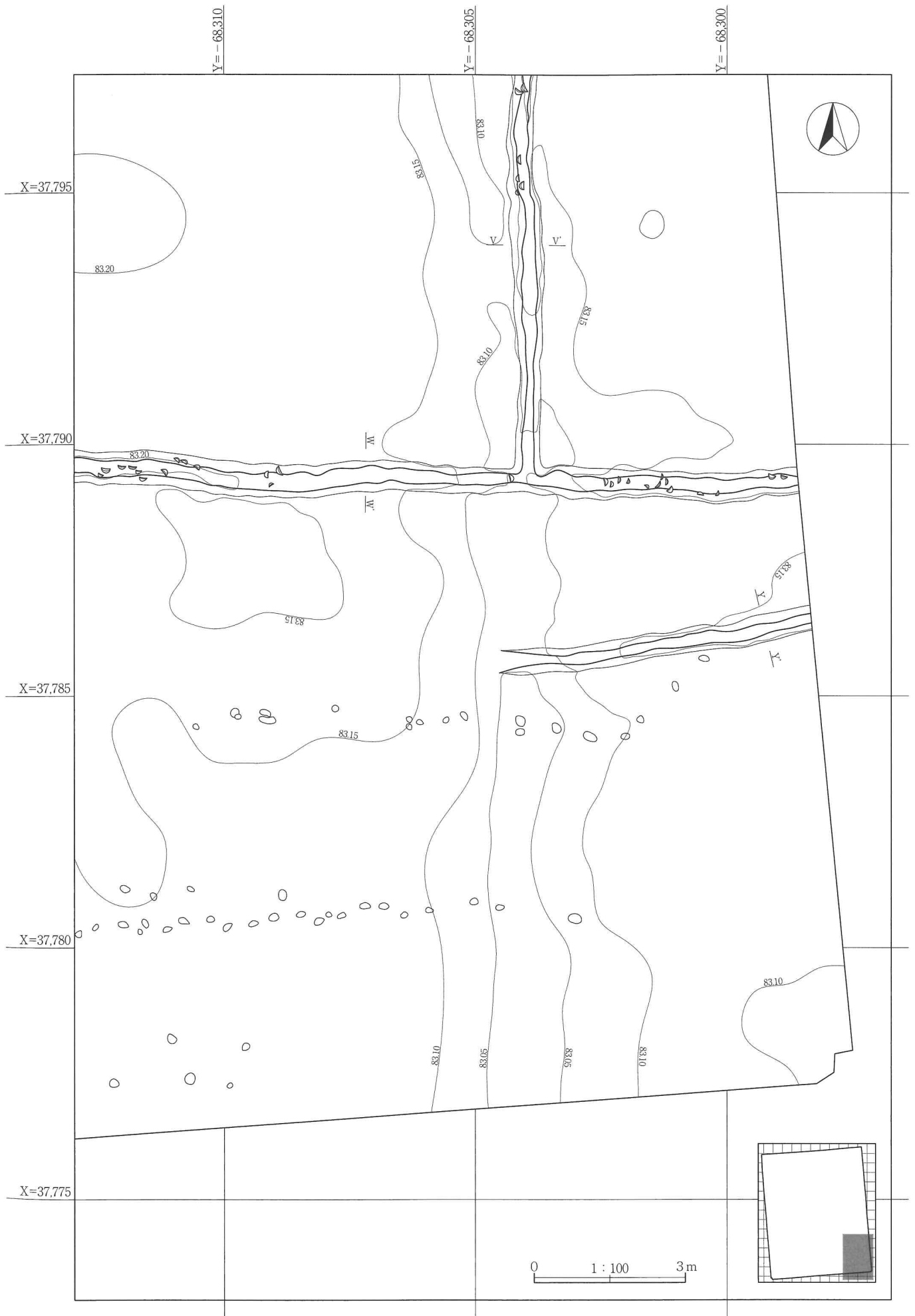
第 46 図 As-B 軽石下水田平面図 (7)



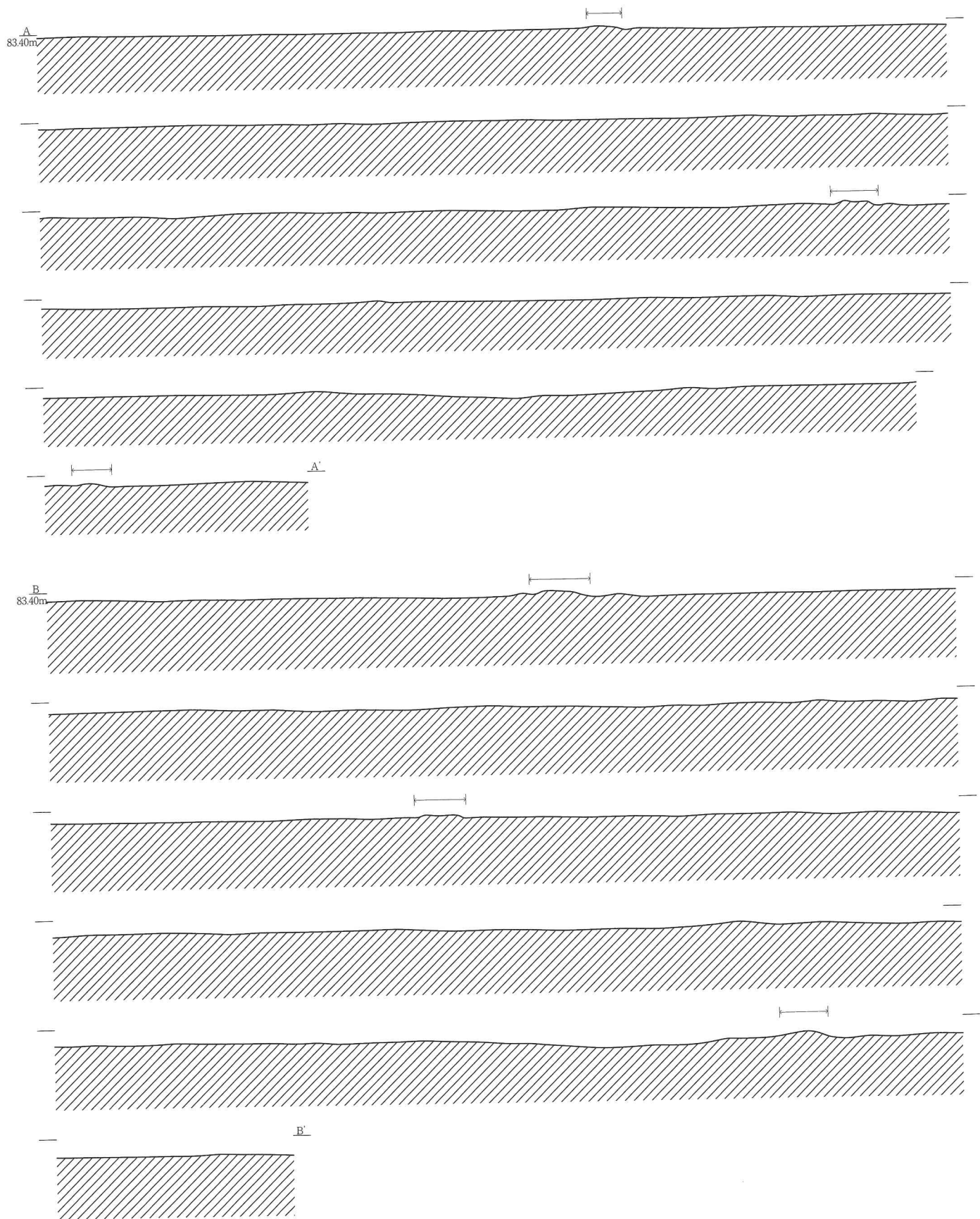
第 48 図 As-B 軽石下水田平面図 (9)



第 50 図 As-B 軽石下水田平面図 (11)

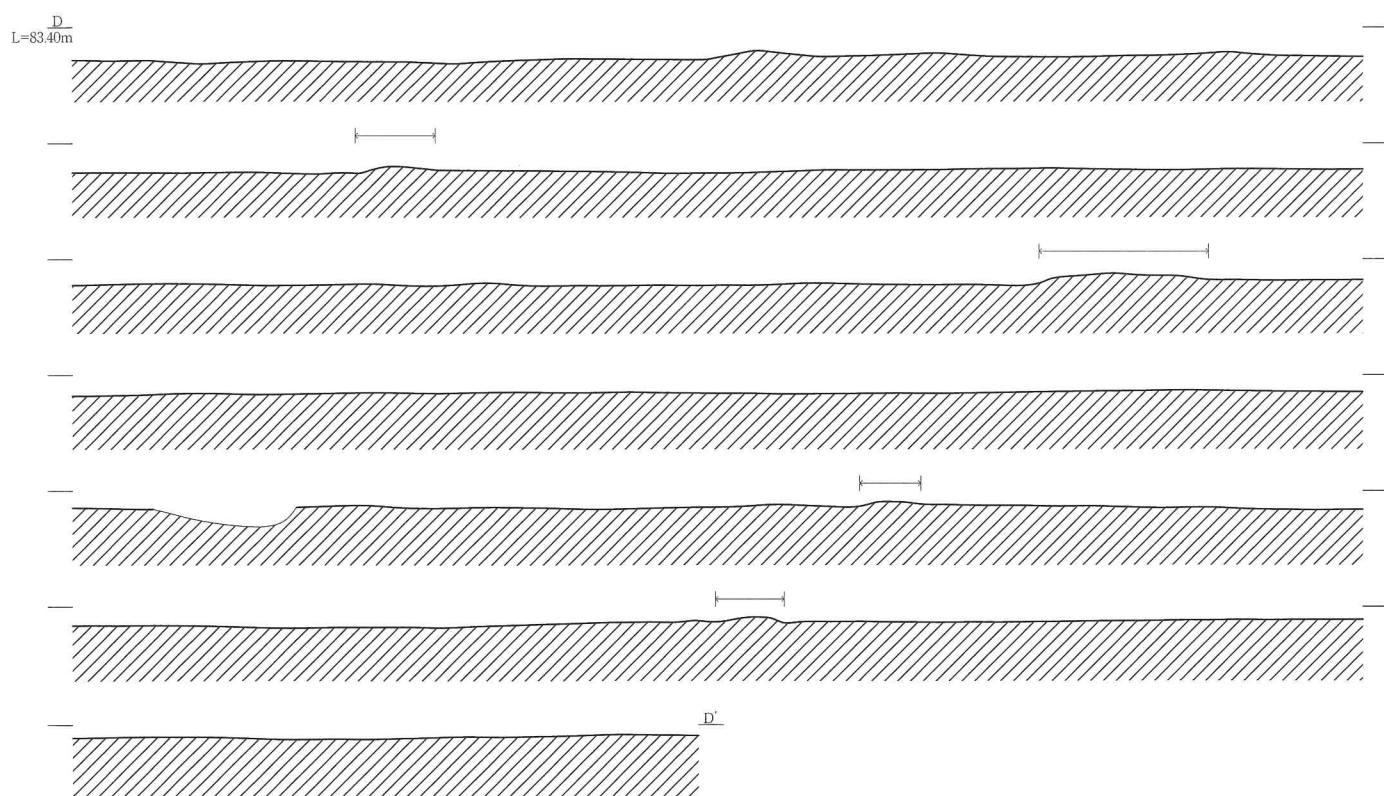
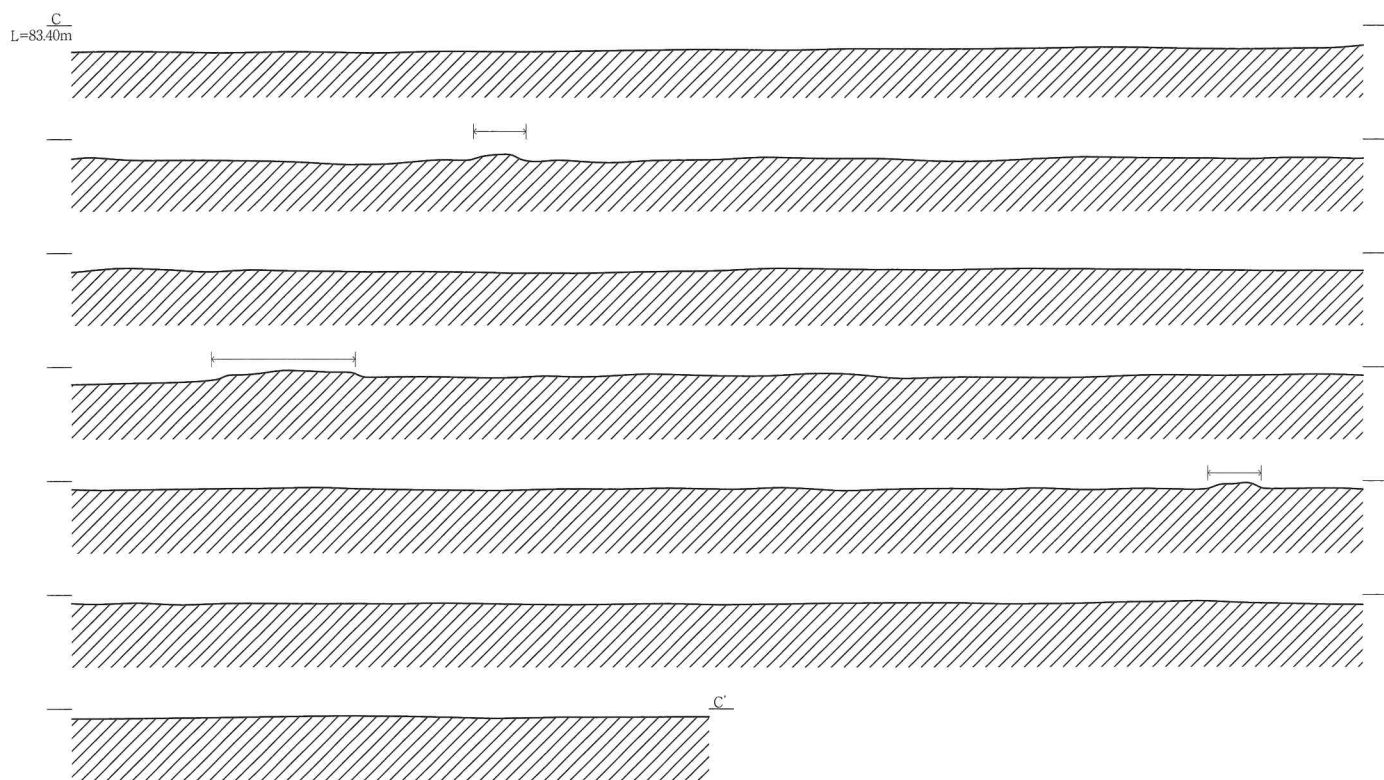


第 51 図 As-B 軽石下水田平面図 (12)



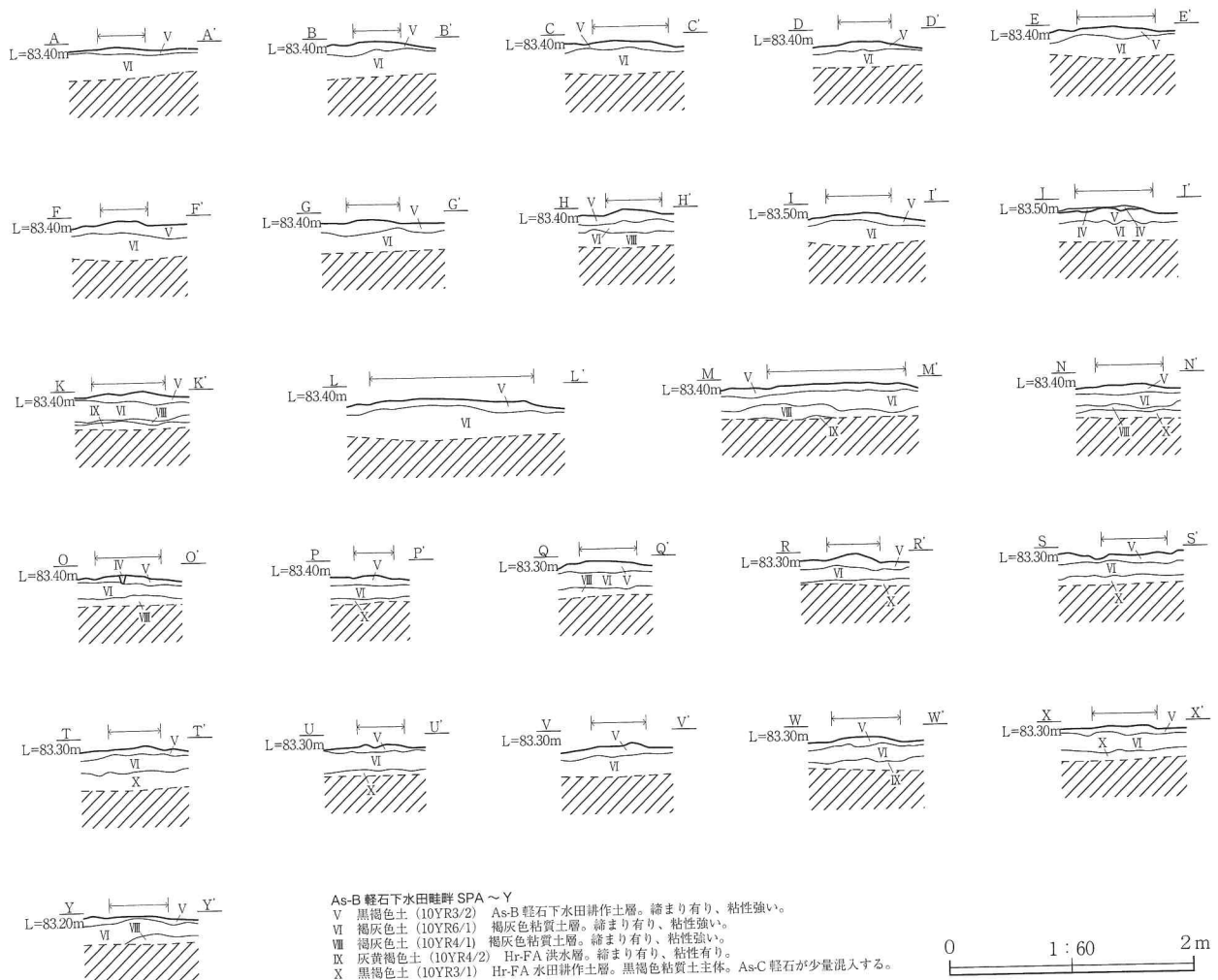
0 1 : 60 2 m

第 52 図 As-B 軽石下水田断面図 (1)

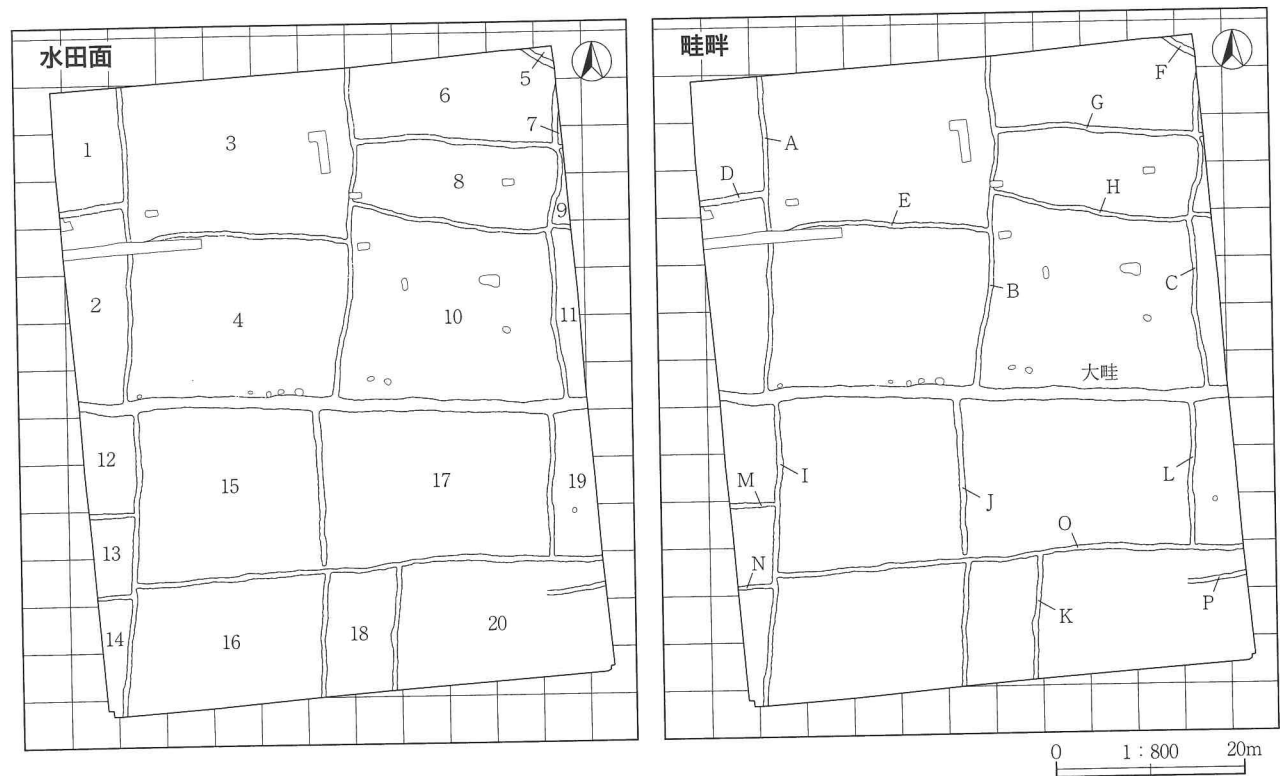


0 1 : 60 2 m

第 53 図 As-B 軽石下水田断面図 (2)



第54図 As-B 軽石下水田断面図 (3)



第55図 As-B 軽石下水田面・畦畔名称図

第4表 As-B 軽石下水田計測表

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (㎡)	南北 (㎡)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
1	X=37,826 ~ 37,839 Y= - 68,333 ~ - 68,341	(89.76)	(7.56)	(12.41)	-	-	83.44	-	83.38	
2	X=37,806 ~ 37,827 Y= - 68,333 ~ - 68,340	(119.24)	(7.31)	20.56	-	83.38	83.36	-	83.36	
3	X=37,823 ~ 37,841 Y= - 68,309 ~ - 68,333	(399.77)	24.05	(16.76)	-	-	83.33	83.36	83.32	
4	X=37,806 ~ 37,823 Y= - 68,309 ~ - 68,333	375.27	22.88	17.82	83.34	83.32	83.33	83.34	83.31	
5	X=37,841 ~ 37,843 Y= - 68,287 ~ - 68,290	(2.61)	(2.73)	(1.98)	-	-	-	83.32	-	
6	X=37,833 ~ 37,843 Y= - 68,287 ~ - 68,309	(186.84)	22.16	(9.98)	-	83.34	83.32	83.34	83.31	
7	X=37,832 ~ 37,836 Y= - 68,287	(1.43)	(0.94)	(3.67)	-	-	-	83.32	-	
8	X=37,824 ~ 37,833 Y= - 68,287 ~ - 68,309	174.69	21.41	8.89	83.34	83.32	83.31	83.31	83.30	
9	X=37,824 ~ 37,832 Y= - 68,286 ~ - 68,288	(7.65)	(2.08)	8.15	83.32	-	-	83.32	-	
10	X=37,805 ~ 37,826 Y= - 68,287 ~ - 68,311	420.80	19.29	22.20	83.31	83.30	83.27	83.27	83.24	
11	X=37,806 ~ 37,824 Y= - 68,284 ~ - 68,288	(41.22)	17.86	(2.48)	83.27	-	-	83.24	-	
12	X=37,794 ~ 37,805 Y= - 68,332 ~ - 68,338	(60.26)	(6.02)	10.47	-	83.32	83.31	-	83.27	
13	X=37,785 ~ 37,794 Y= - 68,332 ~ - 68,337	(36.39)	(4.68)	8.74	-	83.27	83.26	-	83.26	
14	X=37,773 ~ 37,785 Y= - 68,333 ~ - 68,337	(33.40)	(3.88)	(12.42)	-	83.23	-	-	-	
15	X=37,787 ~ 37,805 Y= - 68,313 ~ - 68,332	346.22	18.88	17.83	83.27	83.27	83.26	83.24	83.22	
16	X=37,773 ~ 37,788 Y= - 68,312 ~ - 68,334	(272.86)	20.28	(13.59)	83.23	83.22	83.18	-	-	
17	X=37,788 ~ 37,805 Y= - 68,288 ~ - 68,313	385.75	24.52	15.39	83.23	83.19	83.19	83.20	83.18	
18	X=37,775 ~ 37,788 Y= - 68,305 ~ - 68,313	(96.58)	7.19	(12.84)	83.19	83.17	83.17	-	-	
19	X=37,789 ~ 37,805 Y= - 68,283 ~ - 68,288	(70.74)	(5.12)	15.61	83.18	-	83.18	83.16	-	
20	X=37,775 ~ 37,789 Y= - 68,282 ~ - 68,305	(284.73)	(22.85)	12.74	83.17	-	83.11	-	-	

第5表 As-B 軽石下水田畦畔計測表

畦畔	グリッド	主軸方向	確認長 (m)	畦畔高 (m)	畦畔の 断面形状	上幅 (m)	下幅 (m)	備考
大畦畔	X=37,806 ~ 37,839 Y= - 68,332 ~ - 68,334	N - 90° - W	53.62	0.05	逆台形	1.10	1.46	
A	X=37,806 ~ 37,839 Y= - 68,332 ~ - 68,334	N - 1° - W	33.41	0.05	浅い弧状	0.32	0.47	
B	X=37,806 ~ 37,841 Y= - 68,308 ~ - 68,311	N - 3° - E	35.17	0.04	浅い弧状	0.29	0.47	
C	X=37,806 ~ 37,839 Y= - 68,286 ~ - 68,288	N - 2° - W	32.14	0.04	浅い弧状	0.29	0.59	
D	X=37,826 ~ 37,827 Y= - 68,333 ~ - 68,340	N - 83° - E	6.92	0.08	浅い弧状	0.41	0.75	
E	X=37,823 ~ 37,824 Y= - 68,309 ~ - 68,331	N - 88° - W	21.33	0.06	浅い弧状	0.30	0.50	
F	X=37,840 ~ 37,843 Y= - 68,288 ~ - 68,291	N - 86° - W	3.55	0.05	浅い弧状	0.29	0.76	
G	X=37,832 ~ 37,834 Y= - 68,289 ~ - 68,308	N - 81° - W	21.97	0.05	浅い弧状	0.27	0.69	
H	X=37,823 ~ 37,827 Y= - 68,286 ~ - 68,309	N - 65° - W	23.00	0.05	浅い弧状	0.27	0.57	
I	X=37,773 ~ 37,805 Y= - 68,332 ~ - 68,334	N - 4° - E	32.14	0.04	浅い弧状	0.24	0.41	
J	X=37,775 ~ 37,805 Y= - 68,312 ~ - 68,314	N - 1° - W	29.94	0.04	浅い弧状	0.25	0.49	
K	X=37,775 ~ 37,788 Y= - 68,304 ~ - 68,306	N - 4° - E	13.17	0.05	浅い弧状	0.35	0.71	
L	X=37,789 ~ 37,804 Y= - 68,288 ~ - 68,289	N - 1° - E	15.13	0.03	浅い弧状	0.24	0.55	
M	X=37,794 Y= - 68,332 ~ - 68,337	N - 89° - W	4.66	0.04	浅い弧状	0.24	0.54	
N	X=37,785 ~ 37,786 Y= - 68,333 ~ - 68,337	N - 87° - W	3.80	0.03	浅い弧状	0.19	0.41	
O	X=37,786 ~ 37,789 Y= - 68,283 ~ - 68,332	N - 86° - E	49.39	0.06	浅い弧状	0.38	0.66	
P	X=37,785 ~ 37,786 Y= - 68,283 ~ - 68,289	N - 82° - E	6.04	0.03	浅い弧状	0.21	0.48	

第6章 まとめ

今回の調査で古墳時代の水田1面(Hr-FA洪水層下水田)と平安時代の水田(As-B軽石下水田)1面、合計2面の水田が確認された。As-B軽石下水田は良好な状態であったが、Hr-FA洪水層下水田は南に隣接する萩原沖中遺跡10と同様に遺存状態が不良であった。また第3面では古墳時代前期の水路が検出され、土器や木杭が出土している。ここでは今回の調査成果を基に周辺遺跡の調査事例と照らし合わせて各調査面について概観し、若干の検討を加えまとめとしたい。

1 第3面(As-C軽石混土層下面)

今回の調査で溝が1条確認された(SD3)。断面逆台形を呈するこの溝は直線的に延びることや、面取りされた木杭が複数箇所打ち込まれていることから、人工的に掘削された水路と考えられる。水が絶えず流れていたのだろうか、土層断面の観察で砂を多く含む埋土が互層状にみられる。遺構の年代は出土遺物から古墳時代前期と想定される。西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱではこの溝の南側延長部が確認されている(第56図)。先行する「2号水路址」の後、「1号水路址」として再度掘削されたものとして2時期の水路址として報告されている。水路址の規模は上端幅2.2m前後、深さ0.7m前後で断面逆カマボコ形を呈している。出土遺物はS字口縁台付甕、高坏、器台を中心に面取りされた木杭、鋤状農具が出土している。遺構形状や出土遺物は本遺跡のSD3と同じ様相を示している。

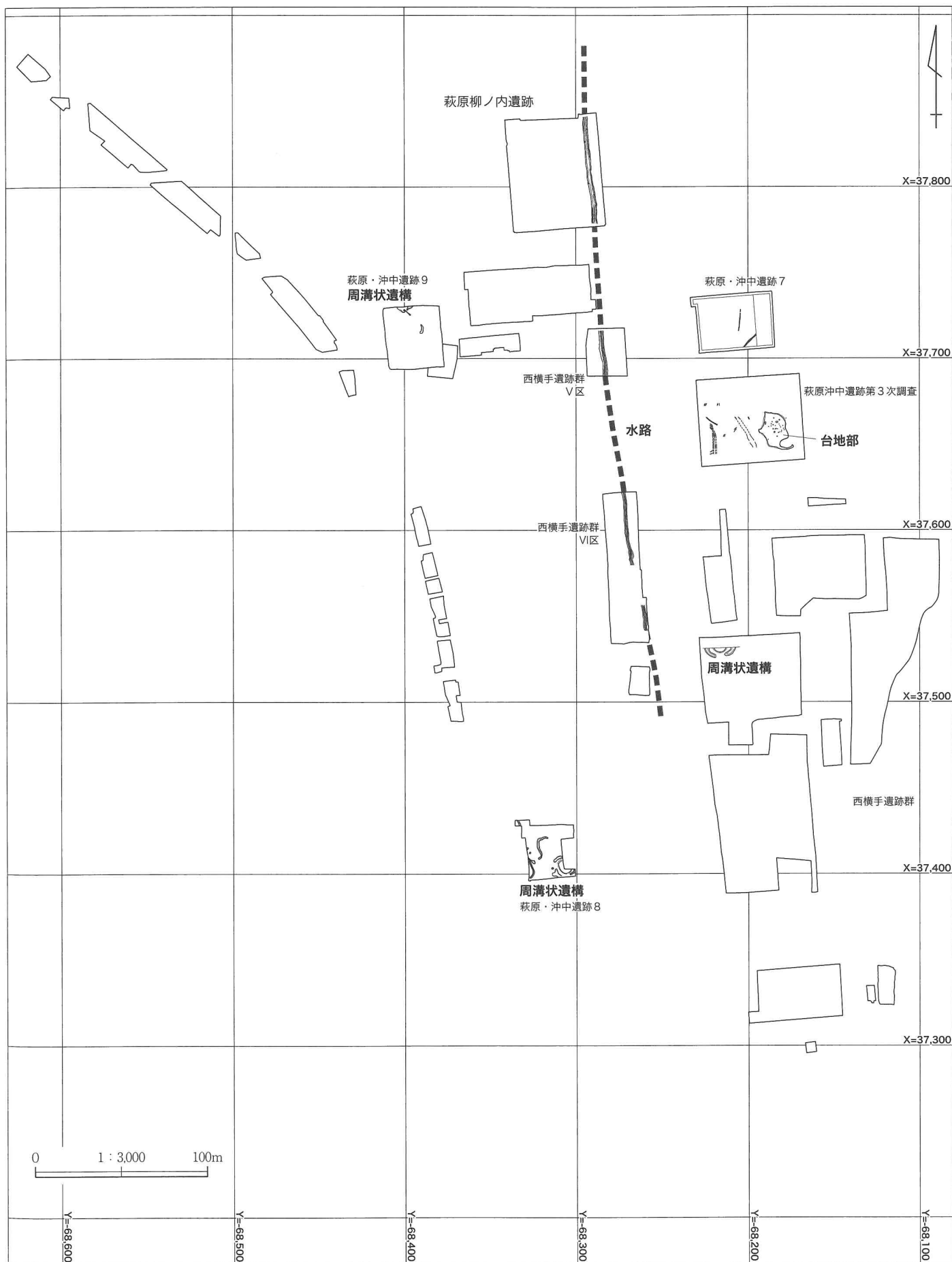
萩原町周辺の遺跡では古墳時代前期に帰属する遺構が少数ではあるが検出されている。本遺跡南西側の萩原沖中遺跡9では浅い弧状の溝と土橋状に残された未掘部からなる周溝状遺構が1基確認されている。西横手遺跡群や萩原沖中遺跡8でも同様な形状の周溝状遺構(周溝墓含む)が確認されている。西横手遺跡群では調査区壁際であるため全体像の把握ができていないが、隅丸あるいは円形の周溝墓と想定されている。周溝内にはマウンドを持ち、出土遺物はS字口縁台付甕・単口縁台付甕・高坏・壺等が出土している。萩原沖中遺跡8では周溝状遺構として5基検出されており、出土遺物はS字口縁台付甕を中心とした古墳時代前期の遺物が出土している。本遺跡では建物跡等は検出されなかったが、周辺遺跡で古墳時代前期の集落が散在的に分布していることから、本遺跡で確認された水路(SD3)はこれらの集落や周辺に存在するであろう水田や畠等の生産地域へ水を供給する役を担っていたと推測される。

2 Hr-FA洪水層下水田

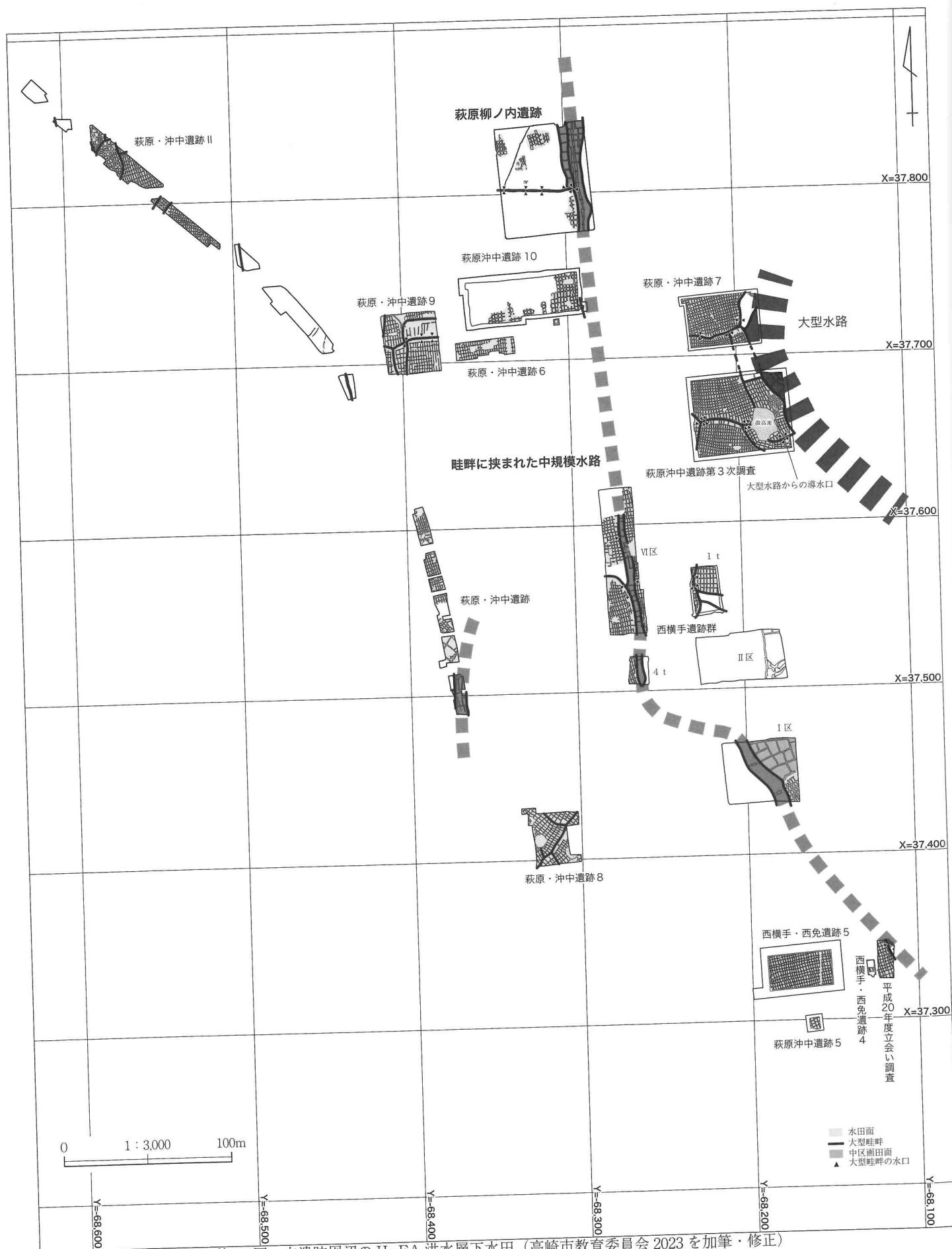
5世紀末から6世紀初頭の榛名山の噴火に起因するHr-FA洪水層に被覆された水田は調査区東側のSD1周辺や北西側の一部で検出されたが、全体的に遺存状態は良好ではない。水田面が確認されなかった場所は上層の洪水層に影響を受けたことにより畦畔が削平されたためと考えられる。本遺跡の南側に位置する萩原沖中遺跡9や萩原沖中遺跡10でも同じ状況が見られることから、本遺跡周辺が洪水の大きな影響を受けた場所であったことが考えられる。

今回の調査で特筆される点は「畦畔に挟まれた中規模水路」が確認されたことである。この水路は西横手遺跡群Ⅵ区で確認されており、この北側の延長部分が本遺跡の水路(SD1)にあたる。萩原沖中遺跡10ではこの水路の西側畦畔と水路へと傾斜する地形が確認されている。下層で確認されたSD3と同じラインを指向することから、SD3の埋没途中であった浅い溝を利用し、水路として再構築したと考えられる。SD3と同様、生産域への配水という重要な役割を果たしていたと推測される。

中規模水路内の水田面は比較的平坦で、畦畔も低い。調査時は湧水が激しい時期であったため、水路内は常に水が流れていた。水路の傾斜も緩やかであるため流れは遅く、水田面には水が滞留し溢れた水は畦畔を越して下



第 56 図 本遺跡周辺の As-C 軽石混土層下の遺構



第57図 本遺跡周辺のHr-FA洪水層下水田（高崎市教育委員会2023を加筆・修正）

流の水田面へと流れてゆく様子がみられた。

3 As-B 軽石下水田

嘉承三年、天仁元年（1108）、浅間山から降下した As-B 軽石に覆われた水田が検出された。As-B 軽石の堆積層は調査区全域で確認され、畦畔の残存も良好であった。本遺跡周辺は As-B 軽石下水田の確認事例が多いことから「条里型水田」の検討が進んでいる地域である。

（1）水田区画

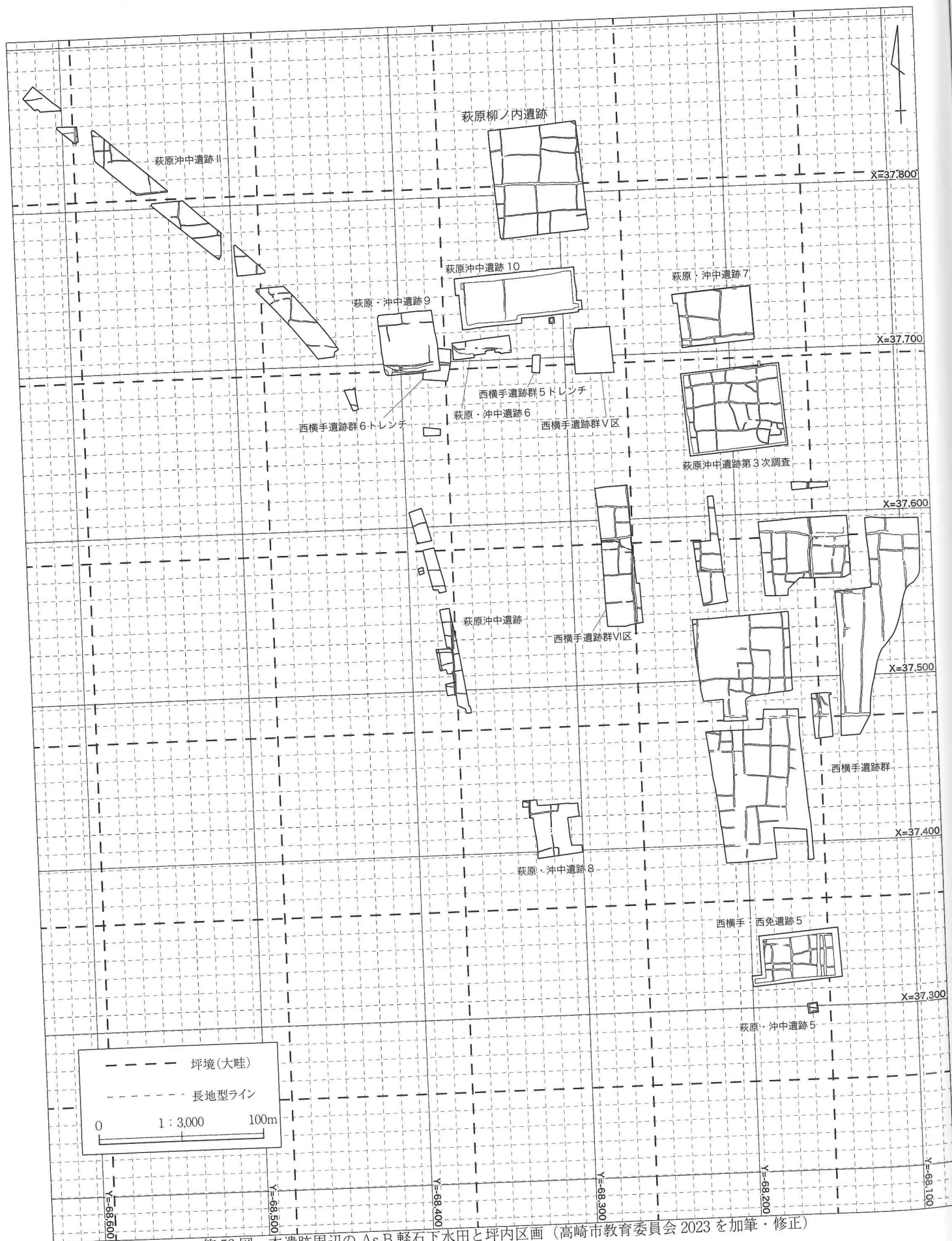
坪境については西横手遺跡群や萩原沖中遺跡等で検出された南北・東西畦畔から一辺 108～110 m 幅とする 1 町方格地割が想定されており、これを基に本遺跡周辺の条里型地割を示したものが第 58 図である。今回の調査では東西方向に走向する大畦畔と坪境内の水田を区画する畦畔が確認された。大畦畔は坪境想定ライン上に位置することから、正確な地割が行われていたことわかる。

周辺遺跡の坪内の区画は長地型・半折型や両者に属さない区画が混在している。その状況から「（中略）制度としてではなく、耕作する際の単位として継承された可能性⁽¹⁾がある」ことが指摘されている。今回の調査でも方形のものが主体を占め、長方形の区画も少数確認できることから、長地型・半折型どちらと判別するには困難である。西横手遺跡群や萩原沖中遺跡第 3 次調査、西横手・西免遺跡 5 では不連続に設定された坪区画内の畦畔が多くみられ、本遺跡の様相と同じ状況がみられる。

本遺跡と隣接遺跡の畦畔との関連性について考察してみたい。本遺跡の水田区画は中央を東西に走向する大畦畔によって北と南の水田区画に分かれる。南の水田区画は萩原沖中遺跡 10 や萩原・沖中遺跡 6 と同じ坪内に属する。第 59 図は本遺跡で確認された畦畔と萩原沖中遺跡 10 で確認された畦畔の関係を示したものである。畦畔 B は本遺跡の大畦畔から南へ直線的に延び、萩原沖中遺跡 10 の畦畔と合致する。萩原沖中遺跡 6 ではこの畦畔 B の延長部分にあたる場所がカクランによって消失確認できなかった。しかしこの畦畔の 1 条西側の南北方向に走向する畦畔 A が萩原沖中遺跡 10 と萩原沖中遺跡 6 とで繋がり同一の畦畔と考えられることから、畦畔 B も同様に萩原沖中遺跡 6 まで延びていたと推測される。本遺跡大畦畔から延びる南北畦畔 C も萩原沖中遺跡 10 へ延びると考えられる。萩原沖中遺跡 10 では畦畔の遺存状況が不良で確認することはできなかったが、南北畦畔が比較的直線的に途切れることなく延びることや、畦畔 A・B との畦畔間隔と合致することから畦畔 C を想定することとした。坪内を約 108～110 m 幅とした場合、西側南北大畦畔から畦畔 A 間が 13.5 m、畦畔 A・B 間：24.15 m、畦畔 B・C 間：約 21.40 m となり畦畔 C から東側南北大畦畔までは約 49.50 m となる。南北畦畔の間隔が 21～24 m となることから、畦畔 C－東側南北大畦畔の間に南北方向の畦畔が 1 条（畦畔 D）あった可能性が考えられる。しかし、本遺跡の大畦畔から南へ延びる最も東側の南北畦畔が位置的にはこの畦畔とラインが合致するが、東西畦畔と交差する所で途切れてしまっている。興味深いのがこの途切れている箇所が下層の SD 1・3 によって浅い溝状に窪んでいる事である。このような地形の影響で構築されなかったのであろうか。いずれにしても周辺状況だけの推測であり、確証がないため畦畔 D は推定される畦畔として今回の報告で提示しておきたい。坪内の区画は様々な形が存在し、統一性が計られていないことも多いが、本遺跡周辺ではある程度南北方向の畦畔に規制されて水田区画が設定されている様相が感じられる。

（2）取配水

萩原地域で確認された水田への取配水に関わる水路（溝）は坪境に沿って走向している。2 本の大畦畔に挟まれた間を流れる水路は東西方向と南北方向のものとに分けられる。本調査で確認された大畦畔には水路が備わっていなかったが、この大畦畔から一区画南の大畦畔では東西方向の水路が確認されている。東西方向に対して南北方向の水路が多いのは、北から南へと傾斜する自然地形に合わせて、下流域へ効率良く配水ができるようにするためだと考えられる。



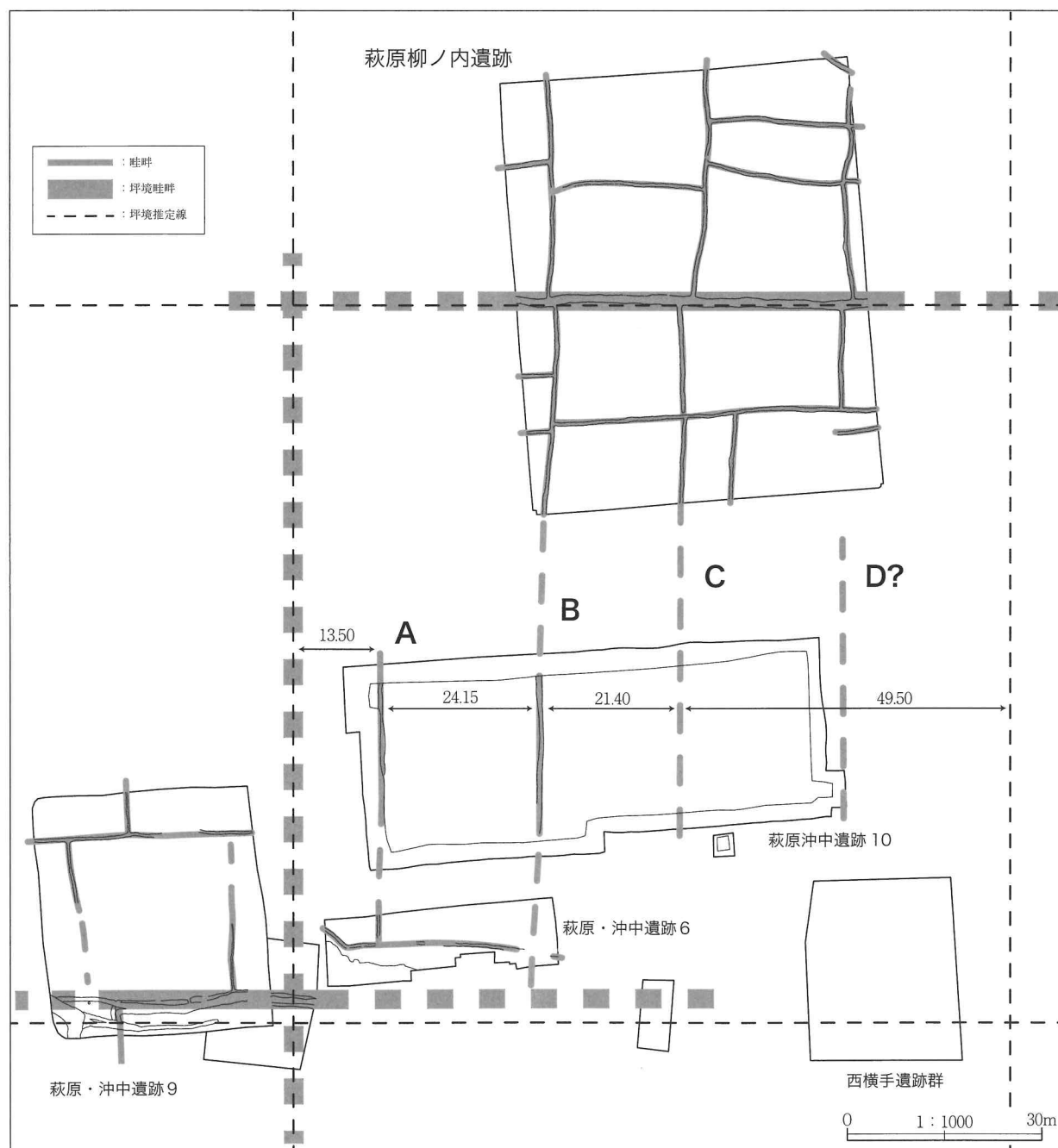
第 58 図 本遺跡周辺の As-B 軽石下水田と坪内区画 (高崎市教育委員会 2023 を加筆・修正)

(3) 耕作具痕

調査区北西部を中心に耕作具痕が検出された。本遺跡周辺で耕作具痕が確認されている遺跡は、萩原沖中遺跡、萩原沖中遺跡3、萩原沖中遺跡6、萩原沖中遺跡10、西横手・西免遺跡5の5遺跡である。全遺跡共通して痕跡同士は切り合っていることが少ないため1回の耕作耕作行動の所産と考えられる。As-B 軽石降下後、災害から復興しようとする人々が耕作を再開していった様子がこの痕跡から読み取ることができる。

註

1. 前田和昭 2013 「第9章 調査の成果と課題」 p 163 (高崎市教委 2013)



第59図 萩原柳ノ内遺跡周辺の畦畔想定図

参考文献

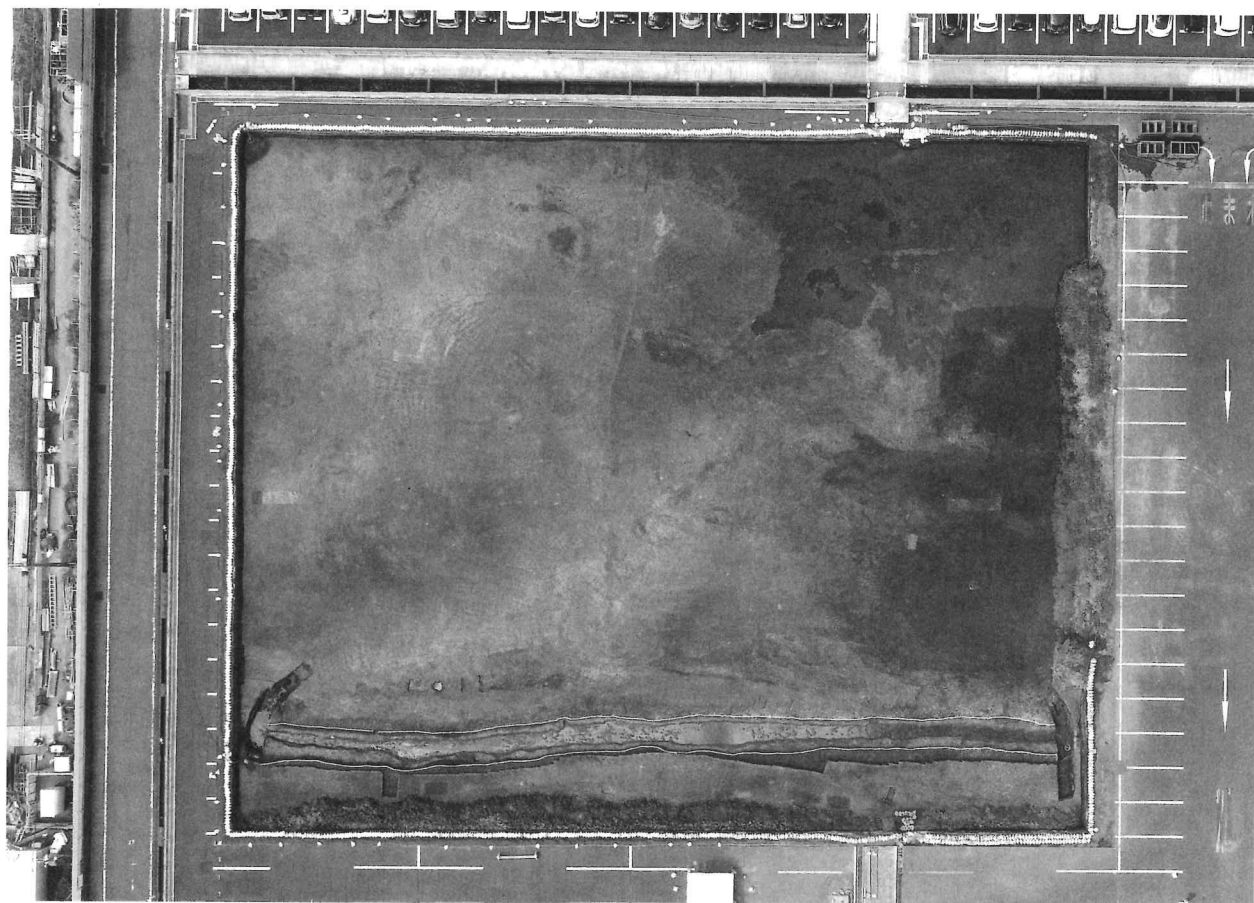
論文等

- 群馬県史編さん委員会 1981 『群馬県史』資料編3
群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城館跡』
高崎市市史編さん委員会 1996 『新編 高崎市史』資料編3 中世Ⅰ
高崎市市史編さん委員会 1998 『新編 高崎市史』資料編1 原始古代Ⅰ
高崎市市史編さん委員会 1999 『新編 高崎市史』資料編2 原始古代Ⅱ
高崎市市史編さん委員会 2000 『新編 高崎市史』通史編2
高崎市市史編さん委員会 2002 『新編高崎市史』資料編8
高崎市市史編さん委員会 2003 『新編 高崎市史』通史編1
かみつけの里博物館第12回特別展 2004 『1108 - 浅間山噴火 - 中世への胎動』 かみつけの里博物館
かみつけの里博物館第14回特別展 2006 『はるな30年物語 - 古墳時代に榛名山が大噴火した。災害と向き合うヒト、そして復興へ。』
かみつけの里博物館

発掘調査報告書

- 群馬県教育委員会文化財保護課 1975 『上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ』
群馬県住宅供給公社 1979 『下新田遺跡』
高崎市教育委員会 1988 『島野村東遺跡』
高崎市教育委員会 1989 『西横手遺跡群(Ⅰ)』
高崎市教育委員会 1990 『西横手遺跡群(Ⅱ)』
高崎市教育委員会 1992 『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』
県央処理区萩原遺跡調査会 1999 『萩原上・下五丁田Ⅰ遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『宿横手三波川遺跡』
高崎市教育委員会 2000 『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書14』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 『甘楽条里遺跡(大山前地区)・福島椿森遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『宿横手三波川遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『西横手遺跡群』
県央処理区萩原遺跡調査会 2001 『萩原上五丁田Ⅱ遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『宿横手三波遺跡・西横手遺跡群』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『上滝榎町北遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『西田遺跡・村中遺跡』
高崎市教育委員会 2003 『萩原八幡西・上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡』
高崎市教育委員会 2005 『萩原沖中遺跡』
高崎市教育委員会 2007 『萩原沖中Ⅱ遺跡』
玉村町教育委員会 2007 『砂町遺跡(第1～3次調査)・尾柄町Ⅲ遺跡・中之坊遺跡』
高崎市教育委員会 2009 『萩原沖中遺跡第3次調査』
高崎市教育委員会 2009 『萩原沖中遺跡5』
高崎市教育委員会 2009 『萩原・沖中遺跡6』
前橋市教育委員会 2010 『南部拠点地区遺跡群No.4』
高崎市教育委員会 2013 『萩原・沖中遺跡7 西横手・西免遺跡4 西横手・西免遺跡5』
前橋市教育委員会 2014 『南部拠点地区遺跡群No.10』
前橋市教育委員会 2014 『南部拠点地区遺跡群No.11』
高崎市教育委員会 2015 『萩原・沖中遺跡8』
高崎市教育委員会 2022 『萩原・沖中遺跡9』
前橋市教育委員会 2022 『南部拠点地区遺跡群No.12』
高崎市教育委員会 2023 『萩原沖中遺跡10』

版 図 真 写



第3面全景（上が西）



第3面北東部全景（上が西）



第3面南東部全景（上が西）



第3面南西部全景（上が西）



第3面北西部全景（上が西）



第3面全景（北から）



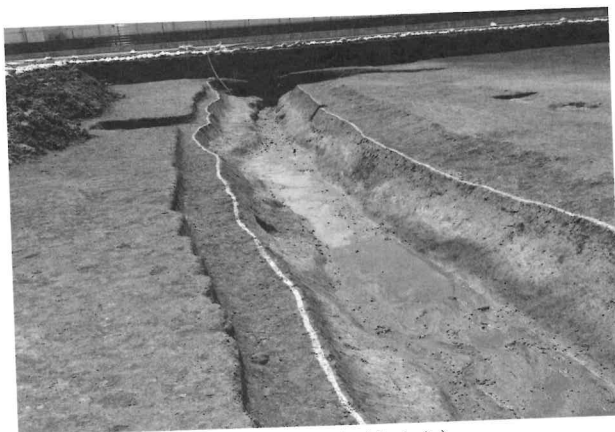
SD 3 全景（北から）



SD 3 全景（北東から）



SD 3 全景（東から）



SD 3 南側全景（北から）



SD 3 中央部全景（南東から）



S D 3 北側全景（北西から）



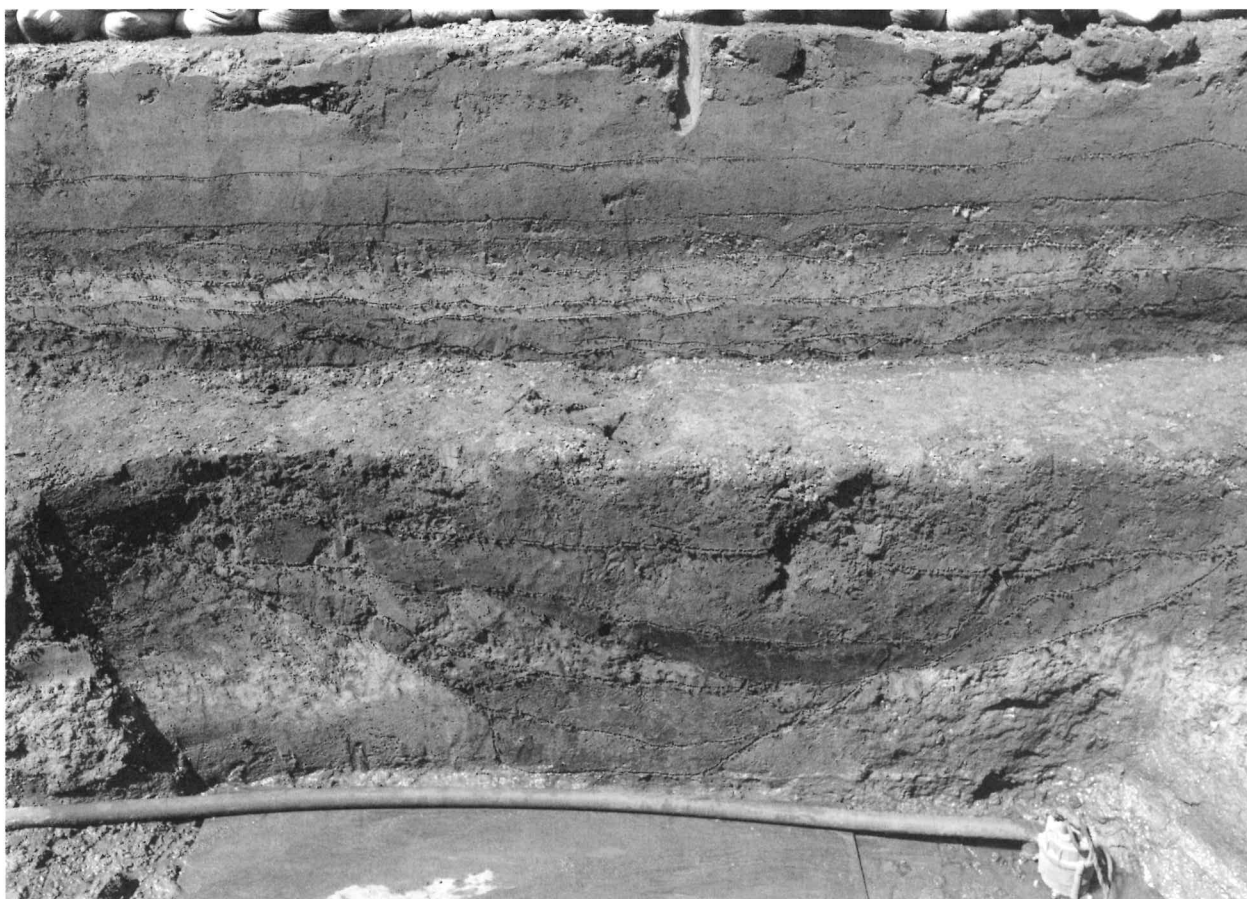
S D 3 木杭出土状況（南東から）



S D 3 ピット状遺構全景（東から）



S D 3 ピット状遺構全景（東から）



S D 3 調査区南壁断面状況（北から）



Hr-FA 洪水層下水田全景（東から）



Hr-FA 洪水層下水田全景（上が西）



Hr-FA 洪水層下水田北東部全景（上が西）



Hr-FA 洪水層下水田南東部全景（上が西）



Hr-FA 洪水層下水田南西部全景（上が西）



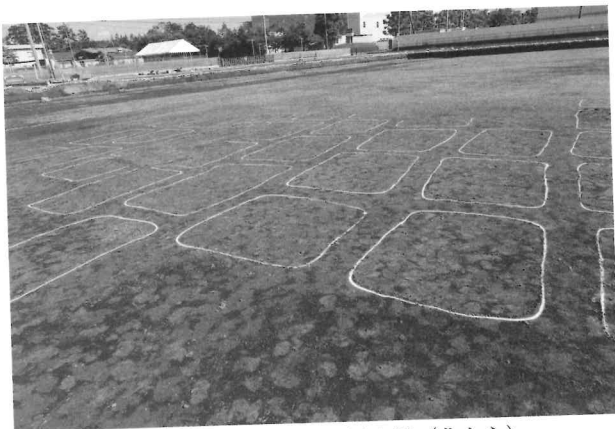
Hr-FA 洪水層下水田北西部全景（上が西）



Hr-FA 洪水層下水田全景（北から）



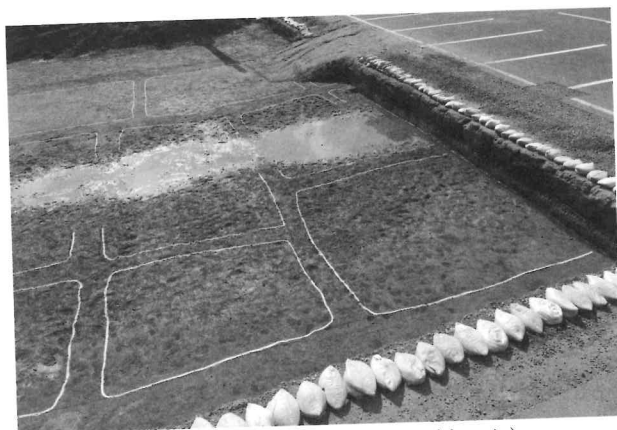
Hr-FA 洪水層下水田北側全景（北から）



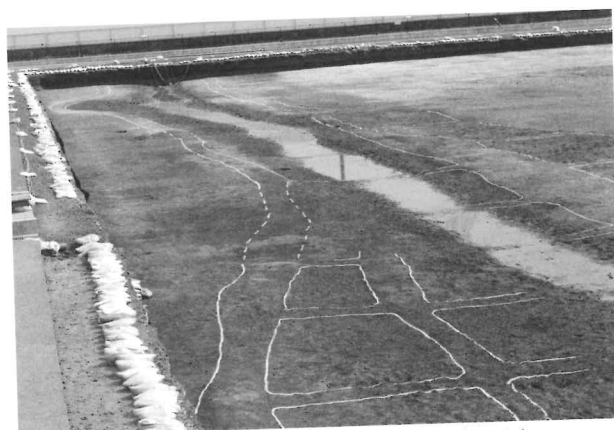
Hr-FA 洪水層下水田北側全景（北から）



Hr-FA 洪水層下水田北西側全景（南東から）



Hr-FA 洪水層下水田北側全景（東から）



Hr-FA 洪水層下水田東側全景（北東から）



SD 1・Hr-FA 洪水層下水田東側全景（北から）



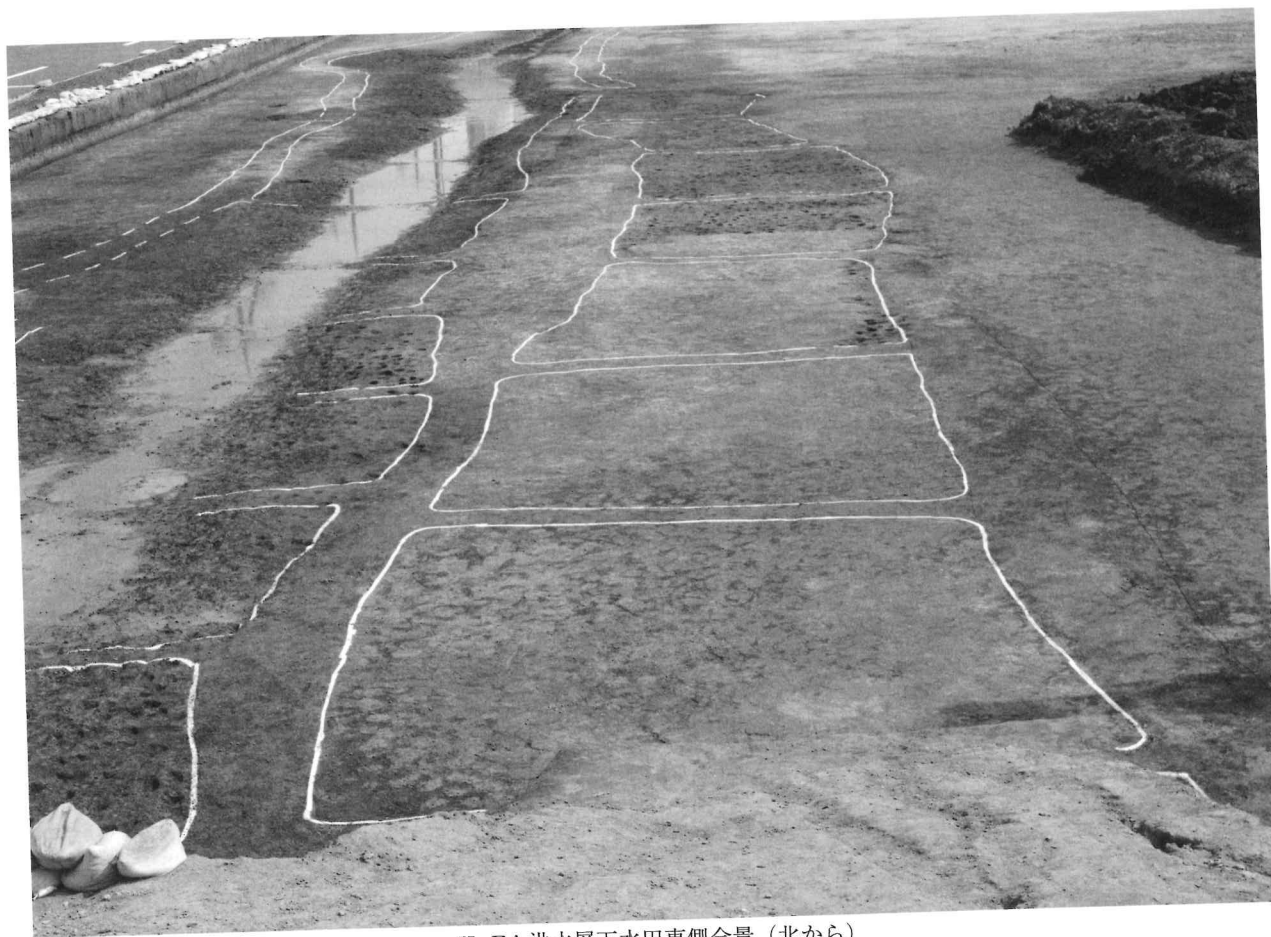
SD 1・Hr-FA 洪水層下水田東側全景（南西から）



SD 1・Hr-FA 洪水層下水田南側全景（南東から）



SD 1 ・ Hr-FA 洪水層下水田東側全景（南西から）



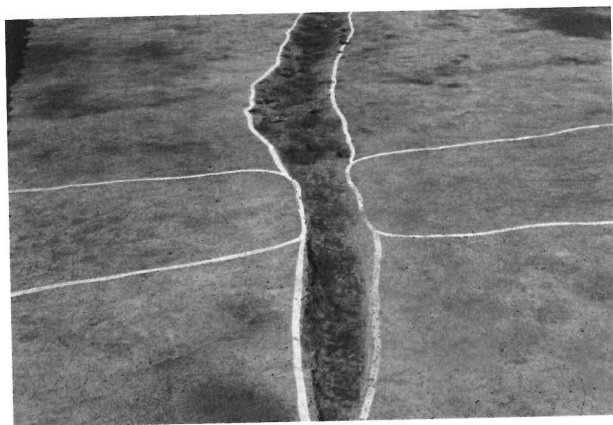
Hr-FA 洪水層下水田東側全景（北から）



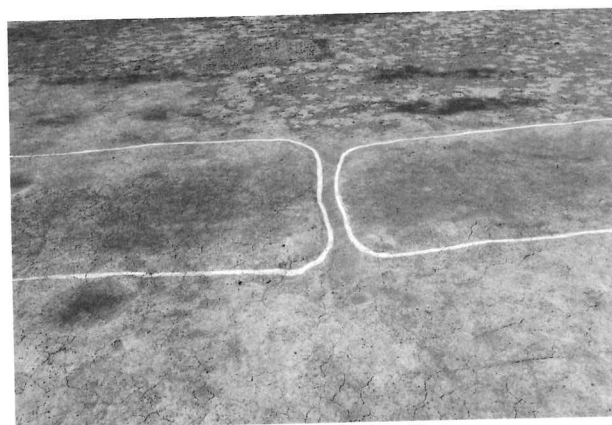
Hr-FA 洪水層下水田大畦畔全景（西から）



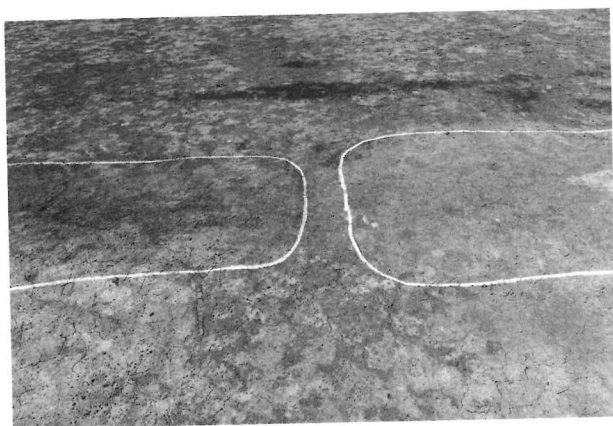
Hr-FA 洪水層下水田大畦畔全景（西から）



水口1全景（南から）



水口2全景（南から）



水口3全景（南から）



水口4・5全景（南東から）



SD 2全景（北から）



As-B 軽石下水田全景（上が西）



As-B 軽石下水田北東部全景（上が西）



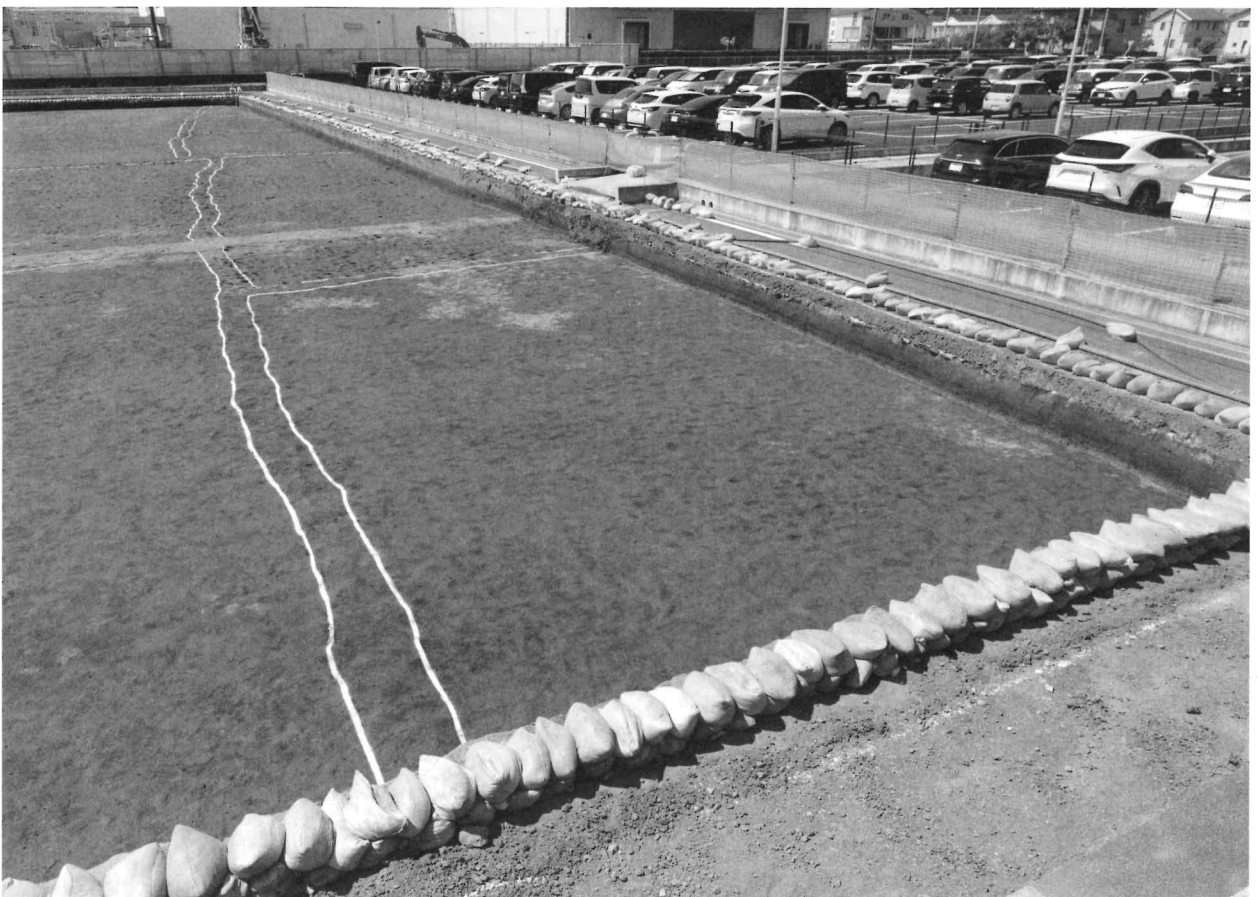
As-B 軽石下水田南東部全景（上が西）



As-B 軽石下水田南西部全景（上が西）



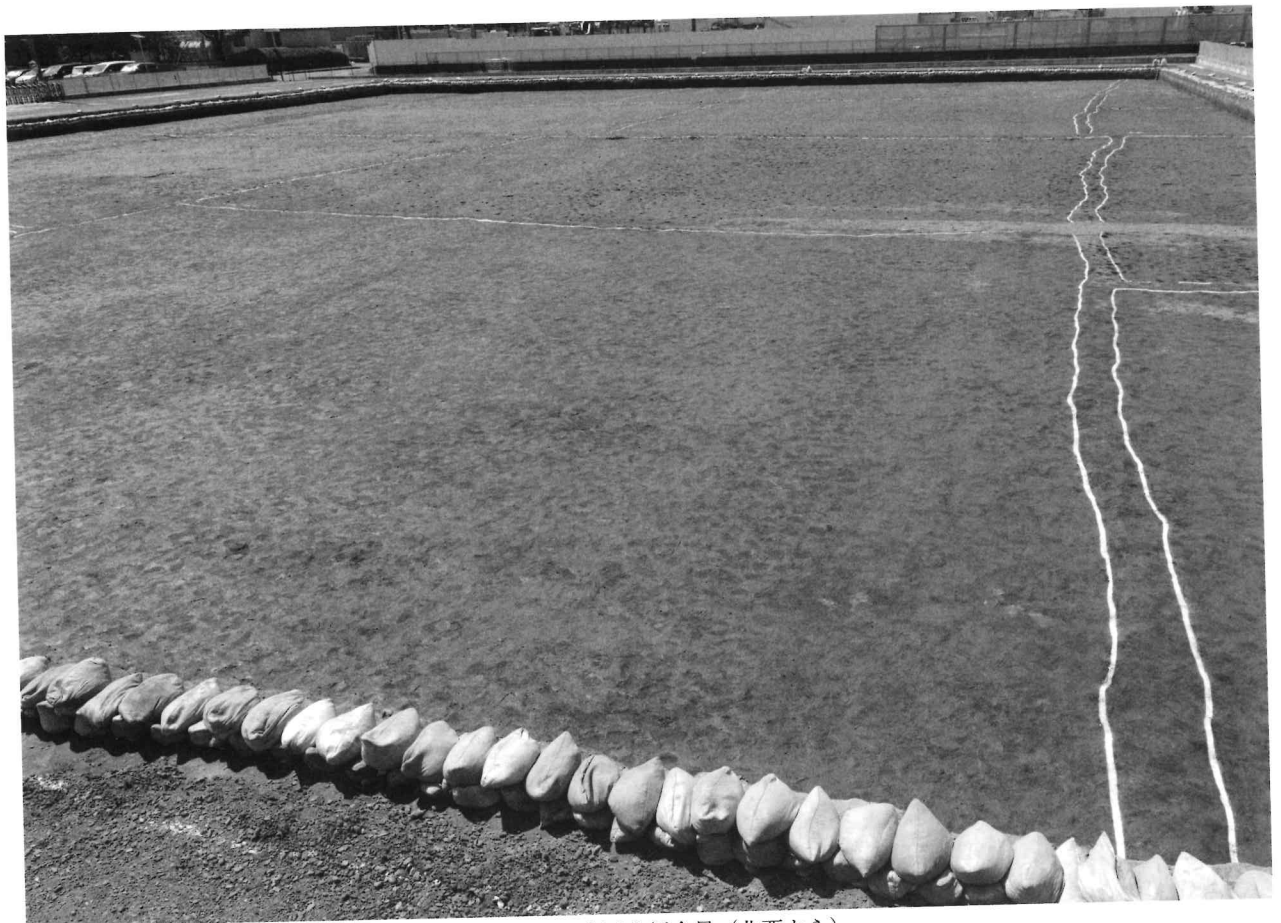
As-B軽石下水田北西部全景（上が西）



As-B軽石下水田西側全景（北から）



As-B軽石下水田西側全景（北西から）



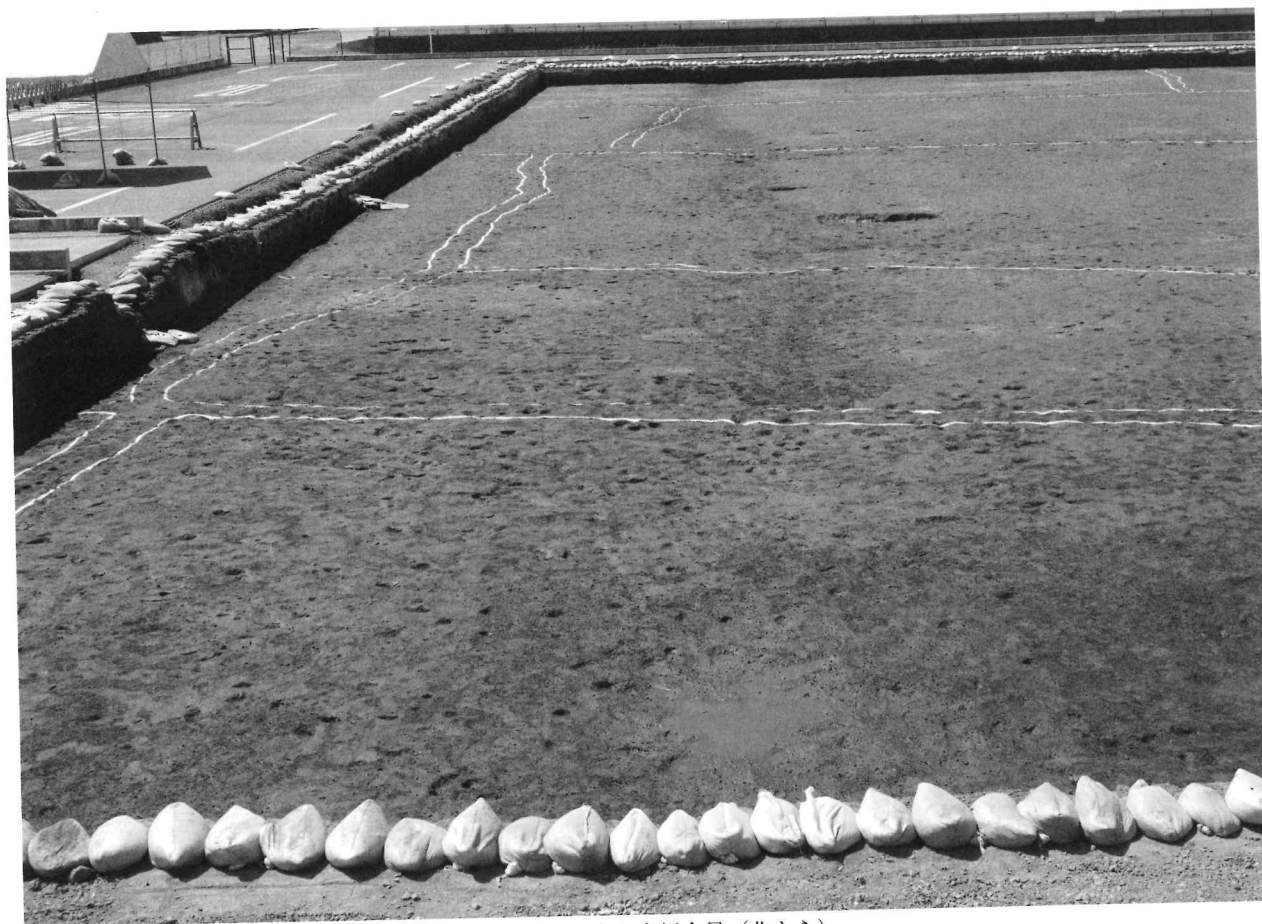
As-B軽石下水田北側全景（北西から）



As-B軽石下水田南側全景（西から）



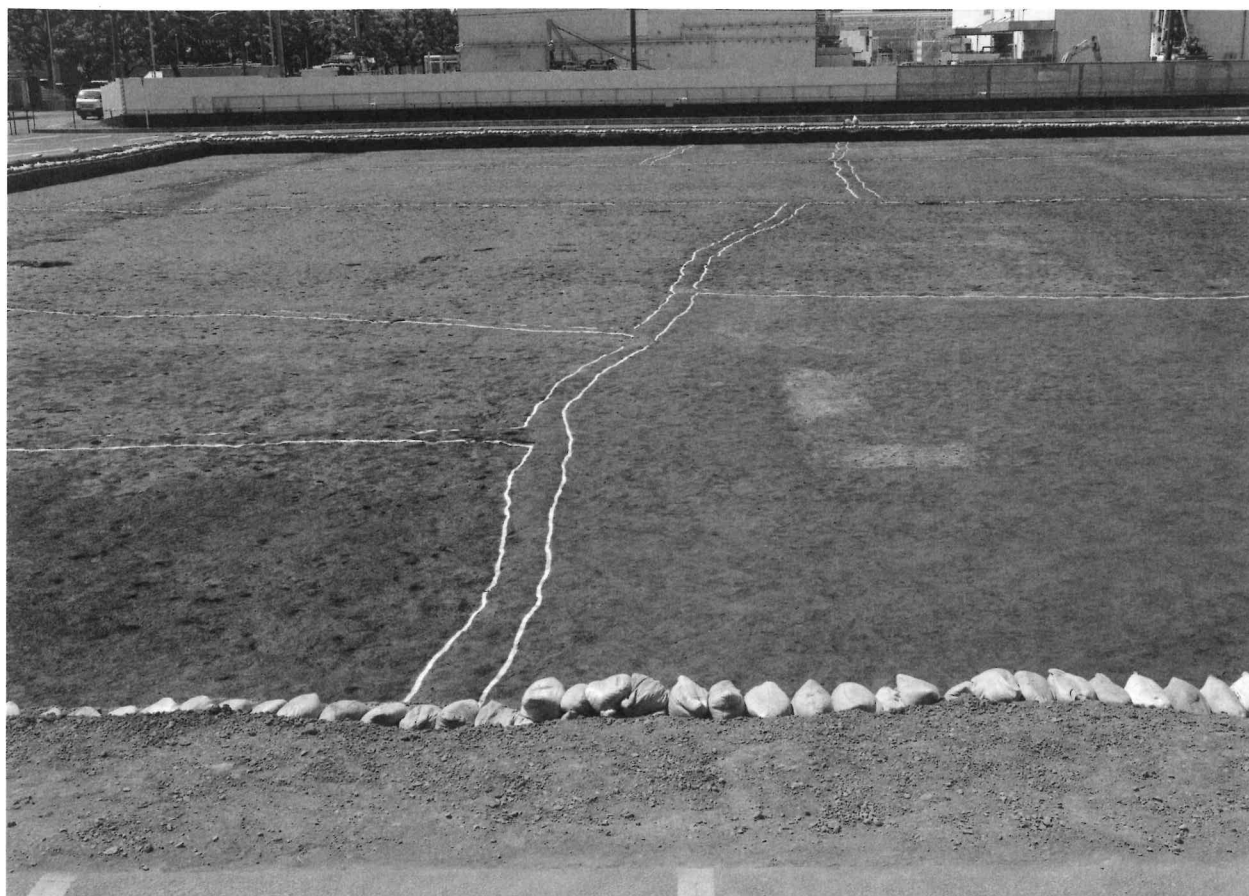
As-B軽石下水田東側全景（南から）



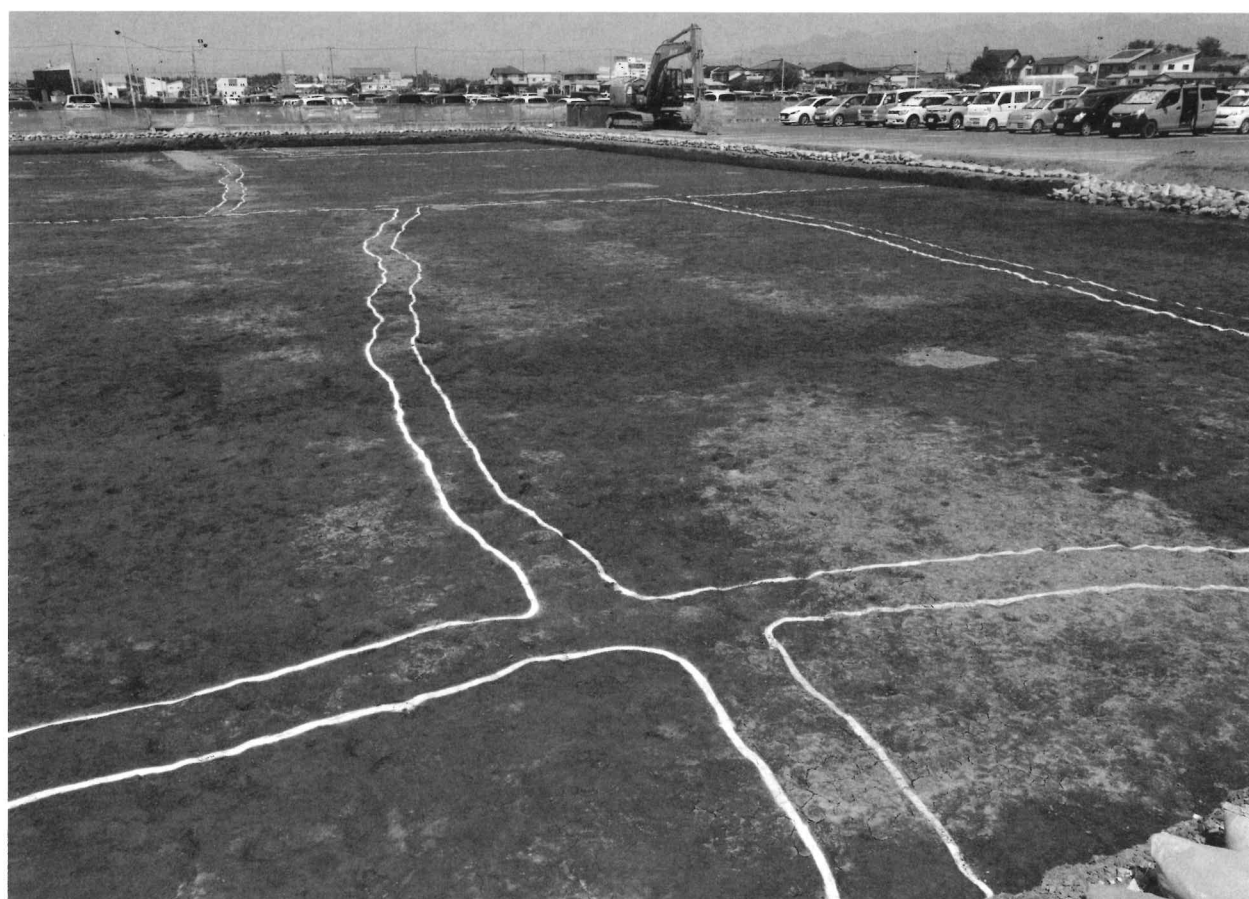
As-B 軽石下水田東側全景（北から）



As-B 軽石下水田大畦畔全景（西から）



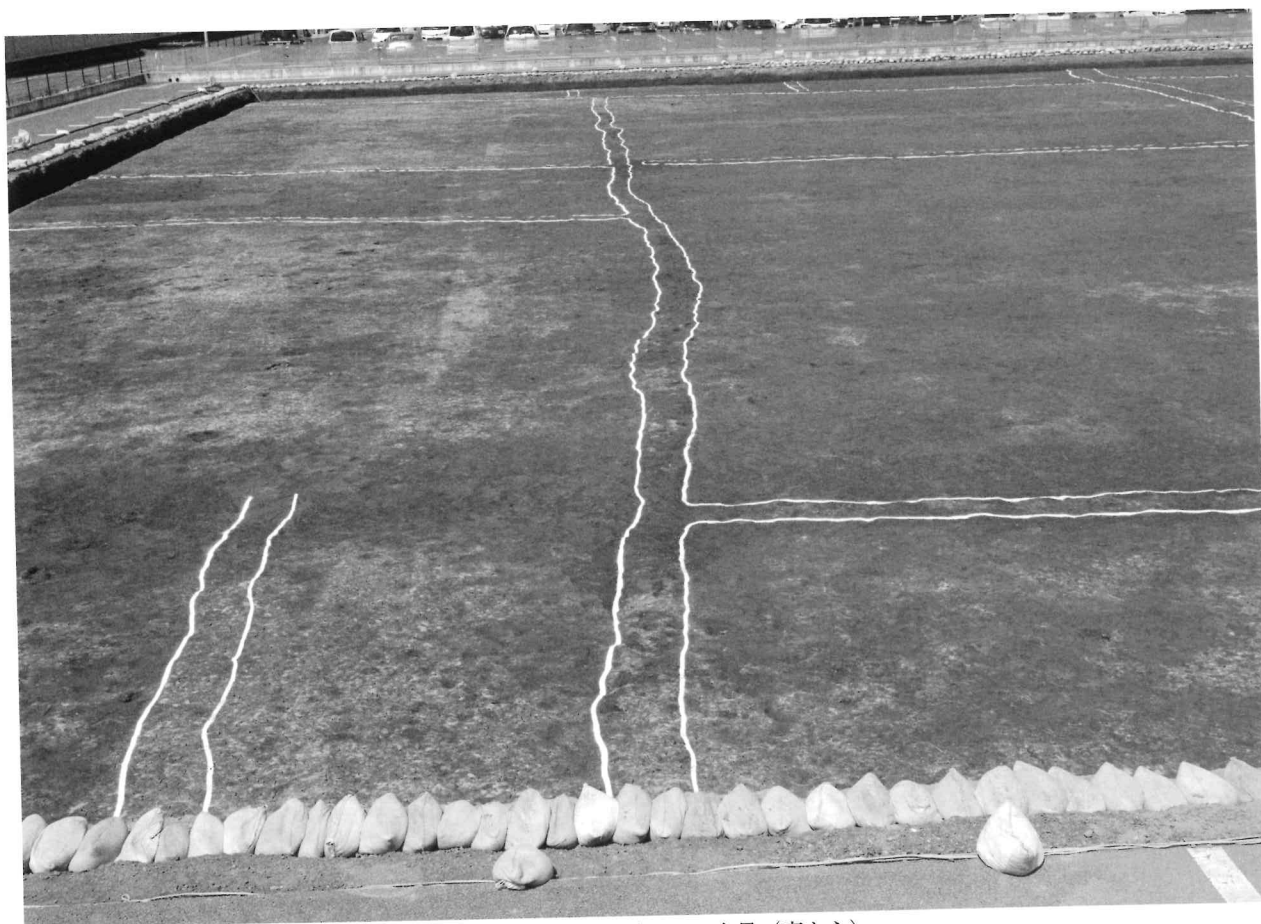
As-B軽石下水田畦畔B全景（北から）



As-B軽石下水田畦畔H全景（東から）



As-B 軽石下水田畦畔I全景（南西から）



As-B 軽石下水田畦畔O・P全景（東から）



置石 1 検出状況（北西から）



置石 2 検出状況（南西から）



耕作具痕検出状況（南西から）



作業風景（東から）



作業風景（南東から）



作業風景（南東から）



作業風景（北から）



作業風景（北から）



SD 3 - 1 (1/3)



SD 3 - 2 (1/3)



SD 3 - 3 (1/2)



SD 3 - 4 (1/4)



SD 3 - 5 (1/4)



SD 3 - 6 (1/4)



SD 3 - 7 (1/4)



SD 3 - 8 (1/4)



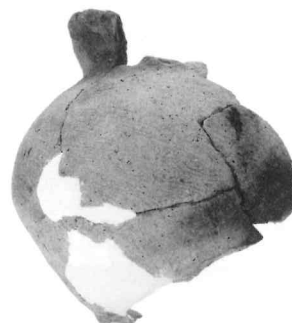
SD 3 - 9 (1/4)



SD 3 - 10 (1/4)



SD 3 - 11 (1/4)



SD 3 - 12 (1/4)



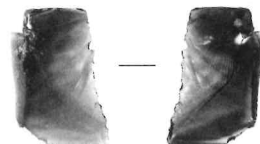
SD 3 - 13 (1/6)



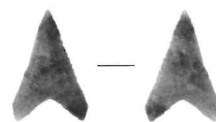
SD 3 - 14 (1/6)



第3面 - 1 (1/4)



第3面 - 2 (1/2)



第3面 - 3 (1/2)

報告書抄録

カ タ カ ナ	ハギワラヤナギノウチイセキ
書 名	萩原柳ノ内遺跡
副 書 名	協和キリン高崎工場C地区倉庫棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	－
シ リ ー ズ 名	高崎市文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第502集
編 著 者 名	佐野良平
編 集 機 関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0033 群馬県前橋市国領町2－21－12
発 行 機 関	高崎市教育委員会
発行機関所在地	〒370－8501 群馬県高崎市高松町35－1
発 行 年 月 日	2023年12月15日

フリガナ	フリガナ	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	北 緯	東 経			
ハギワラヤナギノウチイセキ 萩原柳ノ内遺跡	タカサキシハギワラマチアザヤナギノウチ 高崎市萩原町字柳ノ内 241-2、254-1、241-2先水路、 ・道路、254-1先水路	102020	873	36°20' 18	139°04' 20	20230601 ～ 20230831	3,862㎡	倉庫棟建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
萩原柳ノ内遺跡	生産	古墳時代	水路跡	S字口縁台付甕、 壺、高坏、鉢、 ミニチュア土器、 木杭	4世紀頃の水路跡
			Hr-FA洪水層下水田 溝	土師器	5世紀末～6世紀初頭の榛名山噴火 を起因とする洪水堆積物に覆われた 水田跡。 畦畔に挟まれた中規模水路を確認。
		平安時代	As-B軽石下水田	土師器 須恵器	嘉承三年、天仁元年（1108）浅間山 噴火によるAs-B軽石に覆われた条里 型区画を伴う水田跡。 坪境の大畦畔を確認。

萩 原 柳 ノ 内 遺 跡

－協和キリン高崎工場C地区倉庫棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2023年12月1日 印刷

2023年12月15日 発行

発行

高崎市教育委員会

〒371－8501 群馬県高崎市高松町35-1

TEL 027-321-1292

編集

技研コンサル株式会社

印刷

朝日印刷工業株式会社